

地域文化専攻 思想文化論

開設科目	西洋哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を 探究する。 /
 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観
 点： その問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体） 空間、時間は実体的なのかと関係的なのか、時間と因果性の方向性等、時間空間と
 時間に関する諸問題のうち、一つを取り上げて講義する。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。 /
 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観点：その問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体） 空間、時間は実体的なのかと関係的なのか、時間と因果性の方向性等、時間空間と時間に関する諸問題のうち、一つを取り上げて講義する。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 古代ギリシアの哲学関連の文献を読む。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献を正確に読む。 思考・判断の観点：文献の議論を哲学的に考察する。

授業の計画（全体） 取り上げる文献は未定。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 古代ギリシアの哲学関連の文献を読む。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献を正確に読む。 思考・判断の観点：文献の議論を哲学的に考察する。

授業の計画（全体） 取り上げる文献は未定。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋倫理思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く…とは、いったいどういうことなのだろうか。幾人かの論者たちによる問題提起を検討しながら、私たちの「生」と「死」をめぐる若干の原理的考察を試みたい。

授業の一般目標 生・死という観念のうちに映る私たちの現実を、哲学的に掘り下げる。そのために、「人間的な意味の秩序」と「自然の秩序」とのズレあるいは落差、ということ、そして、私 と他者たちとの共同性の問題に着目しながら、考え進めていきたい。

授業の計画（全体） 生と死をめぐる展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。

成績評価方法（総合） 期末レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村瀬 鋼				

授業の概要 二十世紀フランスの思想家エマニュエル・レヴィナスの思想を題材にして、レヴィナスの倫理学・哲学、および自己と他者をめぐる諸問題について講義する。 / 検索キーワード 哲学、倫理、自己、他者、レヴィナス、現象学、フランス思想

授業の一般目標 1. 現代思想において重要な位置を占めるレヴィナスの倫理学・哲学の内容を理解する。 2. レヴィナスの思想に示されている、「倫理」のある根本意義を理解する。 3. レヴィナスの思想を実例として、自己と他者をめぐるある哲学的な思考のスタイルに馴染む。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. レヴィナスの思想とその関連諸事項について、一定の知識を身に付け、その諸要点を理解する。 2. 自己と他者をめぐる諸問題とそれらについての諸観点を理解する。 思考・判断の観点： 1. 例示されるレヴィナスの文章を実際に読み、倫理学・哲学の難読テキストの読解能力を養う。 2. レヴィナスの思想を実例として、哲学的な思考法に触れ、そのような思考の実践能力を養う。

授業の計画（全体） 1. レヴィナスと現代思想 2. レヴィナスと主体性の哲学 3. レヴィナスと他者の倫理学 4. 自己と他者をめぐる諸問題

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 レヴィナス紹介
- 第 2 回 項目 レヴィナスと現象学
- 第 3 回 項目 レヴィナスと存在論
- 第 4 回 項目 存在からの逃走
- 第 5 回 項目 私 とそのエゴイズム (1)
- 第 6 回 項目 私 とそのエゴイズム (2)
- 第 7 回 項目 私 とそのエゴイズム (3)
- 第 8 回 項目 他者の問題と現代思想 (1)
- 第 9 回 項目 他者の問題と現代思想 (2)
- 第 10 回 項目 他者との関わり (1)
- 第 11 回 項目 他者との関わり (2)
- 第 12 回 項目 他者との関わり (3)
- 第 13 回 項目 他者との関わり (4)
- 第 14 回 項目 レヴィナス思想の問題点
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業終了後のレポートによる。

教科書・参考書 教科書： 授業に必要な資料は、授業時にプリントで配布する。 / 参考書： 特に指定しない。レヴィナスの主要著書および関連書については、授業時に紹介する。

備考 集中授業

開設科目	西洋倫理思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 西洋の哲学・倫理思想に関する研究発表（または文献報告）と討議を行う。

授業の一般目標 哲学・倫理学の諸問題に関して、各自の問いの水準を深化し、専門的な知見にもとづく議論を構成すること。

授業の計画（全体） 毎回、担当者による発表と、受講者全員による討議を行う。

成績評価方法（総合） 授業内における発表報告により評価する。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。受講者の課題にふさわしいものを、その都度、選択していく。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 西洋の哲学・倫理思想に関する研究発表（または文献報告）と討議を行う。

授業の一般目標 哲学・倫理学の諸問題に関して、各自の問いの水準を深化し、専門的な知見にもとづく議論を構成すること。

授業の計画（全体） 毎回、担当者による発表と、受講者全員による討議を行う。

成績評価方法（総合） 授業内における発表報告により評価する。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。受講者の課題にふさわしいものを、その都度、選択していく。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	倫理学応用論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く…とは、いったいどういうことなのだろうか。私たちが生きてある現実を分節してしまっている「所有」乃至「私有」という概念の問題性に着目しながら、私たちの「生」と「死」をめぐる今日的な諸問題の本質を探索する。いわゆる「生命倫理」への批判的入門を試みる。

授業の一般目標 「人間的な意味の秩序」と「生命(自然)の秩序」とのズレあるいは落差が、とりわけ「私的所有」という概念を結節点としながら顕在化する仕儀について考察する。いわゆる「生命倫理」の諸問題の核心をなす事柄への哲学的アプローチを試みる。

授業の計画(全体) いわゆる「生命倫理」をめくって展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。

成績評価方法(総合) 期末レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。/ 参考書：『私的所有論』, 立岩真也, 勁草書房, 1997年; その他、適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する先秦時代を共感的追体験的に理解する。そのために、当時の儀礼や習俗を復元し、それらを支えていた観念を明らかにする。史料の面で言えば、伝来文献と出土資料を有機的に関連させて分析を進める。今年度は、国君の機能を分析して、中国における国家共同体の原像をさぐる。 / 検索キーワード 古代中国 国家共同体 金文

授業の一般目標 講義を通じて、つまり史料の解説を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する 思考・判断の観点： 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する 関心・意欲の観点： 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。

授業の計画(全体) 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆との関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考える。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全く異なっていたことを確認することになると思われる。今年度は、とくに中国の研究者 晁福林、日本の研究者岡崎文夫氏の研究を意識して授業を進める。

成績評価方法(総合) レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する

教科書・参考書 教科書： なし。プリント配布 / 参考書： 講義の中で指示

メッセージ 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 人文5階 火曜日 15時から 16時

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画（全体） 前期に同じ

成績評価方法（総合） 前期に同じ

教科書・参考書 教科書：なし プリント配布 / 参考書：講義の中で指示

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 人文棟 5 階 火曜 15 時から 16 時

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小南一郎				

授業の概要 漢代は、中国思想史の上でも大きな転換点に位置している。これまでの思想史では、儒教の国教化などの問題を中心に据えて、そうした変化を分析してきた。この授業では、漢代の墓葬や祠堂に画かれ、刻されている、画像を分析することを通して、漢という時代の、思想史上の位置について考えたいと思う。文献資料から窺われるものとは異なった、漢代の人々の世界観や価値観が、そうした画像に表明されているのである。 / 検索キーワード 漢代思想、画像石、画像磚、祠堂、来世観、神仙思想

授業の一般目標 文献資料には、漢代士大夫階層に属する人々の思想が定着されているが、漢代の墓葬や祠堂に画かれ、刻されている画像からは、それとは異なる性格の観念や思考形態を抽出することができる。画像に表明されている漢人たちの価値観、生死観や来世観などの特質を分析し、そうした観念が魏晉時代以降の宗教観念にもつながっていることを論じる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：漢代の思想史を考えるための新しい視点を導入するとともに、画像資料を思想史の素材としてあつかう際の基礎的な手続きについても紹介する。 技能・表現の観点：画像資料を論文などで使用するための基礎知識を授ける（画像のトレースの仕方など）。時間があれば拓本の取り方なども紹介する。

授業の計画（全体） 画像資料を、その素材、出土地域、年代別に紹介しつつ、個々の画像の特質と、漢代の画像全体に共通する特質とを分析する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 漢代画像資料全般の紹介
- 第 2 回 項目 これまでの研究史 内容 方法論について
- 第 3 回 項目 漢代における墓葬制度の変革 内容 礼制の変革
- 第 4 回 項目 地域性の問題 内容 地方的文化伝統
- 第 5 回 項目 編年の問題 内容 画像石墓の出現と終焉
- 第 6 回 項目 山東の画像石
- 第 7 回 項目 沂南画像石墓と武氏祠堂 内容 孝子伝図の分析など
- 第 8 回 項目 南陽の豪族と画像石
- 第 9 回 項目 陝北の画像石 内容 北方異民族との関係
- 第 10 回 項目 四川の画像石と画像石棺
- 第 11 回 項目 伏羲・女力と西王母 内容 天上世界の分析
- 第 12 回 項目 漢代豪族たちの生活基盤とその思想
- 第 13 回 項目 生死観と昇仙思想 内容 靈魂のゆくえについて
- 第 14 回 項目 神仙思想との交わり
- 第 15 回 項目 魏晉の宗教信仰へのつながり

成績評価方法（総合） 画像を通して、その背後にある観念や価値観を分析する能力が得られたかどうかを評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー フランス極東学院京都研究所 075-761-3947

備考 集中授業

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 現代中国を代表する古代中国史家、晁福林氏の『先秦社会形態研究』から論文を選び精読する。 / 検索キーワード 古代中国、考古学、甲骨文、金文、

授業の一般目標 古代中国研究に必要な古代漢語、現代漢語の読解能力は言うまでもなく、論文作成に求められる史料解釈、史料操作、立論の方法などについての基本的知識を摂取する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代中国語で書かれた論文を、難読のものでも読みこなすことが出来る。 思考・判断の観点：論者の立場に立って論旨を理解した後、自分の頭でその是非を判断できるようになる。 関心・意欲の観点：中国人研究者の研究に対して、抵抗感無く接することが出来るような意欲を引き出す。

授業の計画(全体) 受講者と相談の上、適当な論文を選定して、順次読み進める。言うまでもなく、引用史料は、原典に当たって作者の理解が妥当であるか確認しつつ読む。

成績評価方法(総合) 毎回の受講態度とレポートの出来による。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：その都度指示

メッセージ 正確にかつ速くよむことが求められる

連絡先・オフィスアワー 人文棟5階 火曜日15時から16時

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期と同じ / 検索キーワード 前期と同じ

授業の一般目標 前期と同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ

授業の計画（全体） 前期と同じ

成績評価方法（総合） 前期と同じ

教科書・参考書 教科書：前期と同じ / 参考書：前期と同じ

メッセージ 前期と同じ

連絡先・オフィスアワー 人文棟 5 階 火曜日 15 時から 16 時

開設科目	日本思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 荻生徂徠の思想 徂徠は近世儒学思想の高峰、分水嶺です。儒学の政治的側面をクローズアップしましたので、「日本のマキャベリ」と言われることもあります。儒学者ですので、マキャベリほどあられもないことは言っていません。また、漢文だけではなく和文の著作もあって、当時の世態・人情を活写しています。徂徠を考察していると、現代の問題が見えてきます。/ 検索キーワード 荻生徂徠

授業の一般目標 徂徠の思想を理解します。そのことによって自己の考え方、ものの感じ方をとらえかえし、自己認識を深めます。

授業の計画(全体) 徂徠の『答問書』、『政談』、『学則』、『辨道』、『辨名』等を考察します。

成績評価方法(総合) 各授業時間の最後に 10 分程度を費やして、授業内レポートを課します(40 点)、期末試験を実施します(60 点)。

教科書・参考書 教科書：授業の際に、適宜、複写資料を配付します。/ 参考書：『近世日本社会と儒教』、黒住真、ペリかん社、2003 年；『複数性の日本思想』、黒住真、ペリかん社、2006 年；授業の際に、適宜、紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50～14:20
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 中世日本倫理思想史研究 中世日本の倫理思想史における基本的文献を読み解きつつ、人とは何か、人の生の拠りどころは何か、といった問いをめぐる倫理的思索の実態を探究します。今年度はとくに神道説話集(『神道集』、その中でも“物語的縁起”とよばれる説話群)に即して神化の契機を考え、神仏習合思想の一樣相を明らかにしたいと思います。/ 検索キーワード 中世日本倫理思想史

授業の一般目標 中世日本倫理思想史について、知識・理解を深め、関心を広げること。

授業の計画(全体) 毎回具体的な文献を読み、その思想解明を試みます。受講者には、あらかじめテキストが指示されている場合にはそれを読み、問題意識を明確にして授業に臨むこと、また、授業の終わりの10分程度で小レポートを書き提出すること、が求められます。

成績評価方法(総合) (1) 授業内の小レポート。(2) 期末試験。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

教科書・参考書 教科書：品切中につきコピーを配付しますが、次の図書を用います。『神道集』東洋文庫94、貴志正造訳、平凡社、1967年。/ 参考書：参考文献は随時授業中に紹介します。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 受講者と相談の上，講義内容を決定します。

授業の一般目標 受講者が自らの研究テーマにしたがって研鑽を積むことに、助言・指導を行います。そのことによって、受講者が修士論文を滞りなく完成させることを目標とします。

授業の計画（全体） 受講者の計画に対応します。

成績評価方法（総合） 受講者のテーマ等に応じて，適宜，対応します。一応，期末レポート 50%，出席 50%としておきます。

連絡先・オフィスアワー 大抵，研究室にありますので，電話で（あるいは e-mail で）在室を確認してからご来室ください。

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 受講者と相談の上，講義内容を決定します。

授業の一般目標 受講者が自らの研究テーマにしたがって研鑽を積むことに、助言・指導を行います。そのことによって、受講者が修士論文を滞りなく完成させることを目標とします。

授業の計画（全体） 受講者の計画に対応します。

成績評価方法（総合） 受講者のテーマ等に応じて，適宜，対応します。一応，期末レポート 50 %，出席 50 %としておきます。

連絡先・オフィスアワー 大抵，研究室にありますので，電話で（あるいは e-mail で）在室を確認してからご来室ください。

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 日本思想史の諸問題 受講生の関心に従って、日本思想史における基本的文献を採り上げ、主として内在的読解に拠り、併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら、その思想内容を具体的に解明します。 / 検索キーワード 内在的読解

授業の一般目標 日本思想史に関わる知識・理解をもち、内在的研究の方法を学び習得するとともに、自らの関心に従って問いを発見・追求すること。

授業の計画(全体) 受講者と相談の上決定します。

成績評価方法(総合) (1) 授業時間内の報告(演習)。(2) 期末レポート。

教科書・参考書 教科書：受講者と相談の上決定します。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 日本思想史の諸問題 受講生の関心に従って、日本思想史における基本的文献を採り上げ、主として内在的読解に拠り、併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら、その思想内容を具体的に解明します。 / 検索キーワード 内在的読解

授業の一般目標 日本思想史に関わる知識・理解をもち、内在的研究の方法を知り習得するとともに、自らの関心に従って問いを発見・追求すること。

授業の計画(全体) 受講者と相談の上決定します。

成績評価方法(総合) (1) 授業時間内の報告(演習)。(2) 期末レポート。

教科書・参考書 教科書：受講者と相談の上決定します。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	比較宗教論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 今年度前期の特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを扱う。シャーマン（巫女など）や呪術師・妖術師（魔女など）の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか？なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか？男神にはなぜ、その力を上回る神妃や女神が常につくのか？性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか？男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか？彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか？ / 検索キーワード 宗教、女性、シャーマン、巫女、呪術、妖術、魔女、女神、神秘、性差

授業の一般目標 「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点**：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 **関心・意欲の観点**：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **技能・表現の観点**：宗教現象に関する記述力を養うこと。 **その他の観点**：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。・映像（VHS / DVD）・解説・フリーディスカッション

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．毎回、宿題/レポートを課す。 3．学期末の試験期間中に最終レポートを課す。

教科書・参考書 教科書：授業のレジメを毎回配布する / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

開設科目	比較宗教論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 今年度後期の特殊講義は「宗教とアート」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。およそすべての宗教的現象にはアートの要素が含まれ、またおよそすべてのアートには宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか？宗教もアートも人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないのか？それは機能なのか、実体なのか？各地の宗教とアートはどのように、なぜ、何のために結びついているのか？宗教とアートはどこへ、どのように、なぜ変容するのか？ / 検索キーワード 宗教、アート、芸術、美術、芸能、舞踊、舞踏、絵画、彫刻、シャーマニズム、呪術、観光、放浪芸

授業の一般目標 「宗教とアート」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。・映像（VHS / DVD）・解説・講義またはフリーディスカッション

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。2．毎回、宿題/レポートを課す。3．学期末の試験期間中に最終レポートを課す。

教科書・参考書 教科書：授業のレジメを毎回配布する / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

開設科目	比較宗教論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村瀬ひろみ				

授業の概要 現代社会は、複雑さを増し、多様な価値観が錯綜しています。私たちの生活世界において「宗教」というものは前景には出てきませんが、世界を構築する大きなひとつの柱であることは間違いありません。この講義においては、「宗教」を自分の問題として考える感性を養います。さまざまな生活世界の問題、(それは、「性」であったり、「オカルト」や「医療」だったりします)について、「自分の問題」として受け止められるでしょうか。一緒に、さまざまな問題について考えていきましょう。

授業の一般目標 私たちの生活世界の営みにおいて、普段意識されない当たり前のことがたくさんある。しかし、視角を変えれば、多くの見方があり、考え方があ。ここでは、「他人事」の学問ではなく、「今」「ここにいる」「私」という存在から、世界を考える取り掛かりを作っていくことを目標とする。具体的には、「性」「サブカルチャー」「オカルト」などの身近な問題を通して、自分たちのアンテナを磨いていきたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代社会におけるさまざまな問題群が、自己存在とかかわるものとして理解できる。 思考・判断の観点： 身近な問題について、気づき、思考、判断することができる。 関心・意欲の観点： 積極的に授業に参加できる。

授業の計画(全体) 「性」「死」「医療」「オカルト」などのトピックスについて、身近なところにある問題点について整理していきます。題材としてサブカルチャー的なものも使っていきます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 私たちをめぐる世界 性 内容 水子、間引き、中絶からみる「性」
- 第 3 回 項目 私たちをめぐる世界 性 内容 「性」と出会う、「性」と暮らす
- 第 4 回 項目 私たちをめぐる世界 性 内容 性表現と文化、宗教
- 第 5 回 項目 私たちをめぐる世界 死 内容 「死」の表現…文化から見る
- 第 6 回 項目 私たちをめぐる世界 死 内容 死後の世界…エリザベス・キューブラー・ロスを読む
- 第 7 回 項目 私たちをめぐる世界 死 内容 オカルトという文化表象を考える
- 第 8 回 項目 サブカルチャーから見る宗教 内容 アニメに見る宗教意識
- 第 9 回 項目 サブカルチャーから見る宗教 内容 共通体験としてのマンガ
- 第 10 回 項目 サブカルチャーから見る宗教 内容 「萌え」文化を読む
- 第 11 回 項目 ケーススタディーズ 内容 性と死について
- 第 12 回 項目 ケーススタディーズ 内容 性と死について
- 第 13 回 項目 ケーススタディーズ 内容 サブカルチャーについて
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法(総合) 基本的にはペーパーテストとしますが、途中、レポートなども実施します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：世界が分かる宗教社会学入門, 橋爪大三郎, 筑摩書房, 2001 年; 文化人類学キーワード, 山下晋司・船曳建夫編, 有斐閣双書, 1997 年; 適宜プリント 配布予定。

メッセージ 積極的な参加を期待します。

開設科目	比較宗教論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 この演習は、宗教研究に関する論文を作成するための、ガイダンスと相互の情報交換・ディスカッションを主な内容とする。テーマの選定から論文の作成に至るまでの各段階において、順番にプレゼンテーションを行う。/ 検索キーワード 宗教、宗教学、記述、説明、資料、比較研究、研究方法、方法論

授業の一般目標 宗教研究に関する論文の作成とプレゼンテーションの実践練習を行い、研究内容の充実と高度化を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画 (全体) 毎回の授業(初回と最終回は多少異なる)は、次のようなかたちで進める(多少の工夫や変更はありうる)。(1)当日のテーマのプレゼンテーション、コメント、ディスカッション(2)次回テーマのプロポーサルの発表・紹介

教科書・参考書 教科書：使用しない。/ 参考書：テーマに沿って、適宜案内する。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話(研究室)：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 この演習は、宗教研究に関する論文を作成するための、ガイダンスと相互の情報交換・ディスカッションを主な内容とする。テーマの選定から論文の作成に至るまでの各段階において、順番にプレゼンテーションを行う。/ 検索キーワード 宗教、宗教学、記述、説明、資料、比較研究、研究方法、方法論

授業の一般目標 宗教研究に関する論文の作成とプレゼンテーションの実践練習を行い、研究内容の充実と高度化を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画 (全体) 毎回の授業(初回と最終回は多少異なる)は、次のようなかたちで進める(多少の工夫や変更はありうる)。(1)当日のテーマのプレゼンテーション、コメント、ディスカッション(2)次回テーマのプロポーサルの発表・紹介

教科書・参考書 教科書：使用しない。/ 参考書：テーマに沿って、適宜案内する。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話(研究室)：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

地域文化専攻 歴史文化論

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。/ 検索キーワード 日本古代史、宮都、複都制、平城宮、平城京、恭仁宮、難波宮、甲賀宮、保良宮、由義宮、文献史料、遺跡、遺構

授業の一般目標 宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**： 授業で講じられた、奈良時代の宮都個々について正確に説明できる。 **思考・判断の観点**： 授業で講じられた、奈良時代の宮都の変遷について歴史的観点から論理的に説明できる。 **関心・意欲の観点**： 歴史及び歴史学への興味・関心をいだく。 **態度の観点**： 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点**： 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。

成績評価方法（総合） 1 . 学期末にレポートを提出する。 2 . レポートの分量と内容については別途指示する。

教科書・参考書 教科書： 指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。 / 参考書： 授業中に適宜指摘する。

メッセージ 高等学校で日本史の授業を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代について高等学校修了程度の予備知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンを携帯することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 中世寺社勢力と強訴(2) 前年度は、平安時代における寺社勢力と強訴に関して、保元の乱までの時代を中心にお話しをした。そこで今年度は、これにひきつづき当該問題に関して、保元の乱以降、治承寿永の内乱前後、そして鎌倉時代前期までの時代を中心に検討したい。

授業の一般目標 (1) 当該問題について理解を深める。(2) 歴史学の研究方法の一端を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な事実関係や諸論点について理解する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。

関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

成績評価方法 (総合) 出席点、授業内レポートの内容、定期試験、それらから総合的見地に立って評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山岸 常人				

授業の概要 中世寺社建築の形態や形式は、建築固有の論理によって出来上がっているわけではない。経済・政治・文化・宗教・生活、そして社会集団など、社会の様々な側面と密接な関わりを持って、建築の形式や空間・意匠が決定され、また変化した。建築を媒介として中世社会をどのように見ることができるのか、具体的な事例から読み解いてゆきたい。

授業の計画（全体） 中世寺社建築の形態や形式は、建築固有の論理によって出来上がっているわけではない。経済・政治・文化・宗教・生活、そして社会集団など、社会の様々な側面と密接な関わりを持って、建築の形式や空間・意匠が決定され、また変化した。建築を媒介として中世社会をどのように見ることができるのか、具体的な事例から読み解いてゆきたい。

教科書・参考書 参考書：中世寺院社会と仏堂，山岸常人，塙書房，1990年；中世寺院の僧団・法会・文書，山岸常人，東京大学出版会，2004年；塔と仏堂の旅（朝日選書）寺院建築から歴史を読む，山岸常人，朝日新聞，2005年

備考 集中授業

開設科目	日本歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 「萩藩前期の藩財政」という主題で講義を行う。前期藩財政の概要・財政システム・仕置銀の成立・「仕組」(行財政改革)・寛文期藩財政の実態にわたって考究する。/ 検索キーワード 萩藩、藩財政、仕置銀、石高制、山代請紙

授業の一般目標 1. 初期藩財政について、構造的に理解する。 2. 財政システムの時期的特徴を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. この主題にかかわる研究史と講義での主張の違いが説明できる。 2. 時期的な特徴と、萩藩の固有性について説明できる。 思考・判断の観点: 1. 史料の読み、論証方法について、自分の言葉で説明できる。 2. 授業内容を批判的にみることができる。 技能・表現の観点: 1. 自分の見解を文章で論理的に表現できる。

授業の計画(全体) 「萩藩前期の藩財政」という主題について、(1) 近世前期萩藩財政の概要、(2) 財政システム、(3) 仕置銀、(4) 山代請紙の財政上の比重、(5) 寛文期藩財政の実態、等にわたって解明する。

成績評価方法(総合) 定期試験をレポートにかえ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、400字詰15枚以上。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 「日本歴史文化論演習」: 受講者の課題に近い原史料の写真版をテキストに、史料を精読していく。また、受講者の課題に基づく発表を行い、討論をして内容を深める機会も適宜織り込む。 / 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 1 . 近世史料の内難度の高いものが読解できる。 2 . 自分の主題について、史料に基づき論を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 . 難度の高いくずし字の史料が読解できる。 2 . 自分の主題に関する研究史の整理が的確にできる。 思考・判断の観点: 1 . 史料を用いての論証が精密にできる。 2 . 自分の主題をオリジナリティーをもった論として立てることができる。 技能・表現の観点: 1 . 自分の見解を論理的に文章で表現できる。

授業の計画(全体) 受講者の課題に近い原史料の写真版を用いて、精読していく。また、受講者の課題に基づく報告を行い、討論をして内容を深める機会を適宜もうける。

成績評価方法(総合) 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、400字詰15枚以上。

教科書・参考書 教科書: 特になし。適宜レジュメ・資料を配付する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 前期と同様。 / 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 前期と同様

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同様 思考・判断の観点：前期と同様 技能・表現の観点：前期と同様

授業の計画（全体） 前期と同様

成績評価方法（総合） 前期と同様

教科書・参考書 教科書：前期と同様

連絡先・オフィスアワー 前期と同様

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード よりよい修士論文の作成を目指す。

授業の一般目標 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文作成に必要な日本古代史の高度な知識を獲得する。 **思考・判断の観点：** 修士論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点：** 修士論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 **態度の観点：** 修士論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。 2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

成績評価方法（総合） 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2 . レポートの分量については別途指示する。

教科書・参考書 教科書： なし / 参考書： なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード よりよい修士論文の作成を目指す。

授業の一般目標 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文作成に必要な日本古代史の高度な知識を獲得する。 **思考・判断の観点：** 修士論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点：** 修士論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 **態度の観点：** 修士論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。 2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

成績評価方法（総合） 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2 . レポートの分量については別途指示する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する修士課程の大学院生を対象とし、修士論文の作成に向けた指導を行う。
受講者と相談しながら史料を選び、これを輪読するとともに、受講者自身の研究成果報告をおこなう。

授業の一般目標 修士論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 関係史料や先行研究について把握する。(2) 関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。
態度の観点：一研究者としての専門家意識を持つ。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した修士論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい修士論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する修士課程の大学院生を対象とし、修士論文の作成に向けた指導を行う。
受講者と相談しながら史料を選び、これを輪読するとともに、受講者自身の研究成果報告をおこなう。

授業の一般目標 修士論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 関係史料や先行研究について把握する。(2) 関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。
態度の観点：一研究者としての専門家意識を持つ。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した修士論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい修士論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 百年以来中国古代の秦漢時代(BC.220 ~ AD.220)の出土文字資料 簡牘を大量に発見してきたので、本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る秦漢史について紹介したいものである。 / 検索キーワード 出土文字

授業の一般目標 出土文字の研究によって、21世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 明代の鈔関から清代の常関への変遷をたどり、それぞれの特質をさぐる。 / 検索キーワード 鈔関、常関、戸部官僚、内務府系官僚、一年任期、原額主義、請負

授業の一般目標 (1) 明清時代の内地税関について一応の知識を得る。(2) 内地税関からわかる当時の交通・商業の特質を明らかにする。(3) 内地税関にみられる当時の政府出先徴税機関の組織原理を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：明清時代の内地税関について一応の知識を得る。 思考・判断の観点：内地税関にみられる当時の政府出先徴税機関の組織原理を探る。 関心・意欲の観点：現在とは異なる組織に興味をもつ。

授業の計画(全体) 明代の鈔関の組織、徴税方式およびその時代的変遷に関してまず明らかにし、それが明末から清初にかけて他の徴税機関と統合されていくことに言及する。そして清代の常関における組織、徴税実態を明らかにし、最後に明代鈔関と清代常関を比較してその相違点を挙げる。

成績評価方法(総合) 学期末に提出するレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。授業中にプリントを配布する。 / 参考書：明代の鈔関について：佐久間重男「明代の商税制度」、『社会経済史学』13-3, 1943 同「明代商税の本色及び折色について」、『オリエンタリカ』2, 1948 同「明代における商税と財政との関係」、『史学雑誌』65-1・2, 1956 清代の常関について：香坂昌紀「清代における関税贏餘銀両の制定について」、『集刊東洋学』14号, 1965年 同「清代游墅関の研究1・2・3・4」、『東北学院論集 歴史学・地理学』3・5・13・14号, 1972・1975・1983・1984年 同「清代における大運河の物貨流通」、『東北学院論集 歴史学・地理学』15号, 1985年 滝野正二郎「清代淮安関の構成と機能」、『九州大学東洋史論集』14号, 1985年 同「清代乾隆年間における官僚と塩商1」、『九州大学東洋史論集』15号, 1986年 同「清代の鳳陽関をめぐる物資流通」、『明清時代の法と国家』汲古書院, 1993年 など

メッセージ 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を 望む。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という機関が設置されたことによる流通上の影響について明らかにする。 / 検索キーワード 常関、徴税報告、商品流通、大豆、南北流通、遼道忌避、制度をめぐるせめぎ合い

授業の一般目標 (1) 清代の商品流通について一応の知識を得る。(2) 清代常関による商品流通の阻害作用と「促進」作用を理解する。(3) 清代常関をめぐる商人・民衆の動きを知ることによって制度と民衆のせめぎ合いを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：清代の商品流通について一応の知識を得る。 思考・判断の観点：制度とは上から押しつけられて終いではなく、それを使用するものの対応によって内実が変質していくものであり、そうした生きたものとして思考する。 関心・意欲の観点：制度とは上から押しつけられて終いではなく、それを使用するものの対応によって内実が変質していくものであり、そうした生きたものとして関心をもつ。

授業の計画(全体) 1. 一般的な明清時代における商品流通の概論を行う 2. 常関の徴税報告を利用して、清代乾隆年間における商品流通の様態を分析する。 3. 個別の常関をめぐる商品の動き方について検討する。

成績評価方法(総合) 学期末に提出するレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。授業中にプリントを配布する。 / 参考書：香坂昌紀「清代常関における関税贏余銀両の制定について」『集刊東洋学』14号, 1965年 同「清代游墅関の研究1・2・3・4」『東北学院論集 歴史学・地理学』3・5・13・14号, 1972・1975・1983・1984年 同「清代における大運河の物貨流通」『東北学院論集 歴史学・地理学』15号, 1985年 滝野正二郎「清代淮安関の構成と機能について」『九州大学東洋史論集』14号, 1985年 同「清代乾隆年間における官僚と塩商1」『九州大学東洋史論集』15号, 1986年 同「清代の鳳陽関をめぐる物資流通」『明清時代の法と国家』汲古書院, 1993年 など

メッセージ 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を 望む。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富谷 至				

授業の概要 中国古代の書写材料、特に木簡竹簡にかんして、解説する。具体的には、居延・敦煌一帯の漢代烽燧から出土した木簡を取り扱い、漢帝国の行政制度、文書行政、官吏の識字教育、法制などを考える。

授業の一般目標 中国古代の行政、司法を考えるだけでなく、ひろく中国文化、中国思想を考察し、さらには、現代日本にも繋がる東アジア文化を理解することに目標をおく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：漢代の諸制度にかんして、十分な知識を得る。 思考・判断の観点：なぜ、こういう事象が出来るのか考える。 関心・意欲の観点：現代との比較する関心をもつ。

授業の計画（全体） 一回ごとに完結したテーマを設定し、いわゆるオムニバス形式で15回の集中講義をおこなう。

成績評価方法（総合） 未定。出席人数、学年、専攻により、決定する。

教科書・参考書 参考書：木簡・竹簡の語る中国古代, 富谷 至, 岩波書店, 2003 年 ; 教科書では読めない中国史, 富谷 至, 小学館, 2006 年

備考 集中授業

開設科目	中国歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本間 寛之				

授業の概要 東アジアと南アジア・西アジア・ヨーロッパを連絡する位置にあるのが、いわゆる内陸アジアであり、その連絡する道こそがシルクロードでした。現在はイスラーム地域とチベット仏教地域とに大分されますが、このような姿が成立する以前は、宗教・文化ともに非常に多様性に富んだ世界でした。この事実は、19世紀後半以降、列強諸国による内陸アジア調査によって改めて注目されることとなりましたが、調査自体の功罪は今なお問われつづけています。本講義ではこうした近現代史的な観点も交えながら、シルクロードにおける文化交流、オアシス国家のあり方や社会、宗教などをみてみましょう。 / 検索キーワード シルクロード 東西文化交流 西域 絹の道 中央アジア 内陸アジア ユーラシア

授業の一般目標 シルクロードという諸文化をつなぐ道の姿を通して、ユーラシア諸地域間の文化交流の実態を時間的・空間的に探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 様々な文化の様態が存在することを理解する。 思考・判断の観点： シルクロード、特に中央アジア史について国家の枠を超えて相対化する。 関心・意欲の観点： 多角的な文化のあり方に関心を持つ。

授業の計画（全体） 本講義では、伝統的なシルクロード論だけでなく、地域史や近現代史の観点からも広く文化交流を見ていきます。ソグド人・高昌国・近代中央アジアと日本の関係などを取り上げる予定です。

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（30％）とレポート（70％）で行う予定です。

教科書・参考書 教科書：シルクロード，長澤和俊，講談社学術文庫，1993年；適宜プリントも配布します。 / 参考書：新版世界各国史4 中央ユーラシア史，小松久男，山川出版社，2000年

備考 集中授業

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 『龍崗秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、院生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 院生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。

成績評価方法 (総合) レポート。

教科書・参考書 教科書：『龍崗秦簡』, 整理小組, 中華書局, 2002 年

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 『龍崗秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、院生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 院生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。

成績評価方法 (総合) レポート。

教科書・参考書 教科書：龍崗秦簡, 整理小組, 中華書局, 2002 年

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 テーマ：中国史史料の研究 受講生の研究に関する史料を読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。 / 検索キーワード 中国、史料、読解、時代像

授業の一般目標 史料を読解し、そこから当該時代の歴史像を構築する力を獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国史料に関する基礎的な知識を獲得する。 思考・判断の観点：史料から歴史像を考える。 関心・意欲の観点：歴史に関心を持ち、史料そのものから歴史像を構築する意欲を持つ。 態度の観点：史料から歴史を考える態度を持つ。 技能・表現の観点：中国史料を操作する基本的技能を獲得する。

授業の計画（全体） 受講生の研究に関する史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。

成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：受講者との相談によって決定する。 / 参考書：その都度紹介する。

メッセージ 受講生は学期途中で、受講を取りやめないこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 テーマ：中国史史料の研究 受講生の研究に関する史料を読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。 / 検索キーワード テーマ：中国史史料の研究

授業の一般目標 史料を読解し、そこから当該時代の歴史像を構築する力を獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国史料に関する基礎的な知識を獲得する。 思考・判断の観点：史料から歴史像を考える。 関心・意欲の観点：歴史に関心を持ち、史料そのものから歴史像を構築する意欲を持つ。 態度の観点：史料から歴史を考える態度を持つ。 技能・表現の観点：中国史料を操作する基本的技能を獲得する。

授業の計画（全体） 受講生の研究に関する史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。

成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：受講者との相談によって決定する。 / 参考書：その都度紹介する。

メッセージ 受講生は学期途中で、受講を取りやめないこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 【19 世紀末までのロシア史の展開】9 世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した 19 世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史 を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識していた西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行なうことにしたい。

授業の一般目標 専制政治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして 19 世紀末に始まりまもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成過程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 上記の点について知識をもち、理解する。 思考・判断の観点： 上記の点について自分で深く考えてみる。 関心・意欲の観点： ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 ロシアの自然環境とその影響（1）
- 第 3 回 項目 ロシアの自然環境とその影響（2）
- 第 4 回 項目 キエフ国家の成立
- 第 5 回 項目 キエフ国家の崩壊
- 第 6 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（1） 軍事的中央集権国家の出現
- 第 7 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（2） 農奴制の形成
- 第 8 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（3） 農奴制の確立
- 第 9 回 項目 皇帝と貴族
- 第 10 回 項目 ラジーシチェフとデカブリスト
- 第 11 回 項目 スラヴ主義者対西欧主義者の大論争
- 第 12 回 項目 ゲルツェンの「ロシア社会主義」論
- 第 13 回 項目 農奴解放と人民主義運動
- 第 14 回 項目 人民主義の思想家たち
- 第 15 回 項目 人民主義運動の展開と挫折

成績評価方法（総合） レポート（読書感想文）100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

教科書・参考書 教科書： 用いない。適宜プリントを配付する。 / 参考書： 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 【ロシア革命の考察】19 世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的 インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902 年にレーニンが提起した党 組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧 においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社 会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられた ボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。 同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革 命体 制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスター リンの強権 的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。 こうした 問題を考えてみたい。

授業の一般目標 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ロシア革命について知識を得、理解を深める。 思考・判断の観 点：ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッ パの歴史に強い関心をもつ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大（1）
- 第 2 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大（2）
- 第 3 回 項目 レーニンの党組 織論
- 第 4 回 項目 ボリシェヴィキ とメンシェヴィ キの対立
- 第 5 回 項目 西欧における革 命運動の退潮
- 第 6 回 項目 1905 年革命
- 第 7 回 項目 1917 年の 2 月革命
- 第 8 回 項目 2 月革命から 10 月革命へ
- 第 9 回 項目 創建期ソヴィエ ト政府の諸政策
- 第 10 回 項目 内戦の勃発
- 第 11 回 項目 「戦時共産主 義」
- 第 12 回 項目 内戦の終結、「戦時共産主 義」の続行、農 民反乱
- 第 13 回 項目 ネット（新経済 政策）への転 換、共産党一党 独裁の完成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合） 授業外レポート 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永田 諒一				

授業の概要 ドイツ語圏宗教改革史。近年の研究動向とその諸成果を踏まえて、講義する。

授業の一般目標 ドイツ語圏宗教改革史。近年の研究動向とその諸成果を踏まえて、講義する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教改革とその時代に関する歴史的事実の修得 思考・判断の観点：近年の研究動向の把握。歴史学方法の把握。 関心・意欲の観点：宗教改革の現代的意義、そして、ヨーロッパ中世・近世の現代的意義を考える

授業の計画（全体） 1．宗教改革史に関する基本的な歴史知識の確認 2．宗教改革研究史の整理と展望 3．本論 (1) ルター：個人、支持者の戦略 (2) 民衆：信仰心、識字率 (3) 技術：活版印刷術、木版画 (4) カトリック教会：神学、組織 (5) 政府：領邦、帝国都市 4．まとめと展望

成績評価方法（総合） 授業中に課す小レポートと、学年末レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。ノートを取る。また、資料等を配布する。 / 参考書：高校の世界史の教科書の該当部分、; ドイツの宗教改革, P. ブリックレ, 教文館, 1991 年; 宗教改革の真実:カトリックとプロテスタントの社会史, 永田諒一, 講談社現代新書, 2004 年

メッセージ 学問には、他人の言うことを簡単に信用しない態度、物事を論理的に考える姿勢が大切です。（しかし、日常生活では、そのような態度・姿勢は、歪んだ性格、理屈っぽい性格として嫌われることになりかねないので、注意！）

連絡先・オフィスアワー 〒700-8530 岡山市津島中 3-1 岡山大学文学部歴史文化学（西洋史）電話：086-251-8453（研究室直通、留守電あり）E-MAIL： ngt@cc.okayama-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	西洋歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 1960年代の社会政治運動の諸相に関して、史料をもとに考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。 / 検索キーワード アメリカ、黒人。社会運動

授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業の計画(全体) できれば前・後期通年の受講が望ましい

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係 内容 アメリカ黒人社会の現状の概説
- 第 3 回 項目 南部公民権運動 (1) 内容 1965 年までの公民権運動の概説
- 第 4 回 項目 南部公民権運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 5 回 項目 南部公民権運動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 6 回 項目 ニュー・レフトの運動 (1) 内容 学生運動と公民権運動の関係の概説
- 第 7 回 項目 ニュー・レフトの運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 8 回 項目 ニュー・レフトの運動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 9 回 項目 ブラック・ナショナリズム (1) 内容 ブラックパワー運動の概説
- 第 10 回 項目 ブラック・ナショナリズム (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 11 回 項目 ブラック・ナショナリズム (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 12 回 項目 デトロイトにおける運動 (1) 内容 デトロイト都市研究史概説
- 第 13 回 項目 デトロイトにおける運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 14 回 項目 デトロイトにおける運動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

教科書・参考書 教科書：'Takin' to the Streets, Alexander Boom and Wini Breines, Oxford University Press, 2003 年；教科書販売場所：大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 1960年代の社会政治運動の諸相に関して、史料をもとに考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。/ 検索キーワード アメリカ、黒人、社会運動

授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係と前半期講義内容の解説 内容 戦後の黒人の歴史の概説
- 第 3 回 項目 1960年代基礎文献解説 内容 1965年までの基礎的史料の解説
- 第 4 回 項目 長く暑い夏 (1) 内容 1960年代都市暴動の諸相の解説
- 第 5 回 項目 長く暑い夏 (2) 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 6 回 項目 長く暑い夏 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 7 回 項目 ベトナム反戦運動 (1) 内容 ベトナム戦争史概説
- 第 8 回 項目 ベトナム反戦運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 9 回 項目 1968年の激動 (1) 内容 1968年の社会政治運動の概説
- 第 10 回 項目 1968年の激動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 11 回 項目 1968年の激動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 12 回 項目 激動の時代の保守主義 (1) 内容 「白人の巻き返し」と今日のアメリカ社会の概観
- 第 13 回 項目 激動の時代の保守主義 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 14 回 項目 激動の時代の保守主義 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

教科書・参考書 教科書：Takin' to the Streets, Alexander Bloom and Wini Breines, Oxford University Press, 2003年；教科書販売場所：大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

授業の一般目標 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

授業の計画（全体） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

成績評価方法（総合） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

授業の一般目標 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

授業の計画（全体） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

成績評価方法（総合） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 アメリカ史が直面している諸問題を批判的に検討する。具体的内容はゼミ参加者の関心にしたがって決定する / 検索キーワード アメリカ史

授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点： 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 今後のゼミの進行について打ち合わせをする。受講希望者は必ず出席のこと

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス : yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水 : 11時50分から12時50分

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 アメリカ史が直面している諸問題を批判的に検討する。具体的内容はゼミ参加者の関心にしたがって決定する / 検索キーワード アメリカ史

授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点： 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 今後のゼミの進行について打ち合わせをする。受講希望者は必ず出席のこと

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス : yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水 : 11時50分から12時50分

地域文化専攻 現代社会分析論

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 企業と地域社会の関わりを、企業の社会的責任や社会貢献活動に焦点を当てて、事例を紹介しながら考察する。 / 検索キーワード 産業社会、企業組織、企業の社会的責任（CSR）、企業の社会貢献活動、地域社会

授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を理解しながら、現代社会の仕組みと問題点を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業組織の社会貢献活動についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：企業の社会活動や経営理念について関心を持つ 態度の観点：身近な社会を企業活動から知る

授業の計画（全体） 企業の社会的責任や企業の社会貢献活動を、具体的な事例をみながら理解し、地域社会と企業の望ましい共存のあり方を探る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 産業社会と社会学の成立
- 第 2 回 項目 企業活動の現況
- 第 3 回 項目 企業組織の経営理念
- 第 4 回 項目 企業家のフィランソロピー 事例 1
- 第 5 回 項目 企業家のフィランソロピー 事例 2
- 第 6 回 項目 企業とステークホルダー
- 第 7 回 項目 ステークホルダーとしての地域社会 (1)
- 第 8 回 項目 ステークホルダーとしての地域社会 (2)
- 第 9 回 項目 産業化と産業公害
- 第 10 回 項目 産業化と環境問題
- 第 11 回 項目 企業の社会的責任
- 第 12 回 項目 宇部市における産業化
- 第 13 回 項目 宇部興産の地域貢献活動
- 第 14 回 項目 宇部方式による環境浄化
- 第 15 回 項目 企業組織と地域社会

成績評価方法 (総合) 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 教科書：企業の社会貢献とコミュニティ，”三浦典子著”，ミネルヴァ書房，2004 年；三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004 年 / 参考書：適宜紹介する

メッセージ できる限り前期後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 日本における企業家の経営理念と企業の社会的貢献活動を中心に、企業組織とコミュニティの関わりを、具体的な事例を紹介しながら考察する / 検索キーワード 日本的経営、企業の社会貢献、企業フィランソロピー、企業市民性

授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を知り、企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、地域社会における一市民としての企業組織の可能性について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業の社会貢献についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：企業の社会貢献活動について関心を持つ 態度の観点：身近な企業の社会貢献活動に目を向けるようになる

授業の計画（全体）日本における企業家の経営理念と企業の社会貢献活動の実態を明らかにし、企業組織と地域社会との共存の可能性を探る

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本的企業フィランソロピー
- 第 2 回 項目 近江商人の家訓
- 第 3 回 項目 日本的経営理念の源流
- 第 4 回 項目 日本的経営理念の源流
- 第 5 回 項目 企業家の社会貢献 事例 1
- 第 6 回 項目 企業家の社会貢献 事例 2
- 第 7 回 項目 企業家の社会貢献 事例 3
- 第 8 回 項目 企業とステークホルダー
- 第 9 回 項目 企業のステークホルダーとしての地域社会
- 第 10 回 項目 メセナとは
- 第 11 回 項目 企業メセナ協議会の活動と展開
- 第 12 回 項目 地域メセナの活動と展開
- 第 13 回 項目 文化によるまちづくり
- 第 14 回 項目 企業組織とコミュニティ
- 第 15 回 項目 まとめ「公と私」

成績評価方法（総合）出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ、三浦典子、ミネルヴァ書房、2004年；その他適宜紹介する

メッセージ 前期・後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	堤マサエ				

授業の概要 本講義では、人間・家族と現代社会の諸特質を中心にテキスト、具体的な資料から学ぶ。ここでは、前半に私たちの身近な集団である家族について、その捉え方、分類、変動、特徴、家族形成、関係、問題把握などについて学び、後半は少子高齢化、技術革新、情報化、国際化など現代社会の諸特質、社会変動の基本的な理論を講義する。 / 検索キーワード 家族、変動、社会、日本

授業の一般目標 現代社会を生きる私たちは、今どのような社会状況にあるかを知り、これからの社会がどうあることがよいかを主体的に考える力を身につけることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：事実を客観的に見られる力 思考・判断の観点：社会科学的な考え方 関心・意欲の観点：社会的な出来事にたいする関心が高い 態度の観点：熱心、まじめな態度
その他の観点：総合的な力

授業の計画（全体） 前半 私たちの身近な社会集団である家族について、どのように捉えればよいかを客観的に考える。人間を捉える際の重要な背景となる家族の動態的把握、歴史的変化を理解し、母性、父性、子ども、高齢者の特性について学習する。後半 現代に生きる私たちは今、どのような社会状況にあるかを知り、これからの社会がどうあることがよいかを考える。現代社会はさまざまな視点からその特質をクローズアップすることができる。その実態を捉える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人の一生と家族 < BR > 家族の捉え方 内容 家族の基本的な捉え方
- 第 2 回 項目 家族の変動と日本の特徴 内容 現代家族変動論
- 第 3 回 項目 家族形成・家族問題 内容 家族の成立と発達、生活設計論
- 第 4 回 項目 ライフサイクルとライフコース 内容 家族の動態的見方を考える
- 第 5 回 項目 母性・父性 内容 親役割を考える
- 第 6 回 項目 子どもの問題 内容 子どもの成長・発達
- 第 7 回 項目 家族問題とストレス 内容 家族危機について考える
- 第 8 回 項目 社会学とは < BR > 今の社会は 内容 社会学の成立と特徴、社会学方法論、理論
- 第 9 回 項目 人口の変化 < BR > 科学技術の発展 内容 未来予測、労働の変化
- 第 10 回 項目 福祉国家と福祉社会 内容 身近なごみ問題から地球環境問題
- 第 11 回 項目 情報化社会と技術革新 内容 産業構造の変化と情報化
- 第 12 回 項目 国際化 内容 国際化の中の暮らしの変化
- 第 13 回 項目 地位と役割 内容 役割論
- 第 14 回 項目 地域社会 内容 変わりつつあるある地域社会
- 第 15 回 項目 現代社会と女性 < BR > 総括 内容 生き方の変化 < BR > まとめ

成績評価方法（総合） 出席・レポート・表現力

教科書・参考書 教科書：新版・社会福祉学習双書 2007「社会学」、全国社会福祉協議会、全国社会福祉協議会、2007 年 / 参考書：母性の社会学、船橋・堤マサエ、サイエンス社、2005 年；母子の心理・社会学、青木・平澤他編堤他著、日本看護協会、2003 年

メッセージ 身近な家族、自分の人生を考えてください。日頃、新聞やマスメディアの情報に関心を持ち、日本、世界の動向を知るように心がけてください。

備考 集中授業

開設科目	地域社会計画論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 この授業では、コミュニティの概念を整理した上で、戦後日本社会（地域社会）の変動を概観しながら、コミュニティ論の展開とコミュニティ研究の変遷に焦点を合わせる。「コミュニティの理念と現実」が講義全体を貫くテーマである。／検索キーワード コミュニティ、アソシエーション、町内会・自治会、住民運動、コミュニティ行政、ボランティア・アソシエーション、パーソナル・ネットワーク、エスニシティ、市民活動

授業の一般目標 （１）コミュニティの概念を通して、戦後日本社会（地域社会）の変動と日本社会が抱える課題を理解する。（２）コミュニティ論およびコミュニティ研究の現代的意義について考える。

授業の計画（全体） 戦後日本社会（地域社会）の変動の中で、コミュニティ論およびコミュニティ研究がどのように展開され、いかなる現実的課題と向き合おうとしたのかという点を明らかにする。併せて、コミュニティ論の現代的意義に触れる。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 コミュニティの概念
- 第 3 回 項目 社会変動とコミュニティ
- 第 4 回 項目 社会変動とコミュニティ(続き)
- 第 5 回 項目 町内会・自治会とコミュニティ
- 第 6 回 項目 町内会・自治会とコミュニティ(続き)
- 第 7 回 項目 町内会・自治会とコミュニティ(続き)
- 第 8 回 項目 コミュニティ形成の理論
- 第 9 回 項目 コミュニティ行政の展開
- 第 10 回 項目 ボランティア・アソシエーションとコミュニティ
- 第 11 回 項目 ボランティア・アソシエーションとコミュニティ(続き)
- 第 12 回 項目 パーソナル・ネットワークとコミュニティ
- 第 13 回 項目 エスニシティとコミュニティ
- 第 14 回 項目 コミュニティ論の現在と将来
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 定期試験（論述式） 50％ 出席 40％ 小レポート・授業参加度 10％

教科書・参考書 教科書：教科書は特に使用しない。／参考書：コミュニティ論，倉沢進，放送大学教育振興会，1998年；都市コミュニティの理論，奥田道大，東京大学出版会，1983年；町内会と地域集団，倉沢進・秋元律郎ほか，ミネルヴァ書房，1990年；インナーシティのコミュニティ形成，今野裕明，東信堂，2001年；女性と協同組合の社会学，佐藤慶幸，文真堂，1996年；その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3階 307 室

開設科目	地域社会計画論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 現代日本における都市政策、地域政策の展開と変容を地域社会学の視点から考察し、その課題について考える。 / 検索キーワード 地域社会学、都市、都市政策、地域政策

授業の一般目標 (1) 現代日本における都市政策、地域政策の展開と変容について理解を深める。(2) 地域社会学の視点から、都市政策、地域政策の現状と課題を考察する。

授業の計画(全体) 地域社会学の視点から、現代日本の地域政策、都市政策の展開と変容、その課題について考察していく。講義科目ではあるが、対話しながらの演習形式で授業を進めていく。受講生には、テキストにそって適宜課題を与え、授業の中で報告してもらうので、あらかじめ了解してほしい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進め方についての説明
- 第 2 回 項目 都市計画と社会学
- 第 3 回 項目 都市政策の基本視角
- 第 4 回 項目 都市政策の基本視角(続き)
- 第 5 回 項目 災・公害・環境政策
- 第 6 回 項目 災・公害・環境政策(続き)
- 第 7 回 項目 災・公害・環境政策(続き)
- 第 8 回 項目 住宅・交通政策
- 第 9 回 項目 住宅・交通政策(続き)
- 第 10 回 項目 福祉・医療政策
- 第 11 回 項目 地域情報政策
- 第 12 回 項目 コミュニティ政策
- 第 13 回 項目 コミュニティ政策(続き)
- 第 14 回 項目 都市行政の再編
- 第 15 回 項目 課題レポート

成績評価方法(総合) 課題レポート 30% 出席 40% 授業外レポート・報告 30%

教科書・参考書 教科書: 日本の都市社会第4巻 都市の諸政策, 和田清美ほか, 文化書房博文社, 2007年 / 参考書: 日本の都市社会 第1巻~第3巻, 北川隆吉ほか, 文化書房博文社, 2007年; 地域社会の政策とガバナンス(地域社会学講座3), 岩崎信彦、矢澤澄子ほか, 東信堂, 2006年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 私たち人間は、時間のなかで毎日の正確をおくっている。この指針には時計の時間が大きな働きをしている。しかし、時計の時間は、天文的な時間に基づいているわけであるが、それとは別に一年の中で決められた祝祭日、休日、日々の労働時間などさまざまな社会的な時間が存在し、この社会的時間のなかでわれわれ人間は生活している。この講義では、社会学において社会的時間の構成や作用などを研究してきた文献を通して時間の社会学の歴史を学び、さらに現在の社会において社会的時間をどのように利用していけばよいかを考えてみたい。/ 検索キーワード 社会的時間、リズム、スピード、生活時間

授業の一般目標 1) 社会的時間の種類とその成り立ち、働きを理解する。2) デュルケームやマートンなど時間を社会学的研究してきた学者たちの時間社会学の理論と研究成果を学ぶ。3) 現在において社会的時間をどのように利用していけばよいかの考え方を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な社会的時間の知識や時間の社会学の知識を学び、理解することができる。思考・判断の観点：社会的に存在する社会的時間現象などを自分自身で考え、それがもつ構造面と機能面を考え、どのような意義があるか判断できる。関心・意欲の観点：社会現象の中での社会的な出来事への関心をもつことができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義のねらい 内容 今回の授業の狙いと全体の流れを説明する
- 第 2 回 項目 現代社会と社会的時間 内容 現代社会の変化を時間という視点で捉え、時間学的課題を考える。
- 第 3 回 項目 デュルケームの時間の社会学(1) 内容 『宗教生活の原初形態』における社会的時間
- 第 4 回 項目 デュルケームの時間の社会学(2) 内容 デュルケームの社会学の中で時間の視点の位置を考える
- 第 5 回 項目 ソローキンの時間の社会学(1) 内容 ソローキンにとって時間とは何であったか。彼の社会学の中で考える。
- 第 6 回 項目 ソローキンの時間の社会学(2) 内容 移動論と社会的時間論
- 第 7 回 項目 アルヴァックスの時間の社会学 内容 集合的記憶とは何か
- 第 8 回 項目 ギュルヴィッチの時間の社会学 内容 多元的な社会的時間の存在
- 第 9 回 項目 マートンの時間の社会学 内容 社会的に期待される持続性とは何か、マートンにとって時間とは何か。
- 第 10 回 項目 ムーアの時間の社会学 内容 社会生活の時間と時間整序
- 第 11 回 項目 ゼルバベルの時間の社会学 内容 時間的規則性、かくれたリズム
- 第 12 回 項目 エリアスの時間の社会学 内容 時間決定と時間体験
- 第 13 回 項目 蔵内数太の時間の社会学 内容 前集団、現集団、後集団
- 第 14 回 項目 時間の社会学の課題
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義の全体的なまとめ

教科書・参考書 参考書：自殺論(中公文庫)、デュルケーム著；宮島喬訳、中央公論社、1985年；社会理論と社会構造、ロバート.K. マートン [著]；森東吾 [ほか] 訳、みすず書房、1961年；宗教生活の原初形態、デュルケーム、岩波書店、1975年；社会理論と社会構造、マートン、みすず書房、1961年；自殺論、デュルケーム、中央公論社、1985年；かくれたリズム、ゼルバベル、サイマル出版会、1984年

メッセージ 参考書は最低1冊は、該当箇所を読んでおくこと。

連絡先・オフィスアワー 辻研究室(309室)

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 現代の社会は、グローバル化や情報化等の進行により、産業社会構造そのものが大きく変化して、人間の時間意識の変化を余儀なくされている。現代社会は、社会的時間レベルで見ると、車やパソコンのモデルチェンジにみられるように、生産と消費のスピードがますます加速化しており、人間はそれに適応しなければならないが、実際にはそのなかでますますストレスを背負い、その結果いろいろな病理現象を生みつつある。その一方現代社会は、成熟社会や高齢社会になるにつれ、青年期や高齢期の時間帯が長期化して、青年の中には大人になることを「延長化」し、高齢者は平均寿命の伸びによって高齢期の「延長化」を迎えて、いままで経験しなかったを抱えている。この講義では、現代社会が抱える問題を「時間社会学」のレベルから迫り、今後、時間の視点から現代社会が直面する問題、人間の時間意識の問題について今後どのような方向づけが必要かを考えてみたい。/ 検索キーワード 時間意識、社会的時間、社会的速度、タイミング、持続性、時間政策

授業の一般目標 (1) 現代社会の変化を時間学のレベルから研究する視点を学ぶ。(2) 青年期と高齢期の対照的な時間帯に共通する時間の長期化を通して現代人が直面する問題が何なのかを学ぶ。(3) 時間して視点からの時間政策の方策について考える姿勢を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代社会の時間学的見方に関する知識を学び、時間学のアプローチについて理解することができる。思考・判断の観点：自ら進んで社会的時間や現代社会における時間的思考や判断が出来ること。関心・意欲の観点：生活の中で社会的時間に関心を持ち、その現象的理解とともに問題点を意欲的に取り組むことができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の狙い
- 第 2 回 項目 現代社会の時間論的課題 内容 情報化、高齢化、グローバル化、社会的時間の変化と課題
- 第 3 回 項目 時間意識の近代化 内容 機械時計の登場と「時は金なり」
- 第 4 回 項目 現代社会と時間意識 内容 バーチャルの時間感覚
- 第 5 回 項目 若者の時間感覚 内容 モラトリアムの長期化：フリーター、ニート問題と時間
- 第 6 回 項目 高齢者の時間感覚 内容 生涯現役と長寿化の課題
- 第 7 回 項目 東アジアの時間と時間感覚 内容 直線的時間と円環的時間、文化的時間の問題
- 第 8 回 項目 生活時間の変化 内容 生活時間調査の分析
- 第 9 回 項目 労働時間の変化 内容 ワークライフバランスを求めて
- 第 10 回 項目 社会的時間とタイミング 内容 時機とは何か、チャンスを生かす
- 第 11 回 項目 社会的速度と時間意識 内容 スピードとストレス
- 第 12 回 項目 社会的持続性と時間 内容 人間にとって持続性とは何か
- 第 13 回 項目 時間とコミュニティ 内容 時間によるコミュニティの安定
- 第 14 回 項目 時間政策の課題 内容 新たな政策課題としての時間政策
- 第 15 回 項目 今回の講義のまとめ

教科書・参考書 参考書：高齢者ラベリングの社会学：老人差別の調査研究, 辻正二著, 恒星社厚生閣, 2000年；高齢者ラベリングの社会学, 辻正二, 恒星社厚生閣, 2000年；時間意識の近代, 西本郁子, 法政大学出版会, 2006年

メッセージ 参考書は、1冊は読んでおいてください。

開設科目	現代コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 コミュニケーションが問われる場合、「情報の共有」や「情緒的結合」が理念的前提とされていることが少なくない。しかし、こうした前提は、必ずしも現実的ではないし、諸々のコミュニケーション現象を説明する上で、困難に直面してしまうことになる。授業では、これらの観点から古典的コミュニケーション論の限界と、新しいコミュニケーション論の出発点について、検討を進めていく。/
検索キーワード コミュニケーション、メディア、公共圏

授業の一般目標 1. 古典的コミュニケーションモデルの限界を認識する 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する 3. 公共圏や民主主義、社会システムなどについて、新たな議論を展開するための基礎をつくる 4. パワーポイントを用いたプレゼンテーションやメーリングリストによる討論の方法を学ぶ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業方法の解説 コミュニケーションをめぐるロマン主義的誤謬 授業外指示 メーリングリストの登録
- 第 2 回 項目 メディアの役割 内容 機械論的コミュニケーション論の限界 授業外指示 メーリングリストによる課題提出
- 第 3 回 項目 メディアとしての貨幣 内容 第1章1, 2, 3
- 第 4 回 項目 現代社会におけるリスク 内容 第1章4, 5
- 第 5 回 項目 パーソナル・メディア 内容 第2章1, 2, 3
- 第 6 回 項目 マス・メディアと電子メディア
- 第 7 回 項目 第1中間考察 内容 ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第 8 回 項目 相互行為と間主観性 内容 第3章1, 2
- 第 9 回 項目 コミュニケーションと合意 内容 第3章3, 4, 5
- 第 10 回 項目 真理・規範・権力・影響力 内容 第3章6, 7, 8
- 第 11 回 項目 第2中間考察 内容 ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第 12 回 項目 強制的権力と生成的権力 内容 第4章1, 2
- 第 13 回 項目 「公共圏」の変容 内容 第4章3, 4
- 第 14 回 項目 社会的コミュニケーションの構造 内容 第5章1, 2
- 第 15 回 項目 原初的コミュニケーションによる自己組織化 内容 第5章3, 4, 5

成績評価方法(総合) 授業外レポート40点と学期末試験60点の総合点によって評価する。

教科書・参考書 教科書: コミュニケーション・メディア, 正村俊之, 世界思想社, 2001年

開設科目	現代コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 大学院生専用の授業科目として、家族社会学の講義を行う。 / 検索キーワード 少子高齢社会、パラサイト・シングル、若年フリーター

授業の一般目標 1. 未婚化や晩婚化をめぐる現状と社会学的分析について学ぶ 2. 日本における近代家族の形成過程について学ぶ 3. 性やジェンダーをめぐる世代間ギャップ、世代内ギャップについて考察する

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 家族愛のパラドクス
- 第 2 回 項目 家族への思いこみ
- 第 3 回 項目 近代家族の基本的性格
- 第 4 回 項目 近代家族の危うさ
- 第 5 回 項目 近代家族を支える装置
- 第 6 回 項目 近代家族の成立と形成
- 第 7 回 項目 近代社会における愛情の意味
- 第 8 回 項目 母性愛の形成
- 第 9 回 項目 恋愛結婚と近代家族
- 第 10 回 項目 家事労働の基本的性格
- 第 11 回 項目 家事労働の意味
- 第 12 回 項目 家事労働とジェンダー
- 第 13 回 項目 現代化と家族
- 第 14 回 項目 現代家族の変貌
- 第 15 回 項目 現代家族の危機

開設科目	現代コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	土場 学				

授業の概要 水が水素と酸素の結びつきでできているように、「社会」は人と人のあいだの「コミュニケーション」でできている。したがって、「社会」学とは、「コミュニケーション」学でもある。コミュニケーションを見ることによって、社会が見えてくる。本講義では、現代社会学のコミュニケーション理論を通じて、こうした社会 = コミュニケーションの見方を理解することを目的とする。

授業の一般目標 1. コミュニケーションという概念を手がかりにして社会を捉える視点を学ぶ。 2. 現代社会学のコミュニケーション理論を理解する。 3. コミュニケーション理論を土台にして現代社会を分析する方法を学ぶ。

授業の計画(全体) 全体として、三部構成をとる。第一部：社会とコミュニケーション(1～3)では、社会学が捉えるコミュニケーションとはなにかについて考察する。第二部：現代社会学におけるコミュニケーション(4～8)では、ユルゲン・ハーバーマスとニクラス・ルーマンのコミュニケーション理論を中心に、現代社会学のコミュニケーション理論について考察する。第三部：現代社会におけるコミュニケーション(9～15)では、ハーバーマスとハンナ・アーレントの公共圏論などを手がかりに、マクロ社会レベルにおけるコミュニケーション・ネットワークの現代的意味について考察する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに：社会 = コミュニケーション
- 第 2 回 項目 相互行為としてのコミュニケーション(1)
- 第 3 回 項目 相互行為としてのコミュニケーション(2)
- 第 4 回 項目 コミュニケーション的行為の理論(1)
- 第 5 回 項目 コミュニケーション的行為の理論(2)
- 第 6 回 項目 コミュニケーション・システムの理論(1)
- 第 7 回 項目 コミュニケーション・システムの理論(2)
- 第 8 回 項目 ミクロからマクロへ：システムと公共圏
- 第 9 回 項目 公共圏としてのコミュニケーション・ネットワーク
- 第 10 回 項目 民主主義における公共圏の役割
- 第 11 回 項目 市民的公共圏の形成と変容
- 第 12 回 項目 民主主義と討議倫理(1)
- 第 13 回 項目 民主主義と討議倫理(2)
- 第 14 回 項目 高度情報社会と新たな公共圏
- 第 15 回 項目 おわりに

成績評価方法(総合) 最終試験 60%、平常点(授業内レポート等) 40%

教科書・参考書 教科書：特に指定しない/参考書：現代思想の冒険者たち 27 ハーバーマス, 中岡成文, 講談社, 1996 年

備考 集中授業

開設科目	社会生活伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 社会生活伝承論は、現代社会の諸問題からテーマを拾い、民俗学の手法を用いて検討することをめざしています。この授業では、「現代民俗学は可能か」と題して、宮田登著『怖さはどこからくるのか』を用い、現代社会(とくに都市社会)のありようを民俗を手がかりにして読み取ることにします。
/ 検索キーワード 民俗学 現代民俗 怪異 民俗的心性

授業の一般目標 1. 現代民俗とは、どのように定義されるものか、理解する。 2. 民俗から現代社会を理解する方法について、考える。 3. 民俗または民俗学から見れば、現代社会はどのような社会と捉えられるか、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗の性格や民俗学の一般的な内容について知る。 思考・判断の観点: 1. 民俗を通じて現代社会のありようを考える。 態度の観点: 1. 授業によく出席して、必要な課題に応える。

授業の計画(全体) 「現代民俗学は可能か」と題して、(1) 民俗学の形成過程と民俗学の方法 (2) 都市社会の捉え方とその性格、(3) 「シロ(白)」の民俗と民俗的再生観、(4) 終末観と現代社会、に区分して、進める。各週の具体的な内容は、初回の授業時に示す。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨(問題設定)と授業方法についての説明 明
- 第 2 回 項目 民俗学の形成過程と民俗学の方法 (1) 内容 具体的内容は第1回授業時に提示する。(以下同様)
- 第 3 回 項目 民俗学の形成過程と民俗学の方法 (2)
- 第 4 回 項目 民俗学の形成過程と民俗学の方法 (3)
- 第 5 回 項目 都市社会の捉え方とその性格(1)
- 第 6 回 項目 都市社会の捉え方とその性格(2)
- 第 7 回 項目 都市社会の捉え方とその性格(3)
- 第 8 回 項目 「シロ」の民俗と民俗的再生観(1)
- 第 9 回 項目 「シロ」の民俗と民俗的再生観(2)
- 第 10 回 項目 「シロ」の民俗と民俗的再生観(3)
- 第 11 回 項目 終末観と現代社会(1)
- 第 12 回 項目 終末観と現代社会(2)
- 第 13 回 項目 終末観と現代社会(3)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) 1. 授業内容へのコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行います。 2. 欠席は欠格条項(全体の75%以上の出席がないと期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届け出により認めます。)

教科書・参考書 教科書: 怖さはどこからくるのか, 宮田登, 筑摩書房(ちくまプリマーブックス), 1991年; 必要に応じてプリント資料を配布する。 / 参考書: 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部棟2階210号室 いつでも随時訪ねてください

開設科目	社会生活伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 社会生活伝承論は、現代社会の諸問題からテーマを拾い、民俗学的手法を用いて検討することをめざしています。この授業では、「民俗から見た女性」と題して、野本寛一著『民俗誌・女の一生』を用い、かつての日本の村落社会における女性の位置づけや働きぶり、役割などを学び、そこから現代社会における女性をめぐる諸問題、女と男の関係などを考察するための手がかりを得ます。/ 検索キーワード 民俗 民俗学 女性

授業の一般目標 1. 女性に関する民俗の具体的事実を広く知る。 2. 民俗から見た女性像はどのように捉えられるのか、理解する。 3. 民俗または民俗学から見れば、現代社会における女性の位置づけや役割をめぐる課題はどのように抽出できるのか、考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗の性格や民俗学の一般的な内容について知る。 思考・判断の観点: 1. 民俗を通じて現代社会のありようを考える。 態度の観点: 1. 授業によく出席して、必要な課題に応える。

授業の計画(全体) 「民俗から見た女性」と題して、(1)具体的に女性をめぐる民俗の数々を知る、(2)民俗を手がかりにして女性の社会的文化的な位置づけを考える、の2つに内容を大きく区分して進める。(1)と(2)の内容は、同一時間の中でできるだけ同時に扱うことにするが、(1)が優先する。(1)の具体的内容は、テキストに準じて、(1)成女まで、(2)婚姻と嫁入り、(3)「嫁」の位置づけと役割、(4)女性の働き、(5)老女の役割、(6)女性の力、の6つに区分する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨(問題設定)と授業方法についての説明 明
- 第 2 回 項目 成女まで(1) 内容 具体的内容は第1回授業時に提示する。(以下同様)
- 第 3 回 項目 成女まで(2)
- 第 4 回 項目 婚姻と嫁入り(1)
- 第 5 回 項目 婚姻と嫁入り(2)
- 第 6 回 項目 「嫁」の位置づけと役割(1)
- 第 7 回 項目 「嫁」の位置づけと役割(2)
- 第 8 回 項目 女性の働き(1)
- 第 9 回 項目 女性の働き(2)
- 第 10 回 項目 老女の役割(1)
- 第 11 回 項目 老女の役割(2)
- 第 12 回 項目 女性の力(1)
- 第 13 回 項目 女性の力(2)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) 1. 授業内容へのコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行います。 2. 欠席は欠格条項(全体の75%以上の出席がないと期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届け出により認めます。)

教科書・参考書 教科書: 民俗誌・女の一生, 野本寛一, 文芸春秋(文春新書), 2006年; その他、必要に応じてプリント資料を配布する。/ 参考書: 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部棟2階210号室 いつでも随時訪ねてください

開設科目	造形伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては「住まい」を取りあげる。／検索キーワード 文化人類学、住居、集落、間取り、家族形態、自然環境

授業の一般目標 人類が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。人類の基本的な自然に対する対応の仕方を理解し、現在の地球環境問題に接する視点と態度を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 技術文化の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 人類の住文化について講義をします。住まいは人間にとって巢であり、また社会との接点でもあります。世界の諸民族の住まいを紹介しながら、自然環境の選択と適応、家族形態と間取り、表象としての外観の視点から考察を行います。後半は日本の近世以後の庶民住宅を同様の視点から考察します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人類の住まい研究のアウトライン
- 第 2 回 項目 シェルターとしての住まい
- 第 3 回 項目 自然環境への選択と適応
- 第 4 回 項目 生業形態と住まい
- 第 5 回 項目 家族形態と住まい
- 第 6 回 項目 表象としての住まい
- 第 7 回 項目 まとめ
- 第 8 回 項目 日本の近世以降の住まい
- 第 9 回 項目 分棟型、集中型二つの住まい方
- 第 10 回 項目 アイヌ民族の住まい
- 第 11 回 項目 東日本の住まい
- 第 12 回 項目 西日本の住まい
- 第 13 回 項目 南西諸島の住まい
- 第 14 回 項目 環境と住まい
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び数度の授業内レポートにより評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。出席が 70 % に満たない場合は評価の対象になりません。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。 / 参考書：その都度紹介します。

メッセージ できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。

連絡先・オフィスアワー Email： hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 、研究室 213 オフィスアワー木曜日 12：00～14：00

開設科目	造形伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては生活学・考現学の理論と方法を取りあげる。 / 検索キーワード 文化人類学、今和次郎、民俗学、民家、生活学、考現学

授業の一般目標 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。ものを通して現代社会を分析するための目標と方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 考現学、生活学を創始した、今和次郎について取りあげながら、その理論と研究方法を学びます。今和次郎は早稲田大学建築学の教授でしたが、民俗学の草創期に柳田国男に学び、また民族学の考えにも深く傾倒し、住まいを文化的に研究した人です。研究方法としてフィールドワークを大切にし、民家調査とともに、都市の風俗調査も行い、その方法は変化の激しい都市文化の分析に使われています。今和次郎は何を目指していたのでしょうか。それを遠い目標にして話を進めます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生活学・考現学のアウトライン
- 第 2 回 項目 今和次郎の年譜 1
- 第 3 回 項目 今和次郎の年譜 2
- 第 4 回 項目 民俗学、地理学との交流
- 第 5 回 項目 震災復興バラック建築考
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び授業内レポートにより評価します。特に出席と期末レポートを重視します。出席率が 70 % 以下の場合は評価対象となりません。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。 / 参考書：新訂生活文化論, 中村たかを・植田啓司・坪郷英彦, 源流社, 1997 年

メッセージ 映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。考現学を体験してみましょう。日常に対する眼が開かれます。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213、オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 現代政治社会に表する様々な政治変動を解析していくため現代政治学の研究成果の適用が求められている。そこで、本講義では現代政治学が取り組んでいる課題を紹介し、細部にわたる講義を展開する。/ 検索キーワード 社会変動 構造転換 構造分析

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現代政治学の対象
- 第 2 回 項目 現代政治学の諸潮流
- 第 3 回 項目 世界システム論の適用
- 第 4 回 項目 現代民主主義の可能性と限界
- 第 5 回 項目 全体主義・保守主義・新自由主義のあいだ
- 第 6 回 項目 国家機能の拡大と政治決定過程
- 第 7 回 項目 現代政治を動かす要因
- 第 8 回 項目 現代国家論の展開
- 第 9 回 項目 近代政党と議会の役割
- 第 10 回 項目 圧力団体の社会的位置
- 第 11 回 項目 デモクラシー・ファシズム・ミリタリズムの接合
- 第 12 回 項目 支配システムの実際
- 第 13 回 項目 戦前期国家権力の特質
- 第 14 回 項目 戦後期国家権力の特質
- 第 15 回 項目 前期講義の纏め
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

教科書・参考書 教科書：戦争と平和の政治学, 纈纈厚, 北樹出版, 2005 年

メッセージ 現代政治社会を構造的に切開する視点を

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 本講義では、現代政治社会に表出する諸現象を解説するために不可欠な現代政治学の方法を基底に据えて、現代社会の変動要因を細部に亘って探求する。そこでは最新の当領域における研究成果をも紹介していく。

授業の一般目標 現代社会の諸事象を客観的に考察できる視点を獲得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国家と人間
- 第 2 回 項目 政治社会と人間
- 第 3 回 項目 企業社会と人間
- 第 4 回 項目 現代民主主義と人間
- 第 5 回 項目 全体主義・国家主義と人間
- 第 6 回 項目 愛国主義・愛郷主義と人間
- 第 7 回 項目 現代政治の動要因としての人間
- 第 8 回 項目 自由・平等・安全思想と人間
- 第 9 回 項目 高度経済成長と人間
- 第 10 回 項目 競争と差別意識と人間
- 第 11 回 項目 学歴・階層社会と人間
- 第 12 回 項目 政治の人間化と人間の政治化（ 1 ）
- 第 13 回 項目 政治の人間化と人間の政治化（ 2 ）
- 第 14 回 項目 後期の纏め（ 1 ）
- 第 15 回 項目 後期の纏め（ 2 ）
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

教科書・参考書 教科書：戦争と平和の政治学，纈纈厚，北樹出版，2005 年；いまに問う 憲法 9 条と日本の臨戦体制，纈纈厚，凱風社，2006 年

メッセージ 理論構築なき現状分析はあり得ない

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	亀井 伸孝				

授業の概要 本講義は「ろう者の文化人類学」をテーマとする。世界各地の手話が自然言語であること、ろう者が文化的集団を形成していることなどが知られるようになり、近年ではろう者を対象とした文化人類学的研究が本格的に取り組みられるようになった。この講義では、講師が1997年から行っている西・中部アフリカのろう者に関するフィールドワークを事例として、ろう者の文化人類学的研究の歴史、成果、調査方法、倫理、応用/実践、これからの課題などを広く学ぶ。/検索キーワード ろう者、文化人類学、言語人類学、アフリカ、フィールドワーク、歴史

授業の一般目標 「ろう者の文化人類学」という新しい研究領域について、具体的な事例に基づきながら、概論的な知識を身につけることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ろう者と手話言語について正しい知識を身につける 態度の観点： ろう者と手話言語に対する異文化理解の姿勢を養う 技能・表現の観点： 自分の意見を明快かつ簡潔に表現することができる

授業の計画(全体) 「はじめに」ろう者と手話言語の概説を行う。「方法と倫理」ろう者の文化人類学の方法と倫理について紹介する。「研究史」ろう者の文化人類学の研究史をまとめる。「実践編」アフリカにおけるろう者の文化人類学的フィールドワークの実例と成果を紹介する。「応用/実践」研究成果を教育や開発援助に対する提言へと活用する応用/実践人類学の側面を紹介する。以上の構成により、この領域の全体像を概観する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに (1) 内容 ろう者と手話言語
- 第 2 回 項目 はじめに (2) 内容 ろう教育の歴史
- 第 3 回 項目 ろう者の文化人類学：方法と倫理 (1) 内容 フィールドワークの方法
- 第 4 回 項目 ろう者の文化人類学：方法と倫理 (2) 内容 倫理と信頼関係
- 第 5 回 項目 ろう者の文化人類学：研究史 内容 30 年の研究史
- 第 6 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (1) 内容 アフリカ概論
- 第 7 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (2) 内容 アフリカの手話言語
- 第 8 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (3) 内容 アフリカの外来手話言語
- 第 9 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (4) 内容 アフリカのろう教育成立史
- 第 10 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (5) 内容 手話と手話言語集団の誕生
- 第 11 回 項目 ろう者の文化人類学：実践編 (6) 内容 ろう者の歴史を学ぶ意義
- 第 12 回 項目 ろう者の文化人類学：応用/実践 (1) 内容 言語権と言語政策
- 第 13 回 項目 ろう者の文化人類学：応用/実践 (2) 内容 教育とエンパワーメント
- 第 14 回 項目 ろう者の文化人類学：応用/実践 (3) 内容 ろう者と人間開発
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 今後の展開と課題/討論

成績評価方法(総合) 講義終了時のレポートに、出席と授業内発表を加えて評価する。

教科書・参考書 教科書：アフリカのろう者と手話の歴史：A・J・フォスターの「王国」を訪ねて、亀井伸孝、明石書店、2006年 / 参考書：手話でいこう：ろう者の言い分 聴者のホンネ、秋山なみ・亀井伸孝、ミネルヴァ書房、2004年

メッセージ 予備知識は問わない。

連絡先・オフィスアワー kamei@kwansei.ac.jp (亀井伸孝)

備考 集中授業

開設科目	現代国際社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 日本、日本人という概念がどのような内容のものであり、それが近代日本においてどのように表象されていたか、という問題を、主に日本語という言語の面から考察する。

授業の一般目標 日本語の近代のあり様を歴史的に理解する。

授業の計画(全体) 「満州国」における言語政策の展開と、「東亜共通語」としての日本語について考察する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 異言語との対峙のなかの「国語」
- 第 2 回 項目 満州国における日本語の位置付け
- 第 3 回 項目 日本語の制度化
- 第 4 回 項目 「満州語」の創出
- 第 5 回 項目 「協和語」および満州国における日本語の諸相
- 第 6 回 項目 異言語との共存のあり方
- 第 7 回 項目 「大東亜共栄圏」構想と民族秩序
- 第 8 回 項目 「指導国」言語としての日本語
- 第 9 回 項目 「東亜共通語」の制度化への試み
- 第 10 回 項目 「東亜共通語」への試み：言語簡易化
- 第 11 回 項目 今日の問題
- 第 12 回 項目 「国際化」のなかの日本語
- 第 13 回 項目 「東亜共通語」の思想とその後
- 第 14 回 項目 補足・質問
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 出席および態度。

教科書・参考書 教科書： 帝国日本の言語編制, 安田敏朗, 世織書房, 1997 年 ; 帝国日本の言語編制, 安田敏朗, 世織書房, 1997 年

開設科目	現代国際社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 南アジア諸国の国家のありようを、インドを中心に、パキスタン、バングラデシュ、ネパール、ブータンを含めた北部地域を中心に見ていく。

授業の一般目標 ヒンドゥー教徒が多数を占める世俗国家（政教分離国家）で、世界最大の民主主義を誇るインド社会について、その等身大の姿を見ていく。

成績評価方法（総合）テキストに添って、その背景なども説明しながら進める

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 先行研究に関する文献研究の成果を報告する。修士論文のテーマを明確化する。

授業の一般目標 研究テーマを絞り込み、先行研究に関する文献研究の成果を報告し、自らの論文の作成計画をたて、計画に基づいて修士論文が作成できるよう指導する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：先行研究に関する知識を蓄積する 思考・判断の観点：研究テーマを明確化する 関心・意欲の観点：意欲の向上を図る 態度の観点：積極的に取り組む

授業の計画（全体） 報告レポートに関して、議論し、理解を深める

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究テーマの検討
- 第 2 回 項目 研究テーマの検討
- 第 3 回 項目 研究テーマの決定
- 第 4 回 項目 文献研究
- 第 5 回 項目 文献研究
- 第 6 回 項目 文献研究
- 第 7 回 項目 文献研究
- 第 8 回 項目 文献研究
- 第 9 回 項目 文献研究
- 第 10 回 項目 研究中間報告
- 第 11 回 項目 文献研究
- 第 12 回 項目 文献研究
- 第 13 回 項目 文献研究
- 第 14 回 項目 文献研究
- 第 15 回 項目 レポート作成

成績評価方法（総合） 出席とレポートの作成、議論への参加度によって装具的に評価する

教科書・参考書 教科書：研究テーマに応じて決める / 参考書：研究テーマに応じて紹介する

連絡先・オフィスアワー Eアドレス：otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 先行研究に関する文献研究の成果を報告する。修士論文のテーマを明確化する。

授業の一般目標 研究テーマを絞り込み、先行研究に関する文献研究の成果を報告し、自らの論文の作成計画をたて、計画に基づいて修士論文が作成できるよう指導する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：先行研究に関する知識を蓄積する 思考・判断の観点：研究テーマを明確化する 関心・意欲の観点：意欲の向上を図る 態度の観点：積極的に取り組む

授業の計画（全体） 報告レポートに関して、議論し、理解を深める

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文献研究
- 第 2 回 項目 フィールド調査の準備
- 第 3 回 項目 フィールド調査の準備
- 第 4 回 項目 フィールド調査の準備
- 第 5 回 項目 フィールド調査
- 第 6 回 項目 フィールド調査
- 第 7 回 項目 フィールド調査
- 第 8 回 項目 フィールド調査
- 第 9 回 項目 フィールド調査の分析
- 第 10 回 項目 研究中間報告
- 第 11 回 項目 フィールド調査の分析
- 第 12 回 項目 レポート準備
- 第 13 回 項目 レポート準備
- 第 14 回 項目 レポート作成
- 第 15 回 項目 レポート作成

教科書・参考書 教科書：研究テーマに応じて決める / 参考書：研究テーマに応じて紹介する

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 毎回1人ずつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展するように指導する授業である。

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。(3) 修士論文作成に向けての研究指導をする。

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 毎回1人づつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展するように指導する授業である。

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。(3) 修士論文作成に向けての研究指導をする。

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 修士一年は二年後の修士論文提出までの研究計画を作成し、提出する義務を負う。テーマ設定については指導教官のアドバイスを受けつつ、自らの問題設定への取り組みに全力をあげる。修士二年は、年度末に提出を義務づけられている修士論文の執筆に向け、執筆計画の発表を行う。

授業の一般目標 先行研究や資料を十分に精査し、論理的かつ説得的な論文の執筆を目指す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 修士論文執筆計画の発表
- 第 2 回 項目 以下、論文要旨の報告を行う。適時、指導教官より講義を行う。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 前期に引き続き修士論文の執筆を目標にして報告と講義を同時的に進める。

授業の一般目標 参考資料・文献・論文の収集と読み解きの手法を獲得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 後期における修論執筆計画報告
- 第 2 回 項目 以下、順次報告と講義を進める。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

連絡先・オフィスアワー koketsy@yamaguchi-u.ac.jp Office Our Yhu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 日本の高度成長による生活変容について、写真映像を手掛かりに、具体的に確認し検討する。

授業の一般目標 1 . 日本の高度成長以前の姿や社会のありようを把握する。 2 . 高度成長後の変容について、的確に把握し、その要因について理解できるようにする。

授業の計画(全体) テキストに基づきながら、いくつかに分けたテーマに即して、受講生の自主的な学習成果を発表しながら進める。具体的スケジュールは受講生と相談して決める。

成績評価方法(総合) 授業への取組姿勢と授業終了後に作成提出するレポートの評価による。

教科書・参考書 教科書：失われた日本の風景, 園部澄, 河出書房新社, 2000 年

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗学に基づく個別テーマに関する演習を行なう。民俗学の最新の文献を選択し、読み、討論を行う。

授業の一般目標 1 . 文献をよく読み、理解を深めること。 2 . 自らの研究テーマへの取り込みを積極的に図ること。

授業の計画（全体） 民俗学の最新文献を選定して、発表しながら読み進める。

成績評価方法（総合） 授業への取組姿勢と授業終了後に提出するレポートによる。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 物質文化研究の基礎理論と研究の現状を理解する。 / 検索キーワード 物質文化、民俗技術、民具研究

授業の一般目標 主要な論文の講読を中心にして、理論と研究方法についての理解を深める。

授業の計画(全体) 民俗技術研究の主要論文を提示し、読み進めていく。「日本常民生活資料叢書(日本常民文化研究所編)」から選ぶ予定。

成績評価方法(総合) 自主的な研究態度と期末のレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：論文の複写をテキストとして進める。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguhi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 修士論文執筆のための関連文献を読み進めていく。 / 検索キーワード 物質文化研究

授業の一般目標 基礎理論と研究方法の基本が理解できる。基本的英文文献からの情報の取得

授業の計画(全体) 文化人類学の物質文化に関するテキストを紹介、講読していく。対象は各自の研究に関連するものを取り上げる。

成績評価方法(総合) 各自の自主的研究態度と期末のレポートによって評価する

教科書・参考書 教科書：テキストは各自の研究に沿って選択する。 / 参考書：適宜紹介する

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 受講生が自らの研究テーマを深め、修士論文を作成できるよう、指導を行う。したがって、受講生自身による研究成果の報告と参加者全員による討論によって授業は進められていく。但し、受講生の人数と状況によっては、地域社会学または現代社会論のテキストを選び、各自の報告と並行する形で輪読し、討論を行うことも考えている。その場合、どのような文献をテキストに選ぶかは、受講生と相談して決定する(以下の「教科書」、「授業計画」には、現時点で予定しているテキスト名、テキストの内容を掲載しておく)。 / 検索キーワード 社会学理論、社会調査、社会構造、社会変動、地域社会、修士論文

授業の一般目標 (1) 修士論文の研究課題を具体化し、必要な文献、資料、データ等を渉猟して、自らの研究を深められるようにする。(2) 各自の研究課題に基づいて、修士論文の作成に着手できるようにする。

授業の計画(全体) 受講生自身が、自らの問題関心と研究テーマにしたがって、研究報告を行う。それらの報告にしたがって、受講生全員による質疑、討論等を行う。報告の順番や授業外学習の指示等に関しては、受講生と相談の上、第1回目の授業において決定する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方についての説明
- 第 2 回 項目 地域社会と地域社会学
- 第 3 回 項目 農村・都市の社会学から地域社会学へ
- 第 4 回 項目 グローバリゼーションと地域社会
- 第 5 回 項目 グローバリゼーションと都市
- 第 6 回 項目 地域社会の編成と再編
- 第 7 回 項目 地域社会の構造と空間
- 第 8 回 項目 都市化とコミュニティの変動
- 第 9 回 項目 地域社会の自治と再創造
- 第 10 回 項目 地域フィールドワーク実践と地域社会学
- 第 11 回 項目 地域社会学の知識社会学
- 第 12 回 項目 地域社会へのリテラシー
- 第 13 回 項目 現代の地域社会研究に向けて
- 第 14 回 項目 現代の地域社会研究に向けて(2)
- 第 15 回 項目 課題レポート

成績評価方法(総合) 出席 40% 報告・授業への参加度 40% 課題レポート 20%

教科書・参考書 教科書: 地域社会学の視座と方法(地域社会学講座1), 似田貝香門ほか, 東信堂, 2006年 / 参考書: グローバリゼーション / ポスト・モダンと地域社会(地域社会学講座2), 古城利明ほか, 東信堂, 2006年; 地域社会の政策とガバナンス(地域社会学講座3), 岩崎信彦、矢澤澄子ほか, 東信堂, 2006年; そのほかの参考文献に関しては、授業の中で適宜指示する。

メッセージ 初回の授業で、授業の進め方について説明するので、必ず初回の授業に出席すること。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 大学院生を対象とする演習において、青年文化の形成と変容をめぐるアプローチについて検討する。 / 検索キーワード 対抗文化 サブカルチャー 島宇宙

授業の一般目標 1 . 日本の青年文化の形成と変容を概観する。 2 . 青年現象の背後にある社会過程やメカニズムについて考察する。 3 . 計量的分析の意義と限界について学ぶ。

授業の計画 (全体) 受講生の報告を中心に、授業を進める

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 文献検索、レジュメ作成等
- 第 2 回 項目 青年文化についての報告
- 第 3 回 項目 青年文化についての報告
- 第 4 回 項目 青年文化についての報告
- 第 5 回 項目 青年文化についての報告
- 第 6 回 項目 青年文化についての報告
- 第 7 回 項目 青年文化についての報告
- 第 8 回 項目 青年文化についての報告
- 第 9 回 項目 青年文化についての報告
- 第 10 回 項目 青年文化についての報告
- 第 11 回 項目 青年文化についての報告
- 第 12 回 項目 青年文化についての報告
- 第 13 回 項目 青年文化についての報告
- 第 14 回 項目 青年文化についての報告
- 第 15 回 項目 青年文化についての報告

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 インドの言語問題を、言語政策に焦点を絞ってみていく。

授業の一般目標 ヨーロッパ諸国を基準にした国家と言語のありようを相対化できること。ヨーロッパの国の狭さに気づくこと（インドの広さに気づくこと）。インドの言語事情を歴史的社会的背景に照らして理解すること。日本の言語問題について考える視点を得ること。

授業の計画（全体）言語問題についての一般的理解とインドの言語問題の特殊性の理解と、その双方をその都度織り交ぜて扱う。

成績評価方法（総合） 期末試験

教科書・参考書 教科書：あふれる言語、あふれる文字、鈴木義里、右文書院、2001年 / 参考書：言語的近代を超えて、山本真弓ほか、明石書店、2004年

開設科目	社会調査法演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 社会調査を企画・実施し、データを分析する能力を養うために、調査方法に関する知識と技法を演習（または実習）形式で実践的に学習する。原則として、共通の調査テーマを設定して調査を実施する予定だが、受講生の人数によっては、受講生自身の修士論文作成とかがかわらせて、調査を企画・設計し実施していく。／検索キーワード 社会調査方法論、統計調査、事例調査、調査票、サンプリング、調査対象、コーディング、データクリーニング、単純集計、クロス集計、図表

授業の一般目標 社会調査を企画・実施し、データを収集・分析するための能力を養う。受講生自身が、調査の一連のプロセスを自立して実施できるだけの知識・能力を身につけることを目標とする。

授業の計画（全体） 社会調査の専門的知識を習得しながら、調査の一連の過程を実践する。最終的には、調査データを分析してレポートをとりまとめてもらうか、あるいは、データを利用して修士論文を作成してもらう。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN（授業の進め方についての説明）
- 第 2 回 項目 社会調査の方法（基礎知識の確認）
- 第 3 回 項目 調査テーマの設定と調査方法の決定
- 第 4 回 項目 調査の企画（調査全体の手順とスケジュールの決定）
- 第 5 回 項目 仮説構成と調査票の検討（調査項目の洗い出し）
- 第 6 回 項目 調査票の検討
- 第 7 回 項目 調査対象（対象者、フィールド）の決定／サンプリングまたはラポール
- 第 8 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 9 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 10 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 11 回 項目 調査データの処理（コーディング、データ入力）
- 第 12 回 項目 調査データの処理（データ入力）
- 第 13 回 項目 調査データの集計・分析（データクリーニングと単純集計）
- 第 14 回 項目 調査データの集計・分析（クロス集計、グラフ作成）
- 第 15 回 項目 データの分析と調査レポートの作成

成績評価方法（総合） 授業への参加度（調査プロセス・作業への参加） 60 % 調査レポート 40 %

教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ（第2版）、大谷信介ほか、ミネルヴァ書房、2005年 / 参考書：社会学小辞典、浜嶋朗ほか、有斐閣、1997年；社会調査、森岡清志、日本評論社、2000年；その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会調査法演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 大学院生を対象として、多変量解析の基本的な考え方について講義を行うとともに、実際の調査データを用いながら、分析及びプレゼンの練習を行う。 / 検索キーワード 多変量解析 重回帰分析
パス解析

授業の一般目標 1 . 多変量解析の基本的な考え方について学ぶ 2 . コンピュータソフトを用いて、実際に多変量解析を行う能力を身につける 3 . 各自の研究テーマに関して、多変量解析を活用する方法を検討する

授業の計画(全体) 多変量解析の技法を学ぶだけでなく、実際にそれを用いて、自分の研究をより洗練していく方法を学ぶ。また社会調査士資格認定機構による専門社会調査士資格 I 科目として、量的データの取り扱いにおける調査倫理についても学ぶ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 下準備と復習 内容 パソコン、統計ソフト、WEB 情報等々についての解説、基礎概念についての復習
- 第 3 回 項目 ウォーミングアップ 内容 第 1 章
- 第 4 回 項目 数量化理論 III 類 内容 第 2 章
- 第 5 回 項目 数量化理論 III 類 内容 第 2 章
- 第 6 回 項目 主成分分析 内容 第 3 章
- 第 7 回 項目 因子分析 1 内容 第 4 章
- 第 8 回 項目 因子分析 2 内容 第 4 章
- 第 9 回 項目 クラスター分析 内容 第 5 章
- 第 10 回 項目 復習と中間まとめ
- 第 11 回 項目 重回帰分析 内容 第 6 章
- 第 12 回 項目 パス解析
- 第 13 回 項目 判別分析 内容 第 7 章
- 第 14 回 項目 多変量解析における問題 内容 第 9 章
- 第 15 回 項目 復習とまとめ

教科書・参考書 教科書：入門 多変量解析の実際, 朝野ひろ彦, 講談社, 2000 年

開設科目	社会調査法演習 III	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 この授業は、日本以外の国に生きる人々の歴史を、オーラル・リサーチの手法を使って研究する手法とその成果の表現方法について扱う。まず、日本国内の場合には問題にならない出入国等の行政的手続きや政治情勢が、調査の動向やテーマ選択、ひいては調査の視点そのものをも左右し かねないほど大きな問題であることを押さえる。また、調査者の言語能力、生活能力（衣食住の条件など）が大きな意味をもつことも確認する。そのうえで、具体的な調査の過程とそこで得られた成果の分析、評価、解釈、そして報告に際しての道義的責任などについて考察する。

授業の一般目標 現代史を、その真っ只中を生きてきた人々の〈語り〉、個人的な記憶（忘却と捏造）と経験を人々の口から導き出すことで、公文書や、教科書的な公けの歴史とは異なる動的なものとして捉えることを目的とする。

授業の計画（全体） 技術面や方法論を扱う部分が半分くらいを占めるが、その場合にも、抽象的な説明ではなく、ネパール、インドでの調査を事例にとりあげつつ、実際に作成された資料等を読み込む作業も行なう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現代史とオーラルリサーチ：その位置づけ (1)
- 第 2 回 項目 現代史とオーラルリサーチ：その位置づけ (2)
- 第 3 回 項目 技術的側面の調査・技能習得（治安等政治状況、調査許可およびビザ取得、入国後手続き、禁止事項、使用言語の選択と習得など）とテーマとの関係 (1)
- 第 4 回 項目 技術的側面の調査・技能習得（治安等政治状況、調査許可およびビザ取得、入国後手続き、禁止事項、使用言語の選択と習得など）とテーマとの関係 (2)
- 第 5 回 項目 テーマおよび調査地選定の方法と課題 (1)
- 第 6 回 項目 テーマおよび調査地選定の方法と課題 (2)
- 第 7 回 項目 インフォーマント探しとネットワーク形成 (1)
- 第 8 回 項目 インフォーマント探しとネットワーク形成 (2)
- 第 9 回 項目 関連資料・史料の収集と特定 (1)
- 第 10 回 項目 関連資料・史料の収集と特定 (2)
- 第 11 回 項目 成果の活用（信頼度、基礎文献資料の併用、インフォーマントの位置付けなど）(1)
- 第 12 回 項目 成果の活用（信頼度、基礎文献資料の併用、インフォーマントの位置付けなど）(2)
- 第 13 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか）(1)
- 第 14 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか）(2)
- 第 15 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか）(3)

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加度、期末試験の 3 つを総合的に評価する。

地域文化専攻 博物・芸術論

開設科目	原始文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別的テーマ（考古資料および地域）は、毎年・開講学期毎に異なる。 / 検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

授業の一般目標 1. 事例研究の一つとして、石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。 2. 遺物および遺構のデータを操作して、社会構造の復元に応用してゆく過程を習得する。 3. 学術論文を批判的に読解することで抽出できる問題点から出発し、自らの理論を構築する力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。

思考・判断の観点： A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。 B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し、自らの考えを論理的に説明できる。

授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、特定地域の具体的な状況にも言及する。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、山口県や福岡県西部地域、あるいは九州全域から瀬戸内・山陰地域などの各地の具体的な状況へと視野を拡大する。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 10 %，授業外レポート 90 %。

教科書・参考書 参考書：石器入門事典 - 先土器 - - 縄文 - ，加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助，柏書房，1991 年；倭人と鉄の考古学，村上恭通，青木書店，1998 年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器，北条芳隆・禰宜田佳男 監修，小学館，2002 年；石器研究入門，大沼克彦・西秋良宏，鈴木美保 訳，クパプロ，1998 年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日 7・8 時限

開設科目	原始文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別的テーマ（考古資料および地域）は、毎年・開講学期毎に異なる。 / 検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

授業の一般目標 1. 事例研究の一つとして、石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。 2. 遺物および遺構のデータを操作して、社会構造の復元に応用してゆく過程を習得する。 3. 学術論文を批判的に読解することで抽出できる問題点から出発し、自らの理論を構築する力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。

思考・判断の観点： A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。 B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し、自らの考えを論理的に説明できる。

授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、特定地域の具体的な状況にも言及する。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、山口県や福岡県西部地域、あるいは九州全域から瀬戸内・山陰地域などの各地の具体的な状況へと視野を拡大する。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 10 %，授業外レポート 90 %。

教科書・参考書 参考書：石器入門事典 - 先土器 - - 縄文 - ，加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助，柏書房，1991 年；倭人と鉄の考古学，村上恭通，青木書店，1998 年；考古資料大観 第 9 巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器，北条芳隆・禰宜田佳男 監修，小学館，2002 年；石器研究入門，大沼克彦・西秋良宏，鈴木美保 訳，クパプロ，1998 年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日 7・8 時限

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 縄紋時代の祭祀：縄紋時代の人は世界をどのように見ていたのであろうか。この講義は、縄紋時代の祭祀具や宗教遺跡を紹介しながら、縄紋時代の人間の観念を理解しようとするものである。まずそのためには、どのような遺跡や遺物に縄紋人の超自然観が込められているのか、決定しなくてはならない。しかしこれが実に難しい課題であって、例えば著名な土偶一つとっても、様々な理解の仕方がある。そこで、講義ではむしろそうした多様な意見を紹介しながら、どうしたら考古資料から当時の人間の超自然観に接近できるのかを考えてみよう。/ 検索キーワード 土偶 石棒 環状列石 配石遺構 敷石住居

授業の一般目標 1. 考古学では特殊な遺物である縄紋時代の呪術具にどのようなものがあるのか理解する。 2. 縄紋時代に特徴的な祭祀遺跡は、どのようなものであるのか、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：考古学における祭祀具を理解する。 思考・判断の観点：研究が到達した問題点を理解する。 関心・意欲の観点：学説について修得する。 態度の観点：根本的な資料にさかのぼる姿勢を身につける。 技能・表現の観点：資料を図、言語で表現できる。 その他の観点：発掘報告書を批判的に読みこなせる。

授業の計画（全体）具体的な遺跡や遺物を紹介しながら、その解釈について講義する。特にこの授業では、一般的ではない見解も導入するから、推論の妥当性が主題となる。戦後、著しく研究が進展した敷石住居の理解に関しては詳細に検討する。

成績評価方法（総合）授業は特殊な講義であるから、成績の評価は主に受講生独自の研究を期末にレポートとして提出していただき、その成果・到達度を判定する。従って、あまりにも難解なテーマ、逆にあまりにも容易、簡単なテーマを選ばずに、あらかじめ十分に勉強し、正しく理解の及ぶ範囲の内容を徹底的に調べたかどうか、評価のポイントとなる。

教科書・参考書 参考書：縄文土偶と女神信仰、渡辺 仁、同成社、2001 年；敷石住居の研究、山本暉久、六一書房、2002 年

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17:40

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

授業の概要 弥生時代の祭祀：弥生時代の人々は世界をどのように捉えたのであろうか。銅鐸・銅矛は何に使われたのか。この講義は弥生時代の祭祀具を紹介しながら、弥生時代の人々の超自然観と祭祀を復元的に研究しようとするものである。しかしながら考古学でこの課題に接近するためには、あらかじめ周知な概念を用意すること以上に、遺跡や遺物の形態や出土状況の変化が意味することを的確に認識できていなくてはならない。このような考古学特有の課題に重点を置いた講義である。 / 検索キーワード 銅鐸 銅剣 銅矛 シャーマン

授業の一般目標 1 . 弥生時代の青銅製祭祀具を理解する 2 . 遺物から観念をとらえる限界を承知する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：考古学における祭祀具とは何かを理解する。 思考・判断の観点：従来の研究が到達した問題点を理解する。 関心・意欲の観点：考古学的方法について、興味をもつ。 態度の観点：資料を根本にさかのぼって検討することができる。 技能・表現の観点：遺跡。遺物を図や言語で表現できる。 その他の観点：発掘報告書を批判的に読みこなせる。

授業の計画（全体） 弥生時代の顕著な遺物である銅鐸、銅剣・銅矛などの青銅製祭祀具とその研究を紹介しながら、関連する祭祀具を広く検討し、祭祀具一般から何が引き出せるか、話題にする。

成績評価方法（総合） 成績の評価は主に期末のレポートによって判定する。この授業の主題は特殊なものであるから、受講生も考古学にかんする範囲で、自由に特殊な主題を扱い、その研究成果を提出しなくてはならない。

教科書・参考書 参考書：授業中に言及する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	網谷克彦				

授業の概要 縄文文化とその考古学研究：縄文文化は中緯度森林地帯に発達した、豊かな Complex Hunter-Fisher-Gatherer-(Domesticator) の文化であるが、その豊かさの実相とは如何なるものであろうか。本講は低湿地・泥炭地遺跡情報、動植物遺存体、狩猟採集民の民族誌、木製品や漆器などから縄文文化・縄文社会を物語るようとするものである。あわせてそれらに関わる基本的な研究方法についても紹介する。 / 検索キーワード 縄文文化 狩猟採集民 民族誌 低湿地遺跡 遺物研究

授業の一般目標 授業の一般目標 ・縄文文化に関する知識を深める。 ・多様な研究方法に関する基礎知識を身につける。 ・土器等の人工遺物や動物遺存体など実物資料を用意する予定でいるので、それによって分析手法や過程を体験する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：遺跡の発掘調査方法が説明できる。 思考・判断の観点：考古学的な推論の長所と短所を他の科学と比較できる。 関心・意欲の観点：遺跡から情報をひきだす方法に興味をもつ。 その他の観点：発掘調査法の計画に参加できる。

授業の計画(全体) 授業計画(全体) ・毎時間、レジュメ・資料を用意し、それを基本に話をすすめる。 ・2、3のテーマに関しては前日に関連論文を配布し、ディスカッションの機会をもつ。 ・5日間の場合は、各日を低湿地・泥炭層遺跡研究、土器事例研究、動植物遺存体研究(生業論)、民族誌の援用、木製品・漆器研究にあてる予定。

成績評価方法(総合) 授業外レポートで評価する。

教科書・参考書 参考書：縄文, 西田正規, 東京大学出版会, 1989年; 『日本史誕生』日本の歴史(1), 佐々木高明, 集英社, 1991年

備考 集中授業

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 比較考古学演習：考古資料の取り扱いを実践する。主題については、学生の希望にしたがう。資料検索の方法、およびその取り扱いが考古学の正規の手順に則るように指導するが、図書での独学では修得不可能な分野に力点を置く。

授業の一般目標 1．専門的な論文が読めるようになる。 2．専門的な論文が書けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：従来の学説を承知する。 思考・判断の観点：問題点を明確に整理する。 関心・意欲の観点：徹底した資料収集をはかる。 態度の観点：論点の公共化を図る。 技能・表現の観点：資料の適正な表現法を修得する。

授業の計画（全体）受講生に年間研究計画を立てさせ、それに従って進行するように務める。

成績評価方法（総合）演習の平常時をもって、採点する。専門的な水準に到達していなければ、いくら出席率がよくても高く評価しない。逆に、今まで研究者がだれも気が付かなかったことを、周到に調べ上げ、体系づけ、新たに独創的な研究分野を切り開けば、高く評価する。普通、従来の研究の成果を理解し、問題解決のための資料を検索、検討し、一歩でも研究が前進できればよしとする。

教科書・参考書 教科書：指定せず。 / 参考書：授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

授業の概要 比較考古学演習：考古資料の取り扱いを実践する。主題については、学生の希望にしたがう。その取り扱いが考古学の正規の手順に則るようこころがける。

授業の一般目標 1．専門的な論文が読めるようになる。 2．専門的な論文が書けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：従来の学説を承知する。 思考・判断の観点：問題点を整理し、明確化する。 関心・意欲の観点：資料収集の徹底を図る。 態度の観点：論点の公共化をはかる。 技能・表現の観点：効果的な表現法の修得する。

授業の計画（全体） 研究計画を事前にたずね、それに従って進行する。特に苦手とおもう分野があれば、指導が対応できれば、改善するから申し出が可能である。

成績評価方法（総合） 演習の平常時をもって、採点する。専門的な水準に到達していなければ、いくら出席率がよくても高く評価しない。逆に、今まで研究者がだれも気が付かなかったことを、周到に調べ上げ、体系づけ、新たに独創的な研究分野を切り開けば、高く評価する。普通、従来の研究の成果を理解し、問題解決のための資料を検索、検討し、一歩でも研究が前進できればよしとする。

教科書・参考書 教科書：指定せず。 / 参考書：授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー 月曜日 16:10 ~ 17:40

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行う。

授業の一般目標 1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。2. 事例研究を行い、発表、討議することで、プレゼンテーションの技術を高めるとともに、いわゆるディベートの能力を訓練する。3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ、修士論文につながる研究成果を導き出す。

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： A. 考古資料に対して、より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で、的確な受け答えができる。

授業の計画（全体）【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって研究発表を行う。発表者は、レジメの図版の組み方、図表類の効果的な使用を心がける。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

成績評価方法（総合）受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 100 %。

メッセージ 研究を進展させ、学外の調査研究機関に資料調査に行く機会、あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので、各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し、多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。可能であれば、発表者は、パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を1回以上行ってください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行う。

授業の一般目標 1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。2. 事例研究を行い、発表、討議することで、プレゼンテーションの技術を高めるとともに、いわゆるディベートの能力を訓練する。3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ、修士論文につながる研究成果を導き出す。

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： A. 考古資料に対して、より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で、的確な受け答えができる。

授業の計画（全体）【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって研究発表を行う。発表者は、レジメの図版の組み方、図表類の効果的な使用を心がける。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

成績評価方法（総合）受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 100 %。

メッセージ 研究を進展させ、学外の調査研究機関に資料調査に行く機会、あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので、各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し、多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。可能であれば、発表者は、パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を1回以上行ってください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津 聖				

授業の概要 芸術について考察するための資料の収集と蓄積の具体的な方法を探求。主として英文と日文の資料を講読。本年度は、実習や講読に近い形で講義を進める予定。受講生は何らかの形で講義に参画することが要請される。/ 検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学、美術史

授業の一般目標 論文制作の準備段階としての資料の収集と蓄積を実践するためのノウハウを身につけること。

授業の到達目標 / 態度の観点： 授業への主体的参加 技能・表現の観点： プレゼンテーションとレポート

授業の計画（全体） 美術史の基礎文献の収集と講読

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web 上の美術関連資料の紹介。活用。
- 第 2 回 項目 美術史とは何か 1 内容 簡単な美術史の歴史の解説 1
- 第 3 回 項目 美術史とは何か 2 内容 簡単な美術史の歴史の解説 2
- 第 4 回 項目 美術史とは何か 3 内容 簡単な美術史の歴史の解説 3
- 第 5 回 項目 資料の収集方法 1 内容 Web の利用法 1
- 第 6 回 項目 資料の収集方法 2 内容 Web の利用法 2
- 第 7 回 項目 資料の収集方法 3 内容 Web の利用法 3
- 第 8 回 項目 資料の収集方法 4 内容 Web の利用法 4
- 第 9 回 項目 資料の収集方法 5 内容 Web の利用法 5
- 第 10 回 項目 未定 内容 未定
- 第 11 回 項目 未定 内容 未定
- 第 12 回 項目 未定 内容 未定
- 第 13 回 項目 未定 内容 未定
- 第 14 回 項目 未定 内容 未定
- 第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

成績評価方法（総合） レポートを随時提出

教科書・参考書 教科書：教科書 プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。/ 参考書：参考文献は、講義中に提示する。

メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。ウェブ上に資料を掲載。

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津 聖				

授業の概要 芸術について考察するための資料の収集と蓄積の具体的な方法を探求。主として英文と日文の資料を講読。本年度は、実習や講読に近い形で講義を進める予定。受講生は何らかの形で講義に参画することが要請される。/ 検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学

授業の一般目標 論文制作の準備段階としての資料の収集と蓄積を実践するためのノウハウを身につけること。

授業の到達目標 / 技能・表現の観点：プレゼンテーションとレポート

授業の計画（全体）美術史の文献の収集と講読

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web 上の美学関連資料の紹介。活用。
- 第 2 回 項目 美学とは何か 1 内容 簡単な美学の歴史の解説 1
- 第 3 回 項目 美学とは何か 2 内容 簡単な美学の歴史の解説 2
- 第 4 回 項目 美術史とは何か 1 内容 簡単な美術史の歴史の解説 1
- 第 5 回 項目 美術史とは何か 2 内容 簡単な美術史の歴史の解説 2
- 第 6 回 項目 講読とプレゼンテーション 内容 内容未定
- 第 7 回 項目 講読とプレゼンテーション 内容 内容未定
- 第 8 回 項目 講読とプレゼンテーション 内容 内容未定
- 第 9 回 項目 講読とプレゼンテーション 内容 内容未定
- 第 10 回 項目 講読とプレゼンテーション 内容 内容未定
- 第 11 回 項目 講読とプレゼンテーション 内容 内容未定
- 第 12 回 項目 講読とプレゼンテーション 内容 内容未定
- 第 13 回 項目 講読とプレゼンテーション 内容 内容未定
- 第 14 回 項目 講読とプレゼンテーション 内容 内容未定
- 第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

成績評価方法（総合）プレゼンテーションとレポート

教科書・参考書 教科書：教科書 プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。/ 参考書：参考文献は、講義中に提示する。

メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	今道 友信				

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 事例研究 1

第 3 回 項目 事例研究 2

第 4 回 項目 事例研究 3

第 5 回 項目 事例研究 4

第 6 回 項目 中間まとめ

第 7 回 項目 事例研究 5

第 8 回 項目 事例研究 6

第 9 回 項目 事例研究 7

第 10 回 項目 事例研究 8

第 11 回 項目 事例研究 9

第 12 回 項目 事例研究 10

第 13 回 項目 総括

第 14 回

第 15 回

備考 集中授業

開設科目	芸術論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に 1990 年代以降の地球規模化をめぐる今後の課題について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で考察します。 / 検索キーワード 国際美術展、現代美術、グローバルゼーション、ビエンナリゼーション

授業の一般目標 (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 地球時代の現代美術に対する問題意識をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 代表的な国際美術展について簡単な説明ができる。 **思考・判断の観点：** 国際美術展の地球規模化について肯定的な側面と課題とを指摘できる。 **関心・意欲の観点：** 自ら国際美術展を見に出かける。あるいは、インターネット上の関連サイト、新聞、雑誌で国際美術展に関する情報を収集する。

授業の計画（全体） 前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観し、中盤は毎回 1 つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行います。後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展における地球規模化の問題について紹介します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国際美術展の歴史（一） 内容 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 第 3 回 項目 国際美術展の歴史（二） 内容 日本参加の経緯
- 第 4 回 項目 国際美術展の歴史（三） 内容 日本の開催事例
- 第 5 回 項目 事例研究（一） 内容 シンガポール・ビエンナーレ
- 第 6 回 項目 事例研究（二） 内容 サンパウロ・ビエンナーレ
- 第 7 回 項目 事例研究（三） 内容 ドクメンタ
- 第 8 回 項目 事例研究（四） 内容 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 第 9 回 項目 中間まとめ 内容 二〇〇七年開催の国際美術展
- 第 10 回 項目 地球規模化する国際美術展（一） 内容 開催数の増加
- 第 11 回 項目 地球規模化する国際美術展（二） 内容 地球規模化を主題とする現代美術
- 第 12 回 項目 地球規模化する国際美術展（三） 内容 展覧会企画者の役割
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。ウェブサイト（<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>）から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書：ヴェネツィアと日本：美術をめぐる交流、石井元章著，“ブリュッケ、星雲社（発売）”，1999 年；『12 人の挑戦 大観から日比野まで』，，茨城新聞社，2002 年；ヴェネツィア・ビエンナーレ 日本参加の 40 年，，国際交流基金ほか，1995 年；アートマネージメント，伊東正伸ほか，武蔵野美術大学出版局，2003 年；アートが知りたい，岡部あおみ編，武蔵野美術大学出版局，2005 年；記録集 横浜会議 2 0 0 4 「なぜ、国際展か？」，，BankART1929，2005 年

メッセージ 今年度は、2006 年に調査したシンガポールやサンパウロ、2007 年夏開催のカッセル（ドイツ）やヴェネツィアの国際美術展を紹介します。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 この講義では、2007 年度に開催される展覧会を紹介します。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。 / 検索キーワード 展覧会企画、学芸員、現代美術、近代美術、近代以前の美術、日本美術、欧米美術、アジア美術、非欧米圏の美術

授業の一般目標 (1) 幅広い分野の作品に親しむ。(2) 各展覧会の企画趣旨について理解する。(3) 美術展や美術館の制度と背景について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1) 基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。(2) 企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。 **思考・判断の観点:** 展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。 **関心・意欲の観点:** (1) 県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会は見に行く。(2) 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪ねる。

授業の計画 (全体) 企画趣旨についての解説や作品画像の上映によって、毎週 1 つずつ展覧会を紹介します。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 展覧会紹介 1
- 第 3 回 項目 展覧会紹介 2
- 第 4 回 項目 展覧会紹介 3
- 第 5 回 項目 展覧会紹介 4
- 第 6 回 項目 展覧会紹介 5
- 第 7 回 項目 展覧会紹介 6
- 第 8 回 項目 展覧会紹介 7
- 第 9 回 項目 展覧会紹介 8
- 第 10 回 項目 展覧会紹介 9
- 第 11 回 項目 展覧会紹介 10
- 第 12 回 項目 展覧会紹介 11
- 第 13 回 項目 展覧会紹介 12
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。ウェブサイト (<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>) から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書：五感で恋する名画鑑賞術, 西岡文彦, 講談社, 2003 年; なぜ、これがアートなの?, アメリア・アレナス, 淡交社, 1998 年; なにも見ていない, ダニエル・アラス, 白水社, 2002 年; 現代美術館学, 並木誠士ほか編, 昭和堂, 1998 年; 増補版 美の裏方, 朝日新聞マリオン編集部編, ペリかん社, 1993 年

メッセージ 美術展を見るのが楽しくなります。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津聖				

授業の概要 修士論文作成準備 課題の講読 / 検索キーワード 修士論文

授業の一般目標 修士論文作成準備 課題の講読

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：独自の方法論の模索

授業の計画（全体） 修士論文作成準備 課題の講読

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津聖				

授業の概要 修士論文作成準備 課題の講読 / 検索キーワード 修士論文

授業の一般目標 修士論文作成準備 課題の講読

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：独自の方法論の模索

授業の計画（全体） 修士論文作成準備 課題の講読

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。

授業の一般目標 専門的かつ横断的な視野と思考力を獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。 思考・判断の観点： 自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。 関心・意欲の観点： 適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実に実現できる。

授業の計画（全体） 1人の発表者が1～3週間、同じテーマで発表を担当し、集中的に討議します。その後、別の学生による発表と討議、と続けます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表
- 第 3 回 項目 研究発表
- 第 4 回 項目 研究発表
- 第 5 回 項目 研究発表
- 第 6 回 項目 研究発表
- 第 7 回 項目 中間討議
- 第 8 回 項目 研究発表
- 第 9 回 項目 研究発表
- 第 10 回 項目 研究発表
- 第 11 回 項目 研究発表
- 第 12 回 項目 研究発表
- 第 13 回 項目 研究発表
- 第 14 回 項目 総括
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 発表内容と期末のレポートによって評価します。

教科書・参考書 参考書： 適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。

授業の一般目標 専門的かつ横断的な視野と思考力の獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。 思考・判断の観点： 自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。 関心・意欲の観点： 適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実に実現できる。

授業の計画（全体） 1人の発表者が1～3週間、同じテーマで発表を担当し、集中的に討議します。その後、別の学生による発表と討議、と続けます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表 1
- 第 3 回 項目 研究発表 2
- 第 4 回 項目 研究発表 3
- 第 5 回 項目 研究発表 4
- 第 6 回 項目 研究発表 5
- 第 7 回 項目 中間討議
- 第 8 回 項目 研究発表 6
- 第 9 回 項目 研究発表 7
- 第 10 回 項目 研究発表 8
- 第 11 回 項目 研究発表 9
- 第 12 回 項目 研究発表 10
- 第 13 回 項目 研究発表 11
- 第 14 回 項目 総括
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 発表内容と期末レポートによって評価します。

教科書・参考書 参考書： 適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

言語文化専攻 日本語学文学論

開設科目	日本語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 「アクセントの研究」日本語アクセントの（音声と較べた）機能、日本語アクセントの成立と変遷、方言アクセントの実態・分布、アクセントの調査法などに関して述べる。 / 検索キーワード アクセントの意義、アクセントの変化、アクセントの分布

授業の一般目標 日本語アクセントの特徴・意義について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語アクセントの意義、特徴、変化の姿と分布の意味について理解を深める。 思考・判断の観点：日本語アクセントについての分析視点を獲得する。 関心・意欲の観点：日本語アクセントの特徴・意義を再認識する。

授業の計画（全体）アクセントの概念規定、アクセントの意義、アクセント研究の意義などについて述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アクセント核
- 第 2 回 項目 アクセント核
- 第 3 回 項目 アクセントを研究する意義
- 第 4 回 項目 アクセントを研究する意義
- 第 5 回 項目 アクセントを研究する意義
- 第 6 回 項目 日本語アクセントの形成
- 第 7 回 項目 日本語アクセントの形成
- 第 8 回 項目 日本語アクセントの変遷（体系の変化）
- 第 9 回 項目 日本語アクセントの変遷（体系の変化）
- 第 10 回 項目 日本語アクセントの変遷（体系の変化）
- 第 11 回 項目 各地の方言アクセント
- 第 12 回 項目 各地の方言アクセント
- 第 13 回 項目 各地の方言アクセント
- 第 14 回 項目 方言アクセントの調査法
- 第 15 回 項目 後期筆記試験

成績評価方法（総合）定期試験、質問カードの内容、出席

教科書・参考書 参考書：国語アクセントの史的研究, 金田一春彦, 塙書房, 1974 年

メッセージ 日本語アクセント、日本語はかけがえのないことば

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249）オフィスアワー火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語学特殊講義の前期概要に準ずる 大学院生にとっては、修士論文の作成のヒントになるような授業になるようにする。 / 検索キーワード 日本語教授法、エンカウンター

授業の一般目標 日本語学特殊講義前期に準ずる。大学院生としては、自ら構成的グループ・エンカウンターの実施者として、リーダーシップを發揮できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、構成的グループ・エンカウンターと類似の活動との異同について説明できる。 2、人間関係づくり、リレーションづくりのしかけとしくみを理解する。 3、日本語教育とカウンセリングの接点について理解を深める。 思考・判断の観点： 特殊講義に同じ 関心・意欲の観点： 特殊講義に同じ 態度の観点： 特殊講義に同じ 技能・表現の観点： 1、他者の立場を尊重しながらも、説得力のある自己主張をする。 2、簡潔に自分の意見を述べ、書けるようにする。 3、質問力を身につけ、日本語教授法につながる技法を身につける。

授業の計画（全体） 特殊講義に準ずる

成績評価方法（総合） 出席とレポートを重視し、テストはしない。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集、林伸一ほか、図書文化、1999年；多文化共生時代の日本語教育、縫部義憲、瀝々社、2002年；エンカウンターとは何か、国分康孝他、図書文化、2000年；エンカウンタースキルアップ、国分康孝ほか、図書文化、2001年；質問力、齋藤孝、筑摩書房、2003年

メッセージ 日本語教師志望者、留学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 人文学部 2 階 210-2 号室（研究室）、オフィスアワー木曜：11 時～12 時
E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6415 - 8203

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語学特殊講義後期の授業概要に準ずる / 検索キーワード 日本語教授法、エンカウンター

授業の一般目標 同上

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 特殊講義に準じる 思考・判断の観点： 同上 関心・意欲の観点： 同上 態度の観点： 同上 技能・表現の観点： 同上

授業の計画（全体） 特殊講義に準ずる

成績評価方法（総合） 特殊講義に準ずる

教科書・参考書 教科書： 特殊講義に同じ / 参考書： 特殊講義に同じ

メッセージ 日本語教師志望者、留学生歓迎、他学科・他コースの学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 前期に同じ

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 文法論と文法学史 ~ 近世以前の文法学史を概観するとともに、近代以降の代表的な文法論を紹介しながら、日本語の文法研究史と、その特徴について考察する。

授業の一般目標 日本語の文法論と文法学史に関する基礎知識を身につけるとともに、日本語の文法研究に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画(全体) 中世の「てにをは」研究 近世の文法研究 - 富士谷成章、本居宣長、鈴木胤、本居春庭、東条義門 近代の文法研究 - 大槻文彦、山田孝雄、松下大三郎、橋本進吉、時枝誠記

成績評価方法(総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：国語文法論, 渡辺実, 笠間書院, 1974年; 教科書は生協で扱う。

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~日本語構文論~ 「時枝文法」以降の代表的な文法論である「渡辺文法」を中心に扱いつながら、先行の文法論と比較対照することにより、日本語の文法的特色について考察を加える。さらに、その後の「北原文法」についても触れる。

授業の一般目標 日本語を構文論の立場で考えることにより、日本語の文法の諸問題について深く考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「渡辺文法」に関する基本的な知識が身についているかを判断する。 思考・判断の観点：構文論的な視点に基づいて、日本語の文法に対する思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画(全体) 時枝文法の問題点 渡辺文法の特色 構文的職能 統叙の職能 陳述の職能
単語の分類 助動詞の相互承接 文の種類 北原文法の特色

成績評価方法(総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：国語文法論, 渡辺実, 笠間書院, 1974年; 教科書は生協で扱う。 / 参考書：国語構文論, 渡辺実, 塙書房, 1971年; 日本語助動詞の研究, 北原保雄, 大修館書店, 1981年; 日本語の世界6, 北原保雄, 中央公論社, 1981年

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 『音曲玉淵集』を読む。 / 検索キーワード 近世音韻史資料、三浦庚妥

授業の一般目標 これにより、日本語の音韻史の中世から近世にかけて、そして現代への変化を実際に読みとる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中世日本語の音韻の実態を知る。 思考・判断の観点：中世以降の日本語の音韻変化の流れ・要因を考察する 関心・意欲の観点：自国の言語の歴史を再認識する。

授業の計画(全体) 『音曲玉淵集』の巻一の影印本本文を読む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 2 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 3 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 4 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 5 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 6 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 7 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 8 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 9 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 10 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 11 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 12 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 13 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 14 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 15 回 項目 音曲玉淵集(巻一)

成績評価方法(総合) 出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：浜田敦編著『音曲玉淵集』(臨川書店 1975年)

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30 研究室：人文学部5階 オフィスアワー：火曜日 10:00～12:00 研究室：人文学部5階 オフィスアワー：10:00～12:00

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 『音曲玉淵集』を読む。 / 検索キーワード 近世音韻史資料、三浦庚妥

授業の一般目標 これにより、日本語の音韻史の中世から近世にかけて、そして現代への変化を実際に読みとる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近世日本語の音韻の実態を知る。 思考・判断の観点：中世以降の日本語の音韻変化の流れ・要因を考察する 関心・意欲の観点：自国の言語の歴史を再認識する。

授業の計画(全体) 『音曲玉淵集』の巻一の影印本本文を読む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 2 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 3 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 4 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 5 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 6 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 7 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 8 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 9 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 10 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 11 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 12 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 13 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 14 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
- 第 15 回 項目 音曲玉淵集(巻一)

成績評価方法(総合) 出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：浜田敦編著『音曲玉淵集』(臨川書店 1975年)

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー：火曜日 13:00~14:30

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 主に日本語教育、日本語教授法関連の学術論文、実践報告を材料に大学院生レベルの演習をおこなう。特に修士論文の作成に直結するような内容の検討を相互に実施する。 / 検索キーワード 論文化、研究発表

授業の一般目標 1、学術論文、実践報告を批判的に読む。 2、修士論文のテーマを明確にしなが、その目的と意義を考える。 3、修士論文の研究手法と手順について検討する。 4、修士論文のデータの取り方、処理のしかたを検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、論文とエッセーの違い 2、学術論文と報告書の違い 3、先行研究とオリジナリティの関係 4、論文と教科書風記述の問題 思考・判断の観点： 1、論旨の一貫性 2、放射思考としてのマインドマップの活用 3、一般論に対して適切な具体例の提示 関心・意欲の観点： 1、テーマに関する関心と意欲 2、研究方法に関する関心と意欲 3、表現方法に関する関心と意欲 態度の観点： 1、積極的に検討に参加する 2、すすんで研究内容を発表する 技能・表現の観点： 1、わかりやすい図表を提示する 2、わかりやすい図表の説明、分析をする 3、独創性のある考察ができる

授業の計画（全体） 上記のような授業の各目標を達成するために授業を対話的なゼミ形式で進めていく。例えば「論文とエッセーの違い」など二項対立的な問いをペアワーク形式で考えていく。院生一人一人の興味と関心に合わせて、具体的な課題を設定し、ディスカッションする。学術論文産出に貢献するような形で、検討とアドバイスを積み重ねていく。

成績評価方法（総合） 出席と論文発表・授業内小レポート（質問・感想カード）を重視し、テストはしない。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布

メッセージ 事実を発見し、育み、発表して形にする知の広場としてのゼミナール。地道に探求し、独自性を尊重する態度を大切にしたい。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 2 階 210 - 2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時-12 時

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6145 - 8203

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 前期概要に準ずるが、その発展として、修士論文の内容の吟味をする 実際に修士論文の一部を取り出し、できれば学会発表をするための準備をする / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 1、学会発表を想定して、発表申請書を作成する。 2、学会発表のためのハンドアウトを作成する。 3、学会発表のリハーサルをゼミで実施する。 4、指摘された不十分な点を補い、内容を修正する。 5、学会発表の積み重ねで、修士論文を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、先行研究の知識と理解 2、仮説と検証の関係 思考・判断の観点： 1、独話論の世界に入り込んでいないか 2、序論一本論一結論といった論文の構成の適否 関心・意欲の観点： 前期に準じる 態度の観点： 前期に準じる 技能・表現の観点： 1、図や表の処理の技能 2、文章表現能力

授業の計画（全体） 上記の目標を達成するための演習を対話的ゼミナール形式で行なう。

成績評価方法（総合） 出席と発表を重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 前期に同じ

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~日本語の文法・語彙・待遇表現(1)~日本語の文法・語彙・待遇表現に関する研究の流れ、研究者による立場の違いなどのついて概観するとともに、受講者には研究テーマに応じた調査・発表を求める。

授業の一般目標 受講者は、日本語の文法・語彙・待遇表現に関するテーマについて、自発的に問題提起し、調査発表する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。資料・参考文献の取り扱い方。

授業の計画(全体) 日本語の文法・語彙・待遇表現に関する研究の流れ、研究者による立場の違いなどのついて概観するとともに、受講者には研究テーマに応じた調査・発表を求める。

成績評価方法(総合) 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用せず、適宜プリント配布。

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~日本語の文法・語彙・待遇表現(2)~ 日本語の文法・語彙・待遇表現に関する研究の流れ、研究者による立場の違いなどのついて概観するとともに、受講者には研究テーマに応じた調査・発表を求める。

授業の一般目標 受講者は、日本語の文法・語彙・待遇表現に関するテーマについて、自発的に問題提起し、調査発表する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。資料・参考文献の取り扱い方。

授業の計画(全体) 日本語の文法・語彙・待遇表現に関する研究の流れ、研究者による立場の違いなどのついて概観するとともに、受講者には研究テーマに応じた調査・発表を求める。

成績評価方法(総合) 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用せず、適宜プリント配布。

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学作品を対象として、研究史の上で営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加えていく。 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 中古文学作品を研究する上で必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体） 『源氏物語』について先行研究が提示してきた読解の視点を検証していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『源氏物語』の概説
- 第 2 回 項目 「少女」巻の読解
- 第 3 回 項目 「少女」巻の検討
- 第 4 回 項目 「玉鬘」巻の読解
- 第 5 回 項目 「玉鬘」巻の検討
- 第 6 回 項目 「初音」巻の検討
- 第 7 回 項目 「胡蝶」巻の検討
- 第 8 回 項目 「蛩」巻の検討
- 第 9 回 項目 「常夏」「篝火」巻の検討
- 第 10 回 項目 「野分」巻の検討
- 第 11 回 項目 「行幸」巻の検討
- 第 12 回 項目 「藤袴」巻の検討
- 第 13 回 項目 「真木柱」巻の検討
- 第 14 回 項目 「梅枝」巻の検討
- 第 15 回 項目 「藤裏葉」巻の検討

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全 6 冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998 年 / 参考書：授業時に紹介する。

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学作品を対象として、研究史の上で営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加えていく。 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 中古文学作品を研究する上で必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体） 『源氏物語』について先行研究が提示してきた読解の視点を検証していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『源氏物語』の概説
- 第 2 回 項目 「若菜上」巻の読解 (1)
- 第 3 回 項目 「若菜上」巻の諸問題 (1)
- 第 4 回 項目 「若菜上」巻の読解 (2)
- 第 5 回 項目 「若菜上」巻の諸問題 (2)
- 第 6 回 項目 「若菜上」巻の読解 (3)
- 第 7 回 項目 「若菜上」巻の諸問題 (3)
- 第 8 回 項目 「若菜下」巻の読解 (1)
- 第 9 回 項目 「若菜下」巻の諸問題 (1)
- 第 10 回 項目 「若菜下」巻の読解 (2)
- 第 11 回 項目 「若菜下」巻の諸問題 (2)
- 第 12 回 項目 「若菜下」巻の読解 (3)
- 第 13 回 項目 「若菜下」巻の諸問題 (3)
- 第 14 回 項目 「若菜下」巻の読解 (4)
- 第 15 回 項目 「若菜下」巻の諸問題 (4)

成績評価方法 (総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全 6 冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998 年 / 参考書：授業時に紹介する。

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 近世文学研究のためのアプローチ法について講述する。文学の周辺にある資料群へも目配りしつつ、適宜演習形態も取り入れながら、文献収集の方法・文献読解の技術・書誌的基礎知識の習得を指導する。

授業の一般目標 近世文学諸作品の読解、及び文学史的位置付けを目指し、その方法論を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学の作品を原本によりの確に解読することができる。2. 書誌調査の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 近世文学の作品を適切に読解することができる。2. 書誌情報を作品の理解に利用することができる。

授業の計画（全体） 附属図書館所蔵の旧制山口高校および旧制山口高等商業学校旧蔵和書を素材として、書誌調査の基礎を講じる。第 2 回以降は、図書館内貴重書庫室にて授業を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 書誌調査 (1) 内容 写本 (1)
- 第 3 回 項目 書誌調査 (2) 内容 写本 (2)
- 第 4 回 項目 書誌調査 (3) 内容 写本 (3)
- 第 5 回 項目 書誌調査 (4) 内容 写本 (4)
- 第 6 回 項目 書誌調査 (5) 内容 写本 (5)
- 第 7 回 項目 書誌調査 (6) 内容 版本 (1)
- 第 8 回 項目 書誌調査 (7) 内容 版本 (2)
- 第 9 回 項目 書誌調査 (8) 内容 版本 (3)
- 第 10 回 項目 書誌調査 (9) 内容 版本 (4)
- 第 11 回 項目 書誌調査 (9) 内容 版本 (5)
- 第 12 回 項目 書誌調査 (10) 内容 版本 (6)
- 第 13 回 項目 書誌調査 (11) 内容 版本 (7)
- 第 14 回 項目 書誌調査 (12) 内容 版本 (8)
- 第 15 回 項目 書誌調査 (13) 内容 版本 (9)

成績評価方法（総合） 各自が採録した調査カードや授業時の質疑応答により評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。 / 参考書： (1) くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版; 日本古典書誌学総説, 藤井隆, 和泉書院, 1991 年; 日本文学論所属で古典文学専攻者は購入することが望ましい。

メッセージ 参加者各自、鉛筆（シャープペンシル不可）数本・メジャー（ビニル製）・電卓を第 2 回の授業時までに準備しておくこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要【連歌師の紀行文 宗因『肥後道記』を読む】—昨年度昨年度に引き続き、近世前期を代表する連歌師・俳諧師、西山宗因をとりあげ、その活動の諸相について考察する。今年度は宗因紀行文の嚆矢『肥後道記』に焦点をあて、異文校訂から本文精読に及ぶ、多角的な考察を展開したい。従来閉却に付されてきた近世連歌師の文章が、宗祇ら中世連歌師の文章の何を模倣し、芭蕉『奥の細道』に代表される近世俳文にいかなる影響を及ぼしたか、文学史の溝を埋める試みである。／検索キーワード 連歌師、俳諧師、紀行文、肥後道記、西山宗因

授業の一般目標 1. 連歌師 / 俳諧師の文章の型を理解する。2. 連歌師 / 俳諧師の文章の共通性と異質性を理解する。3. 研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、自らの修士論文への備えとする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 連歌師 / 俳諧師の文章を精確に解釈することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。 関心・意欲の観点： 1. 問題設定・論証のあり方を自らの課題に反映させることができる。

授業の計画（全体）（ 1 ）問題提起 宗因紀行文の位置づけをめぐって（ 2 ）『肥後道記』の伝本（ 3 ）『肥後道記』の文学性（ 4 ）『肥後道記』の政治性（ 5 ）総括と展望 連歌師の文章から俳諧師の文章へ

成績評価方法（総合）主に期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小野美典				

授業の概要 「中世山口の文芸の跡」と題して、中世山口の文芸の足跡が窺われる資料を使いながら、それらの資料の持つ意味・問題点について考察していく。具体的には、芸能から「仁平寺の延年」、紀行文から「宗祇『筑紫道記』と山口」、寺社縁起から「吉祥院と『番匠観音縁起』」という3項目を取り上げて、考察する。様々なジャンルの問題を、多岐にわたって解説していくことになると思うが、それらの中から、中世という時代の山口の文芸の一端を垣間見てもらいたい。 / 検索キーワード 延年 宗祇 筑紫道記 吉祥院 番匠観音縁起

授業の一般目標 中世山口の文芸の状況について知ること、そして現在の研究で問題点とされていることが何なのかを知ること、全体の目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中世山口の文芸の状況について理解を深める。 宗祇研究の現状について理解を深める。 寺社縁起に関して理解を深める。 思考・判断の観点： 歴史資料の扱いに関して知識を持つ。 寺社縁起を読み解く。 関心・意欲の観点： 山口の文芸に関して興味を持つ。 態度の観点： 未読資料を意欲的・積極的に読もうとする。 技能・表現の観点： 自分の調査・考察したことを的確に文章で表現する。

授業の計画(全体) 資料プリントを使いながら、口頭での解説を中心とした講義形式で授業を進める。講義は、大きく3章に分かれるが、1章「仁平寺の延年」は知識として理解する程度とし、講義の中心は、2章「宗祇『筑紫道記』と山口」と3章「吉祥院と『番匠観音縁起』」に置くことにする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 講義で使う資料の説明
- 第 3 回 項目 仁平寺の延年(1)
- 第 4 回 項目 仁平寺の延年(2)
- 第 5 回 項目 宗祇に関して
- 第 6 回 項目 『筑紫道記』の概要
- 第 7 回 項目 『筑紫道記』の舟木記事の問題点
- 第 8 回 項目 『筑紫道記』の吉祥院
- 第 9 回 項目 吉祥院と『番匠観音縁起』
- 第 10 回 項目 『番匠観音縁起』ほかの瑞松庵文書
- 第 11 回 項目 『番匠観音縁起』の注釈1
- 第 12 回 項目 『番匠観音縁起』の注釈2
- 第 13 回 項目 『番匠観音縁起』の注釈3
- 第 14 回 項目 『番匠観音縁起』の注釈4
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) レポートによって評価する。なお、出席は3分の2以上出席していることが評価の前提となる。その出席条件を満たした者に関して、レポート内容で成績評価を行う。出席状況を点数化して評価に加点することはしない。なお、講義中の授業への参加態度も、若干の考慮に入れる。

教科書・参考書 教科書：プリントを用いる。 / 参考書：プリントを用いる。

メッセージ 半期という短い期間ですが、山口という一地方の古典文学の世界に興味を持ってもらえたら幸いです。

開設科目	日本文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。

授業の一般目標 未定

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 導入

第 2 回 項目 未定

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回 項目 総括 (1)

第 15 回 項目 総括 (2)

成績評価方法 (総合) 未定

教科書・参考書 参考書： 適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：

木曜日午後

開設科目	日本文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中原 豊				

授業の概要 2007年で生誕百年を迎える中原中也の詩を、日本の近代詩の特質の中で捉える。 / 検索
キーワード 近代詩 現代詩 詩

授業の一般目標 まずは詩の本質と表現の特徴を理解し、日本の近代詩の歴史の概略をふまえた上で、中
原中也の詩のもつ特質をいくつかの観点から明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 詩の表現、日本の近代詩、および中原中也の詩の特質を理解する。

思考・判断の観点： 言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充して
いく。 関心・意欲の観点： 進んで中原中也および他の詩人の詩を読もうとする。 技能・表現の観点：
自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。

授業の計画（全体） 詩の本質について語った詩人の言葉を通じて詩の本質を理解し、その後明治から
戦後までの代表的な詩人の詩の特質の説明と読解を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 詩とは何か I 内容 ポエジーについて
- 第 2 回 項目 詩とは何か II 内容 詩の表現
- 第 3 回 項目 日本の近代詩 I 内容 近世から近代へ
- 第 4 回 項目 日本の近代詩 II 内容 浪漫詩の成熟
- 第 5 回 項目 日本の近代詩 III 内容 口語自由詩の発達
- 第 6 回 項目 中原中也 I 内容 生涯と作品の概観
- 第 7 回 項目 中原中也 II 内容 風土
- 第 8 回 項目 中原中也 III 内容 初期短歌からダダ詩へ
- 第 9 回 項目 中原中也 内容 フランス象徴詩
- 第 10 回 項目 中原中也 V 内容 詩と音楽
- 第 11 回 項目 中原中也 内容 詩論
- 第 12 回 項目 中原中也 内容 宗教性
- 第 13 回 項目 中原中也 内容 喪失と倦怠
- 第 14 回 項目 予備日
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：『山羊の歌 中原中也詩集』、佐々木幹郎編、角川書店、1998年；『在りし日の
歌 中原中也詩集』、佐々木幹郎編、角川書店、1998年 / 参考書：『詩とは何か』、嶋岡晨、新潮社、1998
年；適時プリントを配布する。

メッセージ 講義で取り上げる詩を読んでおいてください。

連絡先・オフィスアワー 中原中也記念館（山口市湯田温泉 1-11-21 083-932-6430）

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。

授業の一般目標 できれば、一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 導入

第 2 回 項目 未定

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回 項目 総括（ 1 ）

第 15 回 項目 総括（ 2 ）

成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書：テキストは各自で購入しておいてください。 / 参考書：適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：木曜日午後

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。

授業の一般目標 できれば、一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 導入

第 2 回 項目 未定

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回 項目 総括（ 1 ）

第 15 回 項目 総括（ 2 ）

成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書：テキストは各自で購入しておいてください。 / 参考書：適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：木曜日午後

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学作品の研究。 / 検索キーワード 中古文学

授業の一般目標 中古文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点： 自発的に中古文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。 態度の観点： 中古文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。 技能・表現の観点： 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画（全体） 中古文学作品を取りあげ、本文の異同や諸注釈について検討を加え、発表担当者の考察を展開していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの検討
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表
- 第 4 回 項目 先行研究論文の収集 (1)
- 第 5 回 項目 先行研究論文の収集 (2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集 (3)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の整理 (1)
- 第 8 回 項目 先行研究論文の整理 (2)
- 第 9 回 項目 発表資料の作成 (1)
- 第 10 回 項目 発表資料の作成 (2)
- 第 11 回 項目 発表資料の作成 (3)
- 第 12 回 項目 研究発表 (1)
- 第 13 回 項目 研究発表 (2)
- 第 14 回 項目 研究発表 (3)
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法（総合） 資料の完成度・レポートによる。

教科書・参考書 教科書： 授業時に指示する。 / 参考書： 授業時に紹介する。

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学作品の研究。 / 検索キーワード 中古文学

授業の一般目標 中古文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点： 自発的に中古文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。 態度の観点： 中古文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。 技能・表現の観点： 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画（全体） 中古文学作品を取りあげ、本文の異同や諸注釈について検討を加え、発表担当者の考察を展開していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの検討
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表
- 第 4 回 項目 先行研究論文の収集 (1)
- 第 5 回 項目 先行研究論文の収集 (2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集 (3)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の整理 (1)
- 第 8 回 項目 先行研究論文の整理 (2)
- 第 9 回 項目 発表資料の作成 (1)
- 第 10 回 項目 発表資料の作成 (2)
- 第 11 回 項目 発表資料の作成 (3)
- 第 12 回 項目 研究発表 (1)
- 第 13 回 項目 研究発表 (2)
- 第 14 回 項目 研究発表 (3)
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法（総合） 資料の完成度・レポートによる。

教科書・参考書 教科書： 授業時に指示する。 / 参考書： 授業時に紹介する。

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 作品作家の選定・研究史の整理と把握・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導する。

授業の一般目標 修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。 2. 先行研究を収集し整理することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。 2. 論文テーマを自ら設定することができる。 関心・意欲の観点： 1. 選定した作家や作品の史的位置付けについて、適切に説明することができる。 2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。

授業の計画（全体） 口頭発表、レポート提出、個別面談の3段階で行う。

成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書：プリント配付による。 / 参考書：授業時に指示する。

メッセージ より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 作品作家の選定・研究史の整理と把握・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導する。

授業の一般目標 修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。 2. 先行研究を収集し整理することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。 2. 論文テーマを自ら設定することができる。 関心・意欲の観点： 1. 選定した作家や作品の史的位置付けについて、適切に説明することができる。 2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。

授業の計画（全体） 口頭発表、レポート提出、個別面談の3段階で行う。

成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書：プリント配付による。 / 参考書：授業時に指示する。

メッセージ より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

言語文化専攻 中国語学文学論

開設科目	中国語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 明清時代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対音・対訳文献が多数作られた。これらの文献は、中国語学の研究資料として魅力の大きいものだが、対訳 という性質上とつきづらいいこともまた事実である。本授業では、中国の「華夷訳語」や朝鮮の「老乞大」などの代表的文献を取り扱いながら、近代以前の東アジアにおける 外国語学習の営みの一端に触れ、同時にそれらの文献を中国語学の資料として活かす方法を考える。なお、受講にあたり、中国語以外の外国語の知識はなくてもよい。 / 検索キーワード 対音・対訳文献、華夷訳語、老乞大

授業の一般目標 (1) 明清時代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について理解する。(2) 明代を中心とする近代漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 明清時代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研究の観点から説明できる。 2. 近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。 3. 干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者の言語現象について指摘できる。 思考・判断の観点： 1. 非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を十分に理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。 技能・表現の観点： 1. 異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。 2. 韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。

授業の計画(全体) 授業では、対音対訳文献が提起する諸問題についてテーマを設けて解説するとともに、対音対訳文献の実物について問題の実際を見てゆく。受講者にも対音対訳文献を扱ってもらう場合がある。受講者は、期末に、授業内容と関連したレポートを提出する。

成績評価方法(総合) 学期末に提出させるレポートによるほか、授業内レポートや授業への参加度を一定程度考慮する。

教科書・参考書 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。 / 参考書：授業中に適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文研究棟 516 室 研究室に行くとき必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 前期に引き続き、明清代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対音・対訳文献を取り扱いながら、近代以前の東アジアにおける外国語学習の営みの一端に触れ、同時にそれらの文献を中国語学の資料として活かす方法を考える。なお、受講にあたり、中国語以外の外国語の知識はなくともよい。 / 検索キーワード 対音・対訳文献、華夷訳語、老乞大

授業の一般目標 (1) 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について理解する。(2) 明代を中心とする近代漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研究の観点から説明できる。 2. 近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。 3. 干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者の言語現象について指摘できる。 思考・判断の観点： 1. 非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を十分に理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。 技能・表現の観点： 1. 異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。 2. 韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。

授業の計画(全体) 後期授業では、「甲種本華夷訳語来文」または「老乞大諺解」の読解を行う予定である。非漢語については教官が解説するが、漢語と関連する部分について、受講者が自分の可能な範囲で読解を手助けすることを期待する。受講者は、期末に、授業内容と関連したレポートを提出する。

成績評価方法(総合) 学期末に提出させるレポートによるほか、授業内レポートや授業への参加度を一定程度考慮する。

教科書・参考書 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。 / 参考書：授業中に適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文研究棟 516 室 研究室に行くと必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	守屋 宏則				

授業の概要 現代中国語の文法体系を中国語学習に有用な学校文法の観点から総合的に概説する。

授業の一般目標 複合語の構造に始まって、複文内部の論理関係に到るまで、現代中国語の内部に存在する自律的規則を把握し、中国語の理解と運用の能力向上に役立てる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代中国語の文法規則について知識と理解を深める。 思考・判断の観点： 中国語の誤用例を見てどこがどのように誤っているかを考え、判断する。 関心・意欲の観点： 母語である日本語、学習経験のある英語と比較対照しながら中国語文法の特徴に対する関心を高める。 態度の観点： 言語に内在する文法上の特徴を考えることの楽しさを知る。 技能・表現の観点： 現代中国語を雰囲気ではなくあくまでも理詰めに読解し、さらに文法的に正しい文を書けるようにする。

授業の計画（全体） 現代中国語文法の概要を解説する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の進め方の説明 < BR > 現代中国語文法の概要を解説する
- 第 2 回 項目 動詞述語文 内容 動詞述語文について解説する
- 第 3 回 項目 形容詞述語文 内容 形容詞述語文について解説する
- 第 4 回 項目 数詞・量詞・副詞・介詞 内容 項目に掲げた品詞について解説する
- 第 5 回 項目 各種フレーズ 内容 中国語の各種フレーズについて解説する
- 第 6 回 項目 主語・目的語・定語・状語などの文成分 内容 項目に掲げた文成分について解説する
- 第 7 回 項目 補語（1） 内容 数量補語・結果補語・方向補語について解説する
- 第 8 回 項目 補語（2） 内容 可能補語・様態補語について解説する
- 第 9 回 項目 アスペクト 内容 完了・経験・持続などのアスペクトについて解説する
- 第 10 回 項目 疑問文 内容 各種の疑問文について解説する
- 第 11 回 項目 複文 内容 複文の分類、複文の型などについて解説する
- 第 12 回 項目 受動文・使役文・処置文 内容 項目に掲げた文型について解説する
- 第 13 回 項目 存現文・連動文・「是～的」文 内容 項目に掲げた文型について解説する
- 第 14 回 項目 未来の表現・比較の表現 内容 項目に掲げた表現形式について解説する
- 第 15 回 項目 総括説明・質疑応答・試験 内容 現代中国語文法の特徴について総括説明する < BR > 質疑応答を通じて理解を深める < BR > 試験を実施する

成績評価方法（総合）最後の授業時に筆記試験を行う。

教科書・参考書 教科書： やさしくくわしい中国語文法の基礎, 守屋宏則, 東方書店, 1995 年

備考 集中授業

開設科目	中国語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 中国語音韻学に関連する内容の文献を講読しつつ、同分野の基本的知識の習得と問題点に関する考察を行う。なお、取り扱う領域や講読文献に関しては、受講者と相談の上決定することも可能である。最後に、各自研究テーマを決めてレポートを作成する。 / 検索キーワード 中国語学 音韻学 講読 考察

授業の一般目標 中国語音韻学に関する基本的知識をマスターするとともに、中国語学関連文献の読解力と、問題点への考察力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 中国語音韻学の基本知識をマスターする。 2 . 文献資料の内容が正しく理解できる。 思考・判断の観点： 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。 技能・表現の観点： 自身の研究成果を、レポートの形式により効果的に報告できる。

授業の計画（全体） 最初の回に、各自の研究テーマを発表しあい、授業で取り扱う領域について共通認識を得る。次回までに、講読すべき文献資料を決定する。その後、順次講読に入る。受講者は、毎回の講読部分を担当するほか、授業中に疑問点・問題点を指摘し、討論に加わる。

成績評価方法（総合） 授業中の課題の達成度と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

授業の概要 前期の授業に引き続き、中国語音韻学に関連する内容の文献を講読しつつ、同分野の基本的知識の習得と問題点に関する考察を行う。なお、取り扱う領域や講読文献に関しては、受講者と相談の上決定することも可能である。最後に、各自研究テーマを決めてレポートを作成する。 / 検索キーワード 中国語学 音韻学 講読 考察

授業の一般目標 中国語音韻学に関する基本的知識をマスターするとともに、中国語学関連文献の読解力と、問題点への考察力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 中国語音韻学の基本知識をマスターする。 2 . 文献資料の内容が正しく理解できる。 思考・判断の観点： 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。 技能・表現の観点： 自身の研究成果を、レポートの形式により効果的に報告できる。

授業の計画（全体） 最初の回に、各自の研究テーマを確認しあい、授業で取り扱う領域について共通認識を得た上で、講読すべき文献資料を決定する。その後、順次講読に入る。受講者は、毎回の講読部分を担当するほか、授業中に疑問点・問題点を指摘し、討論に加わる。

成績評価方法（総合） 授業中の課題の達成度と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開, 阿部泰記著, 汲古書院, 2004 年；中国の公案小説, 莊司格一著, 研文出版, 1988 年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。 / 検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開, 阿部泰記著, 汲古書院, 2004年；中国の公案小説, 莊司格一著, 研文出版, 1988年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大塚 博久				

授業の概要 「古典文学」から「現代文学」への過渡期の状況 中国文学は、時期上「古典文学」と「現代文学」とに大別される。「古典文学」とは、世界文学の中でもっとも古い歴史をもち、独自の文学形式である典故と対句を重んじる「詩文」の豊富な文学遺産をもち、主として士人によって担われた文学であり、ほぼ清朝末期までを指す。これに対して「現代文学」とは 1840 年アヘン戦争以後、西欧の帝国主義の侵略とともに西欧＝「近代」の価値観が中国に及んだいわゆる Western-Impact が文学上にも徐々に影響しはじめ、具体的には 1917 年胡適の「文学改良芻議」(『新青年』誌 2 巻 5 号)における「空虚で陳腐、難解な文語による旧文学の殻を破って口語の文学を創造しよう」との提唱を契機に、五・四「文学革命」運動が起きて以後の近・現代文学を指す。この 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての旧～新「過渡期」(近代文学「胎動期」)の文学思想の具体的様相を明らかにする。/ 検索キーワード 辛亥革命、『新青年』誌、五・四「文学革命」、「五・四」運動、梁啓超、胡適、陳独秀、魯迅。

授業の一般目標 (1) 19 世紀末～20 世紀初頭における「古典文学」世界から「現代文学」世界への過渡期の文学的状況とその歴史的背景について理解する。(2) この時期に出現した文学的主張や運動、とくに「五・四文学革命」について理解する。(3) 個々の作家と作品(翻訳を含む)について興味、関心を深め、その文学的営為の内実を考える。(4) 同時代の日本の作家、作品との関係、影響について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代中国の問題状況、文学史的背景および作家、作品について、理解を深め、説明できる。 思考・判断の観点：関連する研究書や論文を読んで、的確に要点を把握、分析し、自分の見解を持つ。 関心・意欲の観点：中国の「近・現代文学」の作家、作品に今後も興味、関心を持続できる。 態度の観点：これら作品を積極的に読み、鑑賞する習慣を培う。 技能・表現の観点：読解の能力を高め、自分の考えを文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 授業は、この時期の文学・思想上の節目となる出来事、流れ、運動と人物、作品などについて、毎回資料を提示して紹介、解説し、「伝統」的中国社会が接した西洋近代の「異質」な文物に如何に対処、受容し、文学はどのように変容していったか、を理解する。そして、この「近代」世界を果敢に生きた中国人の姿や、心情に関心を持つ。またこの時期を代表するいくつかの「作品」を読むことを通じて当時の「日本文学」との関連についても考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 清朝の危機と「洋務」「变法」自強運動 内容 「亡国の危機感」と「慷慨」の詩人たち 授業外指示 「シラバス」を読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 近代的「報刊」とその啓蒙活動 内容 (1)「循環日報」(2)「時務報」「国聞報」
- 第 3 回 項目 嚴復の近代西洋思潮 内容 嚴復の『天演論』の翻訳と桐城派古文
- 第 4 回 項目 西洋(日本)の「翻訳小説」 内容 林琴南の『巴黎茶花女遺事』と『不如帰』の漢訳など
- 第 5 回 項目 『清議報』『新民叢報』の新文体と「政治小説」 内容 梁啓超の「詩界革命」、「小説界革命」の提唱と『新中国未来記』
- 第 6 回 項目 「譴責小説」の盛行 内容 『官場現形記』『老残遊記』ほか
- 第 7 回 項目 留日学生の動向 「辛亥革命」前後 内容 魯迅の文学的「覚醒」、『域外小説集』と「文化偏至論」など 授業外指示 「呐喊」自序などを予習。
- 第 8 回 項目 『新青年』と文学革命(1) 内容 『新青年』誌の創刊と陳独秀「宣言」
- 第 9 回 項目 『新青年』と文学革命(2) 内容 胡適の「文学改良芻議」と陳独秀「文学革命論」
- 第 10 回 項目 「五・四」運動前後と文学・思想界 内容 李大 の「庶民の勝利」と胡適 「問題と主義」論争および「新旧文学」論争
- 第 11 回 項目 近代小説の誕生 「魯迅の文学」 内容 「狂人日記」、『呐喊』集の小説、「野草」などを読む

- 第12回 項目「文学研究会」の作家たちと『小説月報』内容 日本の文学状況と周作人、沈雁冰らの作品
第13回 項目「創造社」の文学 内容 郭沫若の『女神』、郁達夫『沈淪』など
第14回 項目 五・四退潮期から新旧、左右分裂期を経て「国民革命」へ 内容 「新青年」Gの分裂、左翼文芸運動と「革命文学論戦」、「中国自由運動大同盟」と「左聯」の結成
第15回 項目 新しい作家たちの登場と「三十年代文学」へ(まとめ) 内容 巴金、老舎、丁玲らと「新月派」詩人聞一多ら

成績評価方法(総合) (1)授業によっては、著名な「作品」を指名読解させることがある。(2)試験を行う(自筆のノートの持ち込み可) なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：毎回、講義概要、作品・作家解説、関連資料などを配布。また必要に応じて参考文献を紹介する。

開設科目	中国文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山 徹				

授業の概要 『元曲選』『六十種曲』等に収録される元明の戯曲脚本を取り上げ、注釈を施しながら読解する。

授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 原文の解釈につき、毎回担当し、発表・討議する。

開設科目	中国文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山 徹				

授業の概要 前期に引き続き、『元曲選』『六十種曲』等に収録される元明の戯曲脚本を取り上げ、注釈を施しながら読解する

授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 原文の解釈につき、毎回担当し、発表・討議する。

言語文化専攻 英米語学文学論

開設科目	英米語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 人間の言語は脳に蓄えられた知識であると考える立場から、言語の性質や獲得、また、理解の仕組みなどをめぐる様々な問題をわかりやすく解説していく。前半で生成文法理論の基礎となる考え方を紹介し、後半では進んだ研究の一端にも触れるようにする。

授業の一般目標 生成文法理論の目標や特徴、その発展を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。 思考・判断の観点：生成文法理論に基づいて、英語や日本語の基本的な分析が行えるようになる。 関心・意欲の観点：幼児の言語獲得のなぞや、ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特質などにも関心を寄せる。従来の理論の不備な点を見つけ出し、代案を考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の主な狙いや課題などについて説明する。 授業外指示 教科書の第 1 章を読む。
- 第 2 回 項目 こころを探る言語研究 内容 なぜ言語研究をするのかという問題について考える。 授業外指示 教科書第 2 章を読む。課題を解く。
- 第 3 回 項目 言語知識とは何か 内容 言語の無意識の知識、言語能力と言語運用、普遍文法と個別文法について考える。 授業外指示 教科書第 3 章を読む。課題を解く
- 第 4 回 項目 文法の組み立て 内容 文法の組み立てについての最近のアプローチを紹介する。 授業外指示 教科書第 4, 5 章を読む。課題を解く。
- 第 5 回 項目 音韻論 内容 音声・音韻研究の基本概念と主要な問題を講じる。 授業外指示 教科書第 6, 7 章を読む。課題を解く。
- 第 6 回 項目 形態論 内容 語を作る仕組みについて考える。 授業外指示 教科書第 8 章を読む。課題を解く。
- 第 7 回 項目 統語論 1 内容 文を作る仕組みについて考える。 授業外指示 教科書第 9 章を読む。課題を解く。
- 第 8 回 項目 統語論 2 内容 原理とパラメータのアプローチを紹介する。 授業外指示 教科書第 10 章を読む。課題を解く。
- 第 9 回 項目 意味論 1 内容 種々の意味解釈規則を紹介する。 授業外指示 教科書第 11 章を読む。課題を解く。
- 第 10 回 項目 意味論 2 内容 代名詞の解釈などについて論じる。 授業外指示 教科書第 12 章を読む。課題を解く。
- 第 11 回 項目 語用論 内容 語用論的知識とプラトンの問題などについて考える。 授業外指示 教科書第 13, 14 章を読む。課題を解く。
- 第 12 回 項目 言語の獲得 内容 原理とパラメータのアプローチと言語獲得について論じる。 授業外指示 教科書第 15, 16, 17 章を読む。課題を解く。
- 第 13 回 項目 言語の変化・変異 内容 歴史的な観点を交えながら、言語変化について考える。 授業外指示 教科書第 18 章を読む。課題を解く。
- 第 14 回 項目 言語研究の現状と展望 内容 最新の言語研究の動向について紹介する。 授業外指示 課題を解く。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体の補足とまとめを行う。 授業外指示 "

成績評価方法（総合）各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は 1 回につき 5 点減点とする。

教科書・参考書 教科書：言語研究入門 生成文法を学ぶ人のために, 大津由紀雄他, 研究社, 2002年 / 参考書：生成文法用語辞典, 安藤貞雄・小野隆啓, 大修館書店, 1993年；チョムスキー理論辞典, 原口庄輔・中村捷編, 研究社出版, 1992年；チョムスキー小事典, 今井邦彦編, 大修館書店, 1986年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡崎正男				

授業の概要 文法理論で仮定している各部門間のインターフェイスについて、英語という個別言語における具体的な言語現象をもとにして考察する。具体的には、統語構造、意味構造、音韻構造の接点で生じていると考えられる具体的な言語現象を出発点として、文法の各部門の関係のあり方についての考察を行う。 / 検索キーワード 生成文法、インターフェイス、統語構造、意味構造、音韻構造

授業の一般目標 英語の具体的な言語現象を出発点として、理論言語学における言語観、言語データの扱い方、議論の立て方などについての視点を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語理論についての知識、とりわけ、生成文法および関連理論の知識を理解し、理論の枠内でデータが扱えるようになるきっかけをつくる。 思考・判断の観点：分析対象となる具体的な言語データに接したときに、(1) そのデータの何が問題となっているのか、(2) どのように分析してゆけばよいのか、(3) データと分析の意味合いと波及効果、などについて、複眼的なものの見方を基盤にして、柔軟にして堅固な議論の展開ができるようになるためのきっかけをつくる。 関心・意欲の観点：言語学のデータの見方、集め方、分析方法について関心を持つようにする。また、言語学的な思考を、言語分析以外の場合に応用できるようにするきっかけをつくる

授業の計画(全体) 1. 序：文法の部門間のインターフェイスについての説明 2. 現代英語の文アクセント：音韻論と統語論、意味論、語用論との接点 3. 現代英語の縮約現象と文法化：音韻論と統語論、意味論との接点 4. 現代英語の結果構文：統語論と形態論、意味論との接点 5. 英詩の韻律：詩の鋳型と音韻論、統語論、意味論、語用論の接点

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序 内容 文法の部門間のインターフェイスについての
- 第 2 回 項目 現代英語の文アクセント (1) 内容 名詞句の文アクセント
- 第 3 回 項目 現代英語の文アクセント (2) 内容 述部の文アクセント
- 第 4 回 項目 現代英語の文アクセント (3) 内容 意味部門と音韻部門の対応規則を用いた理論化
- 第 5 回 項目 現代英語の文アクセント (4) 内容 提案した理論の応用：ドイツ語とデンマーク語の場合
- 第 6 回 項目 現代英語の縮約と文法化 (1) 内容 現象の記述と論点整理：wanna は法助動詞か本動詞か？
- 第 7 回 項目 現代英語の縮約と文法化 (2) 内容 wanna が法助動詞性をもつことを立証
- 第 8 回 項目 現代英語の縮約と文法化 (3) 内容 助動詞縮約との違いと先行研究の批判的検討
- 第 9 回 項目 現代英語の結果構文 (1) 内容 現象紹介と論点の整理
- 第 10 回 項目 現代英語の結果構文 (2) 内容 結果述語は、複合動詞の一部か？
- 第 11 回 項目 現代英語の結果構文 (3) 内容 構文文法的アプローチの批判的検討
- 第 12 回 項目 英詩の韻律 (1) 内容 近代英語期以降の英詩の形式とそのヴァリエーション
- 第 13 回 項目 英詩の韻律 (2) 内容 Emily Dickinson の詩形の特異性と理論上の重要性
- 第 14 回 項目 英詩の韻律 (3) 内容 Emily Dickinson の詩の韻律と最適性理論 (1)
- 第 15 回 項目 英詩の韻律 (4) 内容 Emily Dickinson の詩の韻律と最適性理論 (2)

成績評価方法(総合) レポート。各自が興味をもった具体的な言語現象について、複数の理論的視点から議論し、しかるべく結論を導き出す内容のもの。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布

メッセージ 知識の修得ではなく、知識を「使いこなして」「言語データを自在に料理する」ことを「実演する」ことになるのでそのつもりで受講すること。

備考 集中授業

開設科目	英米語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

授業の概要 英語における次の代用表現について考える。(1) Max criticized himself. (2) Max criticized him. (3) Max and Tom criticized each other. 文(1)における代用表現 himself は再帰形と呼ばれ、必ず主語の Max を先行詞とする。一方、(2)の文における代用表現 him は代名詞と呼ばれ、主語の Max を先行詞にすることはできない。また、(3)の文における代用表現 each other は相互代名詞と呼ばれ、主語の Max と Tom を先行詞とする。授業では、このような代用表現の諸特性を、生成文法の枠組みで考察する。/ 検索キーワード 代用表現、統語構造、意味解釈、形態特性、生成文法

授業の一般目標 英語の代用表現の統語的、形態的、意味的特徴についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の代用表現の特徴について説明できる。 思考・判断の観点：表面的な代用表現の現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

授業の計画(全体) 代用表現が示す諸特徴を、(1)再帰形と代名詞の分布、(2)例外的再帰形、(3)重複指示、(4)相互代名詞の統語特性、(5)相互代名詞の意味特性に考えていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 再帰形と代名詞の分布(1) 内容 再帰形と代名詞が相補分布を成すことをみる。
- 第 3 回 項目 再帰形と代名詞の分布(2) 内容 先行詞を決定する際には、構成素統御と呼ばれる構造概念が必要であることを説明する。
- 第 4 回 項目 例外的再帰形(1) 内容 代名詞と相補分布を成さない再帰形が存在することをみる。
- 第 5 回 項目 例外的再帰形(2) 内容 例外的再帰形の分布を決める条件について説明する。
- 第 6 回 項目 例外的再帰形(3) 内容 例外的再帰形が示す諸特性について説明する。
- 第 7 回 項目 重複指示(1) 内容 同一指示、別指示、重複指示の関係について説明する。
- 第 8 回 項目 重複指示(2) 内容 代名詞が示す重複指示について説明する。
- 第 9 回 項目 重複指示(3) 内容 再帰形が示す重複指示について説明する。
- 第 10 回 項目 相互代名詞の統語特性(1) 内容 分配演算子について説明する。
- 第 11 回 項目 相互代名詞の統語特性(2) 内容 相互代名詞が示す二重照応性について説明する。
- 第 12 回 項目 相互代名詞の意味特性(1) 内容 相互代名詞が示す weak reciprocity の読みについて説明する。
- 第 13 回 項目 相互代名詞の意味特性(2) 内容 相互代名詞が示す weakest reciprocity の読みについて説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法(総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	島越郎				

授業の概要 生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。取り上げる省略文は以下の二つである。

(1) John loves Mary, and Peter does, too. (2) Bill ate more peaches than Harry did grapes. 省略文 (1) では、動詞と目的語 (love Mary) が省略されており、このような文は動詞句省略文 (VP ellipsis) と呼ばれている。一方、(2) では、動詞 (eat) のみが省略されており、このような省略文は擬似空所化 (pseudo-gapping) と呼ばれている。この授業では、この二つの省略文の類似点と相違点について考えていく。 / 検索キーワード 省略文、動詞句省略文、擬似空所化、生成文法

授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の省略文についての特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表面的な省略文の現象の底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文章で表現できる。

授業の計画 (全体) 動詞句削除文と擬似空所化が示す三つの相違点と一つの類似点について順次考察していく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (1) 内容 動詞句削除文における解釈の多義性について説明する。
- 第 3 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (2) 内容 擬似空所化における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 4 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (3) 内容 動詞句削除文における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 5 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (1) 内容 動詞句削除文における strict/sloppy の読みについて説明する。
- 第 6 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化のその 2：strict/sloppy の読み (2) 内容 sloppy の読みを認可する意味的条件について説明する。
- 第 7 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (3) 内容 擬似空所化における sloppy の読みの可能性について説明する。
- 第 8 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (1) 内容 擬似空所化における逆行削除について説明する。
- 第 9 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (2) 内容 文解析の原理と逆行削除について説明する。
- 第 10 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (3) 内容 動詞句削除文における逆行削除の可能性について説明する。
- 第 11 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (1) 内容 動詞句削除文と擬似空所化における削除問題について説明する。
- 第 12 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (2) 内容 島の効果と削除について説明する。
- 第 13 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (3) 内容 擬似空所化における削除の義務性について説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法 (総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 最新の言語理論の知見をふんだんに盛り込んだ英文法書を丹念に読んでいく。 / 検索キーワード 英文法

授業の一般目標 英語・英文学を専攻した者として恥ずかしくない程度の英文法の知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 学校文法だけでは不十分であった文法知識を補う。 思考・判断の観点： テキストの中の分析法・理論を理解する。 関心・意欲の観点： テキストの中の問題点を発見し、代案を考える。

授業の計画(全体) テキストを精読していく。取り上げるトピックスは「動詞」、「節(補文)」、「名詞と名詞句」、「形容詞と副詞」、「前置詞と前置詞句」、「節(付加詞)」、「否定」、「関係節」、「比較構文」、「等位構造」、「照応」、「屈折形態論」、「句読法」などである。

成績評価方法(総合) 授業時の発表と期末レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書： The Cambridge grammar of the English language, ” Rodney Huddleston, Geoffrey K. Pullum ; in collaboration with Laurie Bauer ... [et al.]”, Cambridge University Press, 2002 年

メッセージ 毎回1章ずつのペースで進むので、予習をしっかりとしておくこと。

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

授業の概要 生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。省略文では、省略された要素が復元できるように同一の要素が文脈に存在しなければいけない。この場合、どのようなメカニズムで復元されるのかを明らかにすることが重要な問題となる。この問題を、動詞句省略文 (VP-ellipsis) と空所化 (gapping) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。 / 検索キーワード 省略文、動詞句省略文、空所化、生成文法

授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の動詞句省略文についての特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書に表現できる。

授業の計画 (全体) 授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Andrew Kehler 2002, Coherence and VP-ellipsis, Coherence and Gapping) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 論文講読
- 第 3 回 項目 論文講読
- 第 4 回 項目 論文講読
- 第 5 回 項目 論文講読
- 第 6 回 項目 論文講読
- 第 7 回 項目 論文講読
- 第 8 回 項目 論文講読
- 第 9 回 項目 論文講読
- 第 10 回 項目 論文講読
- 第 11 回 項目 論文講読
- 第 12 回 項目 論文講読
- 第 13 回 項目 論文講読
- 第 14 回 項目 論文講読
- 第 15 回 項目 論文講読

成績評価方法 (総合) レポートの結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを随時配布する。 / 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	島越郎				

授業の概要 生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。省略文では、省略された要素が復元できるように同一の要素が文脈に存在しなければいけない。この場合、どのようなメカニズムで復元されるのかを明らかにすることが重要な問題となる。この問題を、動詞句省略文 (VP-ellipsis) と空所化 (gapping) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。 / 検索キーワード 省略文、動詞句省略文、空所化、生成文法

授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の動詞句省略文についての特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書に表現できる。

授業の計画 (全体) 授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Andrew Kehler 2002, Coherence and VP-ellipsis, Coherence and Gapping) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 論文講読
- 第 3 回 項目 論文講読
- 第 4 回 項目 論文講読
- 第 5 回 項目 論文講読
- 第 6 回 項目 論文講読
- 第 7 回 項目 論文講読
- 第 8 回 項目 論文講読
- 第 9 回 項目 論文講読
- 第 10 回 項目 論文講読
- 第 11 回 項目 論文講読
- 第 12 回 項目 論文講読
- 第 13 回 項目 論文講読
- 第 14 回 項目 論文講読
- 第 15 回 項目 論文講読

成績評価方法 (総合) レポートの結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを随時配布する。 / 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	皆尾 麻弥				

授業の概要 Vladimir Nabokov の短編を読む。 / 検索キーワード Nabokov

授業の一般目標 ベルリンで亡命生活を送っていた時期に、もともとロシア語で書いていたいくつかの短編を、その英語版で鑑賞する。ナボコフが一つ一つの言葉にこめた意味、思いを大切にしながら読み込むことによって、短編という簡潔にまとまった小さな世界にひそむ多層な世界を発見する。ロシア語の原文も時折紹介しながら、原文と英語版の違い、「翻訳」の問題についても考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 作品の具体的内容を理解する。 思考・判断の観点： 作家が一つ一つの言葉にこめた思いを正確に捉える。英語版とロシア語版を比較し、そこに何らかのずれ（意味合いの違う言葉の使用、省略、追加等）が見つかった場合、そのずれによってナボコフが何を意図しようとしていたのかを考察する。 関心・意欲の観点： ナボコフの作品を積極的に読み、当時の西欧における亡命者社会、文化への関心を持つ。

成績評価方法 (総合) 授業中の発表と試験の結果で成績評価します。

教科書・参考書 教科書： The Stories of Vladimir Nabokov, Vladimir Nabokov, Vintage, 1997 年

開設科目	英米文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	皆尾 麻弥				

授業の概要 Vladimir Nabokov の短編を読む。 / 検索キーワード Nabokov

授業の一般目標 ベルリンで亡命生活を送っていた時期に、もともとロシア語で書いていたいくつかの短編を、その英語版で鑑賞する。ナボコフが一つ一つの言葉にこめた意味、思いを大切にしながら読み込むことによって、短編という簡潔にまとまった小さな世界にひそむ多層な世界を発見する。ロシア語の原文も時折紹介しながら、原文と英語版の違い、「翻訳」の問題についても考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 作品の具体的内容を理解する。 思考・判断の観点： 作家が一つ一つの言葉にこめた思いを正確に捉える。英語版とロシア語版を比較し、そこに何らかのずれ（意味合いの違う言葉の使用、省略、追加等）が見つかった場合、そのずれによってナボコフが何を意図しようとしていたのかを考察する。 関心・意欲の観点： ナボコフの作品を積極的に読み、当時の西欧における亡命者社会、文化への関心を持つ。

成績評価方法 (総合) 授業中の発表と試験結果で成績評価します。

教科書・参考書 教科書： The Stories of Vladimir Nabokov, Vladimir Nabokov, Vintage, 1977 年

開設科目	英米文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 現代英国人作家ウィリアム・ゴールディングの処女作にして代表作である Lord of the Flies (1954) を題材に、小説の批評的な読み方の実例に触れる。単に『蠅の王』という一作品に詳しくなるだけでなく、ここで学んだ読みの方法論を、受講生各自が自分の関心対象とする作品に応用することを期待する。 / 検索キーワード Golding, literary criticism

授業の一般目標 小説鑑賞に必要な感性を磨き、批評実践に役立つ視点や知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 文芸批評に必要な概念や用語を的確に知る。 思考・判断の観点： みずから選んだ文芸作品に対して、習得した批評方法を応用する。

授業の計画(全体) まずは作品を概観。ポイントに関しては、英文を随時参照しながら従来の訳の修正も行い、テキスト理解を深いレベルで徹底する。それから、歴史寓話的な読み、政治寓話的な読み、精神分析的な読み、歴史背景に着目する読み、伝記的な読みなどを順次展開していく。授業のテーマの区切りごとに、簡単な内容確認小テストを行う。

成績評価方法(総合) 小テスト 25% + 期末筆記試験 75%。出席は毎回とって、欠格条件(5回以上の欠席は不可評点)に使用します。

教科書・参考書 教科書：『Lord of the Flies』, William Golding, faber and faber, 2005年; 『蠅の王』, ウィリアム・ゴールディング, 新潮文庫, 1975年; 教科書(洋書 ASIN:0571227678、和書 ISBN:4102146016) 両方とも生協で販売。ハンドアウト・プリントも適宜使います。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 受講生には、第一回講義時に知らせます。

開設科目	英米文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 20 世紀アイルランド人作家 James Joyce の処女作短篇集 Dubliners を全作品解説する。フィクションという手段で時代を書く、社会を書くという営みを高いレベルで達成した作品を、じっくり鑑賞し、的確な批評眼を持つ。 / 検索キーワード Joyce, Dubliners

授業の一般目標 小説鑑賞に必要な感性を磨き、その周辺知識をも習得する手段を知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 文芸批評に必要な概念や用語を的確に知る。 思考・判断の観点： 従来の解釈や説（この講義で披露されるものも含めて）に対し、鵜呑みにせず批評的な判断を下せるようになる。

授業の計画（全体） 短篇集に収められている 15 の作品を、順に取り扱っていく。翻訳書を使つての予習をしておくこと。授業回数は 15 週しかないので、短い作品については 2 本を一回の授業でまとめて扱うこともある。

成績評価方法（総合） 小テスト 25% + 期末筆記試験 75%。出席は毎回とって、欠格条件（5 回以上の欠席は不可評点）に使用します。

教科書・参考書 教科書： Dubliners, James Joyce, Penguin Popular Classics, 2007 年；ダブリンの市民、結城英雄訳, 岩波文庫, 2004 年；教科書（洋書 ASIN:0140622179、和書 ASIN:4003225511）は両方とも生協で購入すること。ハンドアウト・プリントも適宜使います。 / 参考書： 授業中に適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 受講生には、第一回講義時に知らせます。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 現代カナダ人作家 Margaret Atwood の Cat's Eye (1988) を批評的に読む。小説の時制に関する技巧にも留意する。読み終わったら、作品に関する論文文献も読む。

授業の一般目標 小説作品について、専門的な議論をする力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：原文をまず英語として正確に理解する。心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。 思考・判断の観点：作品の訴えかけるものについて、自分なりの批評的所見を形成する。

授業の計画（全体） 輪番で精読・討論する。当番はレジュメを毎回作成。

成績評価方法（総合） 発表の出来具合 + 討論への貢献度。3回以上欠席したら、不可。

教科書・参考書 教科書：Cat's Eye, Margaret Atwood 著, Bantam-Seal, 1989年 / 参考書：参考文献に関してはプリントで配布する。

連絡先・オフィスアワー 受講者には知らせる。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 現代英国作家 William Boyd による日記体小説 Any Human Heart (2002) を読む。20 世紀総ざらえ的な作品なので、時代背景の検討も必須。ただし、受講生の学問的関心に応じて、相談の上で教材をかえることもある。

授業の一般目標 小説作品について、専門的な議論をする力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：原文をまず英語として正確に理解する。心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。思考・判断の観点：作品の訴えかけるものについて、自分なりの批評的所見を形成する。

授業の計画（全体） 輪番で精読・討論する。当番はレジュメを毎回作成。

成績評価方法（総合） 発表の出来具合 + 討論への貢献度。3 回以上欠席したら、不可。

教科書・参考書 教科書：Any Human Heart, William Boyd 著, Penguin Books, 2003 年 / 参考書：評論を読む場合、教官が資料を準備する。

連絡先・オフィスアワー 受講者には知らせる。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 George Eliot の『Silas Marner』、及びこの作品に関する論文を読む。
 / 検索キーワード George Eliot、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 テキストと論文を読む作業を通して、Eliot の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝文学における位置づけを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 一週間に 20 ページのペースで作品を読み進め、読了後これに関する論文を読む。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法（総合） (1) 本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：『Silas Marner, George Eliot, Penguin, 1985 年』 / 参考書：授業の中で紹介する。

連絡先・オフィスアワー ikezono@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 Charles Dickens の『Great Expectations』、及びこの作品に関する論文を読む。 / 検索キーワード Charles Dickens、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 テキストと論文を読む作業を通して、Dickens の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝文学における位置づけを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。 態度の観点： 常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 一週間に 30-40 ページのペースで作品を読み進め、読了後これに関する論文を読む。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法（総合） (1) 本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： Great Expectations, Charles Dickens, Penguin, 1996 年 / 参考書： 授業の中で紹介する。

連絡先・オフィスアワー ikezono@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	皆尾 麻弥				

授業の概要 アメリカの作家 John Updike の小説、Rabbit, Run(1960) を読む。 / 検索キーワード John Updike, 現代アメリカ文学

授業の一般目標 テキストを丹念に読む作業を通して、文学作品を論じる力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代作家の小説を英語で正確に読むことができる。 思考・判断の観点： 作家の言葉選び、細部に常に注意を払い、批評的視点で作品を捉えることができる。

授業の計画(全体) テキストを演習形式で読み進める。受講者は予習して出席し、読みと訳をしてもらう。さらに、気づいた点、気になる点等を毎回まとめておくこと。

成績評価方法(総合) 平常点で評価する。

教科書・参考書 教科書： Rabitt, Run, John Barth, Penguin, 1995 年

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	皆尾 麻弥				

授業の概要 引き続き、アメリカの作家 John Updike の小説 Rabbit, Run (1960) を読む。 / 検索キーワード John Updike, アメリカ文学

授業の一般目標 テキストを丹念に読む作業を通して、文学作品を論じる力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代作家の小説を英語で正確に読むことができる。 思考・判断の観点： 作家の言葉選び、細部に注意を払い、批評的視点で作品を捉えることができる。

授業の計画（全体） テキストを演習形式で読み進める。毎回、気づいた点や気にかかる点等をまとめること。

成績評価方法（総合） 平常点で評価する。

教科書・参考書 教科書： Rabbit, Run, John Updike, Penguin, 1995 年

言語文化専攻 独仏語学文学論

開設科目	ドイツ語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語の諸相について論じていく。

授業の一般目標 ドイツ語に関する言語学的知識が深まっている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の関する言語学的知識が深まっている 思考・判断の観点：ドイツ語に限らず、言語一般について、分析力が増している 関心・意欲の観点：ドイツ語の共時的な研究について、より深い関心を抱いている

授業の計画（全体） ドイツ語学の様々なテーマについて論じていく

成績評価方法（総合） レポートと期末試験による。

開設科目	ドイツ語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語の歴史について概観する

授業の一般目標 ドイツ語の歴史に関する知識が深まっている

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の歴史に関する知識が深まっている 思考・判断の観点：ドイツ語の歴史を学ぶことにより、言語の史的变化というものがどのようなものかを理解することができ、それにより他の言語の歴史を考える際にも応用がきく 関心・意欲の観点：ドイツ語の通時的研究に対する興味が増している

授業の計画（全体）ドイツ語の歴史について、ごく簡単に説明する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 言語の系統、語族
- 第 2 回 項目 言語の系統、語族
- 第 3 回 項目 インド・ヨーロッパ語族、インド・ヨーロッパ祖語
- 第 4 回 項目 インド・ヨーロッパ語族、インド・ヨーロッパ祖語
- 第 5 回 項目 ゲルマン語派、ゲルマン祖語
- 第 6 回 項目 ゲルマン語派、ゲルマン祖語
- 第 7 回 項目 古高ドイツ語
- 第 8 回 項目 古高ドイツ語
- 第 9 回 項目 中高ドイツ語
- 第 10 回 項目 中高ドイツ語
- 第 11 回 項目 初期新高ドイツ語
- 第 12 回 項目 初期新高ドイツ語
- 第 13 回 項目 新高ドイツ語
- 第 14 回 項目 新高ドイツ語
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合）レポートと期末試験による。

開設科目	ドイツ語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 ドイツ語学の専門文献を、論の展開の仕方などに注意しながら、読んで行きます。 / 検索キーワード 専門文献、批判的な読みこなし

授業の一般目標 ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなせる能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . ドイツ語学の専門的知識をさらに深める。 思考・判断の観点： 1 . 論の展開を把握する。 関心・意欲の観点： 1 . 広く言語現象への関心を深める。

授業の計画 (全体) ドイツ語学の文献を要約し、その中で論じられている事柄を確認し、その論の展開に問題がないか批判的に読んで行く。

成績評価方法 (総合) 平素の学習状況 5 割 + レポート 5 割で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。

メッセージ 文章も内容も平易ではないので、十分に予習して授業に臨んでください。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 ドイツ語学の専門文献を、論の展開の仕方などに注意しながら、読んで行きます。 / 検索キーワード 専門文献、批判的な読みこなし

授業の一般目標 ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなせる能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 .ドイツ語学の専門的知識をさらに深める。 思考・判断の観点： 1 .論の展開を把握する。 関心・意欲の観点： 1 .広く言語現象への関心を深める。

授業の計画(全体) ドイツ語学の文献を要約し、その中で論じられている事柄を確認し、その論の展開に問題がないか批判的に読んで行く。

成績評価方法(総合) 平素の学習状況 5 割 + レポート 5 割で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。

メッセージ 文章も内容も平易ではないので、十分に予習して授業に臨んでください。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Hintereder-Emde Franz				

授業の概要 「都会」をモチーフにしている作品や手紙などの資料を対象として、都会の発展、生活感、生活状況の探求と同時に文学のジャンルや描写の変化について考えたいと思う。文学の世界において都会は磁石のようなところであると同時に、都会は文学の重要な主題である。ヨーロッパの啓蒙時代(17世紀後半以降)から大都会と自然の対照が思想・美学・倫理等にわたって論争されてきた。ドイツ文学に留まらず、様々な作品を通じて、都会を考察していく。/検索キーワード 都市文学、自然と文明、進歩主義、文明批判

授業の一般目標 文学作品の時代性やジャンルを把握しながら、特定の文化テーマを追求する読書力を養成する。文学と思想・美学・歴史とのつながりを理解し、必要な知識を得ることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ヨーロッパの文化的な背景を把握することができること。 思考・判断の観点: 原文や周辺資料の解読によって、ヨーロッパの歴史や文化的な実体を理解すること。 関心・意欲の観点: ドイツ語圏の文学への関心をもって、文化的なイメージや文化の現状について学ぶこと。

授業の計画(全体) 「都会」の歴史的や思想的な背景を考察してから、様々なジャンルにわたる文学作品を通じて、文学と都会の多面的かつ厳密な関係を解明していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 講義の進め方や日程、評価について
- 第 2 回 項目 近代の都会文学について 内容 思想・技術等の背景
- 第 3 回 項目 表現主義のベルリン 内容 表現主義の絵画や文学
- 第 4 回 項目 表現主義のベルリン 内容 表現主義の絵画や文学
- 第 5 回 項目 黄金の 20 年代のベルリン 内容 『ベルリン・アレクサンダー広場』 / アルフレート・デーブリン
- 第 6 回 項目 黄金の 20 年代のベルリン 内容 『ベルリン・アレクサンダー広場』 / アルフレート・デーブリン
- 第 7 回 項目 黄金の 20 年代のベルリン 内容 『ベルリン・アレクサンダー広場』映画
- 第 8 回 項目 新世界のマンハッタン 内容 『マンハッタン乗換駅』 / ドス・パッソス
- 第 9 回 項目 新世界のマンハッタン 内容 『マンハッタン乗換駅』 / ドス・パッソス
- 第 10 回 項目 宇宙としての都会、ダブリン 内容 『ユリシーズ』 / ジェイムズ・ジョイス
- 第 11 回 項目 宇宙としての都会、ダブリン 内容 『ユリシーズ』 / ジェイムズ・ジョイス
- 第 12 回 項目 東京・大都会の無意識 内容 『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』 / 村上春樹
- 第 13 回 項目 ベルリン・分けられた空 内容 『ベルリン・天使の詩』 / ヴェンダース / ハントケ
- 第 14 回 項目 分けられた空・ベルリン 内容 映画『ベルリン・天使の詩』
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 1. 文献リストの作品を熟読し、授業に出席すること(10%)、2. 関心を持って質問や意見発言をする(口頭とノート 30%)、3. レポート(60%)

教科書・参考書 教科書: 作品選定: 『ベルリン・アレクサンダー広場』 / アルフレート・デーブリン、『マンハッタン乗換駅』 / ドス・パッソス、『ユリシーズ』 / ジェイムズ・ジョイス、『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』 / 村上春樹。他の資料はコピーで配布する。

連絡先・オフィスアワー mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp, tel/fax: 933-5287, office hour: 月曜日 7・8 時限(14:30~16:00)

開設科目	ドイツ文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Hintereeder-Emde Franz				

授業の概要 「都会」をモチーフにしている作品や手紙などの資料を対象として、都会の発展、生活感、生活状況の探求と同時に文学のジャンルや描写の変化について考えたいと思う。文学の世界において都会は磁石のようなところであると同時に、都会は文学の重要な主題である。ヨーロッパの啓蒙時代(17世紀後半以降)から大都会と自然の対照が思想・美学・倫理等にわたって論争されてきた。ドイツ文学に留まらず、様々な作品を通じて、都会を考察していく。/ 検索キーワード 都市文学、自然と文明、進歩主義、文明批判

授業の一般目標 文学作品の時代性やジャンルの多様性を把握しながら、特定の文化テーマを追求する読書力を養成する。文学と思想・美学・歴史とのつながりを理解し、必要な知識を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパの文化的な背景を把握することができること。 思考・判断の観点：原文や周辺資料の解読によって、ヨーロッパの歴史や文化的な実体を理解すること。 関心・意欲の観点：ドイツ語圏やヨーロッパの文学への関心をもって、文化的なイメージや文化の現状について学ぶこと。

授業の計画(全体) 「都会」の歴史的や思想的な背景を考察してから、様々なジャンルにわたる文学作品を通じて、文学と都会の多面的かつ厳密な関係を解明していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 講義の進め方や日程、評価について
- 第 2 回 項目 18 世紀の都会モチーフ 内容 啓蒙主義の都会像、ルソー等
- 第 3 回 項目 18 世紀の都会モチーフ 内容 啓蒙主義の都会像、ルソー等
- 第 4 回 項目 ヨーロッパの首都パリ 内容 クライストの手紙とロベルト・ヴァルザーのパリ
- 第 5 回 項目 ヨーロッパの首都パリ 内容 パリの生活状況(香水:ある人殺しの物語/パトリック・ジュースキント、『おおいの歴史 - 嗅覚と社会的想像力』/アラン・コルバン)
- 第 6 回 項目 ヨーロッパの首都パリ 内容 パリの原風景/ヴァルター・ベンヤミン
- 第 7 回 項目 ヨーロッパの首都パリ 内容 『マルテの手記』/ライナー・マリア・リルケ
- 第 8 回 項目 産業革命のロンドン地獄(モレク) 内容 ハインリヒ・ハイネ
- 第 9 回 項目 産業革命のロンドン地獄(モレク) 内容 フリードリヒ・エンゲルス、チャールズ・ディケンズ
- 第 10 回 項目 産業革命のロンドン地獄(モレク) 内容 漱石のロンドン体験
- 第 11 回 項目 世界で一番きれいな都市、ベルリン 内容 ドイツ帝国の傲慢
- 第 12 回 項目 世界で一番きれいな都市、ベルリン 内容 森鷗外のベルリン滞在
- 第 13 回 項目 世界で一番きれいな都市、ベルリン 内容 映画『舞姫』
- 第 14 回 項目 世界で一番きれいな都市、ベルリン 内容 ロベルト・ヴァルザーのベルリン描写
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 1. 文献リストの作品を熟読し、授業に出席すること(10%)、2. 関心を持って質問や意見発言をする(口頭とノート 30%)、3. レポート(60%)

教科書・参考書 教科書：作品(選定)：『マルテの手記』/ライナー・マリア・リルケ；『香水：ある人殺しの物語』/パトリック・ジュースキント；『パリの原風景』/ヴァルター・ベンヤミン；イギリス・フランス事情 /ハインリヒ・ハイネ；木庭宏責任編集；『舞姫』森鷗外。他の資料はコピーで配布する。

連絡先・オフィスアワー mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp, tel/fax: 933-5287, office hour: 月曜日 7・8 時限(14:30~16:00)

開設科目	ドイツ文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 バハオーフェン『母権制』を読む。

授業の一般目標 『母権制』を理解する。

成績評価方法 (総合) 期末レポートによる。

開設科目	ドイツ文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 バハオーフェン『母権制』を読む。

授業の一般目標 『母権制』を理解する。

成績評価方法 (総合) 期末レポートによる。

開設科目	フランス語論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本 雅嗣				

授業の概要 フランス語の与格について講義します。

授業の一般目標 フランス語の与格を体系的に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：フランス語の与格を体系的に理解する。 思考・判断の観点：代名詞の与格と前置詞与格の違いを説明できる。

授業の計画（全体） 先行研究を概観したうえで、与格について認知的な観点から分析していく。

成績評価方法（総合） 平常点

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	福島祥行				

授業の概要 「コミュニケーション」ということばは、昨今頻繁に見聞きされるにも拘らず、その本質を定義しようとするや、たちまち、大変な困難に行き当たる。それは単に「コミュニケーション」ということばの指す領域・現象が広範にわたるのみならず、「コミュニケーション」についての思弁・考察が、通り一遍のまま、深められていないことにも起因している。われわれは、日常の会話において、何をわかり、またわかっていないのか。

授業の一般目標 本講義では、その反省に立ち、受講者と共に簡単な会話分析を試みることで、「コミュニケーション」の本質を探りたい。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コミュニケーションとはなにか？
- 第 2 回 項目 シャノン&ウィーヴァーの伝達モデル
- 第 3 回 項目 2つのコミュニケーション・モデル
- 第 4 回 項目 オースチンと言語行為論
- 第 5 回 項目 グライスと会話の協調原則
- 第 6 回 項目 関連性理論
- 第 7 回 項目 ウィトゲンシュタインと独我論
- 第 8 回 項目 2つの独我論モデル
- 第 9 回 項目 ガーフィンケルとエスノメソドロギー
- 第 10 回 項目 サックスと会話分析
- 第 11 回 項目 会話分析の実際
- 第 12 回 項目 構築主義と本質主義
- 第 13 回 項目 「意味」のありか
- 第 14 回 項目 コミュニケーションの可能性について
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：L'Analyse des conversations, V. Traverso, Nathan; コミュニケーションの自然誌, 谷 泰 編, 新曜社; 相互行為分析という視点, 西坂 仰, 金子書房; 会話分析への招待, 好井・山田・西阪 編, 世界思想社; 活動としての文と発話, 串田・他 編, ひつじ書房

備考 集中授業

開設科目	フランス語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本 雅嗣				

授業の概要 フランス語の与格に関する論文を読んでいます。

授業の一般目標 文献講読をとおして、議論の展開の仕方を学んでいく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：フランス語の与格に関する先行研究を理解する。 思考・判断の
 観点：先行研究を批判的に分析する。 関心・意欲の観点：発表を行う。

授業の計画（全体） フランス語の与格に関する主要な文献を読み、批判的に検討していく。

成績評価方法（総合） 発表，レポート。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本 雅嗣				

授業の概要 フランス語の与格に関する論文を読んでいます。

授業の一般目標 文献講読をとおして、議論の展開の仕方を学んでいく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：フランス語の与格に関する先行研究のを理解する。 思考・判断の観点：先行研究を批判的に分析する。 関心・意欲の観点：発表を行う。

授業の計画（全体） フランス語の与格に関する主要な文献を読み，批判的に検討していく。

成績評価方法（総合） 発表，レポート。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 20世紀フランスの実存主義の思想家としても知られる、シモーヌ・ド・ボーヴォワールの長篇小説『他人の血』を読む。この作品をテキストに用いることによって、ボーヴォワールの世界をかいま見たい。単に訳読に終始することなく、作品の分析をこころみることによって、文学作品の研究のしかた、論じ方を学ぶことができればと願っている。

授業の一般目標 上記のように、作品の分析をこころみることによって、文学作品の分析能力を身に付けることができればと願っている。文学作品の研究の際に、何らかの参考になればと願っている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：小説のフランス語の読解力の向上。 思考・判断の観点：文学作品の分析能力の養成。 関心・意欲の観点：ボーヴォワールの文学世界への関心。

授業の計画(全体) 作品は全体として313頁から成り立つ。したがって、全部を読みとおすことは到底不可能である。60頁から成る第1章をできるだけ多く読み進めることを目標とする。1回につき1ページ半あまり読み進みたいと考えている。しかし、あまりあせらず、じっくりとフランス語と作品の内容を検討していきたいと考えている。

成績評価方法(総合) 平常点と学期末レポートとの総合で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：他人の血, ボーヴォワール, 新潮文庫

メッセージ 授業への積極的な参加を望む。

連絡先・オフィスアワー 月曜日14:30 - 16:00 . 613研究室。

開設科目	フランス文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平山豊				

授業の概要 アルベール・カミュの生涯と作品を語る。生い立ちと青少年期を過ごしたアルジェリアの状況と家庭環境と初期作品とのかかわり、それから第二次大戦前後のフランスの困難な状況と創造の営みとのかかわりを述べる。

授業の一般目標 文学を単に個々の作家の個性の発現としてのみ捉えるのではなく、時代の精神風土と密接に絡み合った流れやうねりとして理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：それぞれの作品に於ける内容や表現法の理解 思考・判断の観点：作家の哲学や思考を辿り、評定する。 関心・意欲の観点：異なった国や風土、文化に関心を寄せる。

授業の計画（全体） 1．初期エッセイと地中海世界の文化伝統 2．不条理の哲学と『シーシュポスの神話』、『異邦人』 3．連帯を目指しての作品とレジスタンス 4．孤立と、順次講じていく。

成績評価方法（総合） レポート 70% 授業参加度 30%

教科書・参考書 教科書：時にプリント配布 / 参考書：その都度適宜指示

開設科目	フランス文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

授業の概要 創造的意識の批評家ジョルジュ・プーレの名著『人間的時間の研究』の中から幾編かを選んで熟読する。

授業の一般目標 生の空間、時間意識と想像力の交錯する場に文学創造の秘密を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：凝縮したフランス語表現の解読 思考・判断の観点：著者及び作者の意識や思考への参入

授業の計画（全体）上記著書の中から Racine, Stendhal, Marcel Proust 等の各編を選び、代表的作品を参照しながら熟読する。

成績評価方法（総合）レポート 70% 授業参加度 30%

教科書・参考書 教科書：Etudes sur le temps humain, Georges Poulet, Editions du Rocher, 1968 年；
プリント配布 / 参考書：その都度適宜指示

開設科目	フランス文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 ヌーヴェル・クリティツクの大家、ジョルジュ・プーレの代表的作品『批評的意識』をテキストに用いる。この作品をテキストに用いることによって、文学研究とは何か、文学作品を批評することとは何か、を学びたい。

授業の一般目標 論文のフランス語の読解力の向上を目指す。あわせて、文学研究のための手がかりを得る。

授業の計画(全体) テキストは全体として315頁から成るので、全部を読むことは、到底不可能である。1回の授業につき、1頁半余り読みすすめることで、できるだけ多くのテキストを読みたいと思っている。

成績評価方法(総合) 原則として、平常点で評価する。しかし、場合によれば、簡単なレポートを作成してもらおうかもしれない。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。/ 参考書：授業中、適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的な参加を希望する。

連絡先・オフィスアワー 613研究室、月曜日14時30分～16時00分まで。

言語文化専攻 言語学・言語情報論

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 日本語、その他の言語の連体修飾構文を比較対照する。その他の言語としては、英語がおもで、タガログ語、インドネシア語、韓国語、中国語を参考程度に考慮する。前期は、英語、日本語で書かれた連体修飾関係の論文を読む。連体修飾構造というと分かりにくい、英語では関係節構文と考えればよい。 / 検索キーワード 関係節、連体修飾、言語類型。

授業の一般目標 関係節や関係代名詞といえば、馴染みが薄い、これを連体修飾と置き換えればすぐ身近なものになる。ここでは、この構文についてその類似点、相違点などについて考察する。そしてその構造について言語学的に接近する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書を読んで理解できること。 思考・判断の観点：科学的に考察できること。問題点を正しく把握できること。 関心・意欲の観点：日本語だけでなく、英語をはじめとするその他の言語の連体修飾構文にまで興味が広がるように。 技能・表現の観点：考えた事を第三者に分かるように文章化する。

授業の計画(全体) 先ず日本語の連体修飾構文について、教科書を中心に理解する。次に言語類型論的観点から入門書を読む。前期では、この構文にも言語によって変異があることを理解する。

成績評価方法(総合) 学期末試験を中心にする(70%)。授業外レポートと授業への参加状況(30%)。

教科書・参考書 教科書：An introduction to Japanese linguistics, Tsujimura, Natsuko, Blackwell, 1996年；Introduction to typology, Whaley, J. L., SAGE, 1997年；日本文法研究, 久野, 大修館, 1973年

メッセージ 予習して出席すること。講義に出て話を聞き、そこで理解できれば講義の目は達成できたことになる。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 後期は、関係節構文における言語による変異に焦点をあて、この変異の由来を理論的に検証する。具体的には、修飾構造と非修飾語の間の統語的、語用論的關係について考察する。 / 検索キーワード 関係節、連体修飾、統語論、語用論

授業の一般目標 データの提示能力と分析能力の向上を図る。その結果をどう整理して論文化するかを訓練する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストを読んで、理解できること 思考・判断の観点：科学的に考察できること。 関心・意欲の観点：日本語についてだけでなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構造にまで関心を広げられるか。 態度の観点：積極的に授業に参加し、自身の見解を述べること。

授業の計画（全体） 授業概要で述べた項目について理解が得られたかどうかを確認しながら、次の項目に進んでいく。講義で使う論文を講義前に読んでくることが前提であり、毎回の講義で内容の理解を図る。

成績評価方法（総合） 内容についてのレポートを2回程提出してもらう（30%）。更に学期末試験を行う（70%）。

教科書・参考書 教科書：日本語の分析と、影山太郎、岸本秀樹（編），くろしお出版，2004年

メッセージ 予習をしていくことが前提。質問をして内容をその講義の中で理解すること。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun level 6, 617

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中川裕				

授業の概要 アイヌ語の文法構造について、その文化的な背景とともに学ぶ。アイヌ語は日本固有の言語のひとつであるが、日本人の大多数はその存在すら意識していないか、日本語の一方言だと考えている。しかし、アイヌ語は日本語となんら系統関係がないばかりか、文法構造において日本語とは大きく異なった言語である。この授業では、音声教材や映像教材を使いながら、アイヌ語文法の概要を学び、言語類型論的な観点からその特徴について検討する。また言語構造だけではなく、それが表現してきた伝統文化や世界観についても基礎的な知識を得られるようにする。

授業の一般目標 アイヌ語は日本の固有語のひとつであり、日本語とは全く異なる言語でありながら、そのことを知る日本人は少ない。日本に住み言語学に関心のある者ならば、必ず基礎的な知識を持っておかなければならない言語である。この授業では、どのような点で日本語と異なり、また言語としての共通性を見せるのかということに重点を置き、その言語学的な特質を理解することを目標とする。また、言語を文化と切り離して論じるのは、その話し手の存在を無視した形で言語を論じることになるが、それは真に言語を理解することにはならない。言語は文化と一体のものであることを、語の意味や口承文芸のテキスト分析などを通じて理解することを、もうひとつの目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： アイヌ語は日本の言語であり、アイヌ民族は日本列島に古くから住み、「日本人」とさざまざな形で交渉を持ちながら、独自の文化を築きあげてきた人々である。それが独自のものであるということは、言語を知ることによって端的に理解しえる。そのために、アイヌ語の文法的特徴である人称、所有表現、場所表現、語形成法について理解する。その一方で、言語としての普遍的な現象の表れを、日本語と対比しながら理解する。 **関心・意欲の観点：** 日本文化とは何か、日本人とは何か、日本語とは何か、という基本的な問題を所与のものとして考えず、日本が多様な文化・言語・エスニシティによって構築されているのだということを知り、それに関心を抱くことを目標とする。

授業の計画 (全体) 1. 分布・系統。2. 音韻構造。3. 語順・基本的な文型。4. 人称表示。5. 所有表現。6. 場所表現。7. 語形成法。8. 伝統的生活と世界観。9. 口承文芸。

成績評価方法 (総合) レポート。知識・理解で 60%、関心・意欲で 40%。授業で話したことをそのまま書くのではなく、それをどう発展して自分の問題として考えていくかという観点から評価を行う

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：エクスプレスアイヌ語, 中川裕・中本ムツ子, 白水社, 1997年; 世界の言語ガイドブック 2, 東京外国語大学語学研究所, 三省堂, 1998年; 言語学大辞典セレクション 日本列島の言語, 亀井孝他編, 三省堂, 1997年; アイヌ語をフィールドワークする, 中川裕, 大修館, 1995年; アイヌの物語世界, 中川裕, 平凡社, 1997年

備考 集中授業

開設科目	言語構造論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には様々な言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、言語類型論関連の主要文献を読みながら、広くいろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えていきます。前期は「音韻体系」について取り上げます。

授業の一般目標 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 言語の類型化について理解を深める。 3. 音韻論の基本的な考え方について理解を深める。

成績評価方法 (総合) 出席点。テスト。

教科書・参考書 教科書：配付資料は適宜用意します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には様々言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、言語類型論関連の主要論文を読みながら、いろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えていきます。後期は「格組織」を取り上げます。

授業の一般目標 1 . 言語の多様性について理解を深める。 2 . 言語の類型化について理解を深める。

成績評価方法 (総合) 出席点。発表。テスト。

教科書・参考書 教科書： 配付資料は適宜用意します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 言語学の基本的な概念の理解と確認の意味。受講者があるかどうか分からないので、受講者がある場合、相談の上でどういう論文、著書を読むか相談する。 / 検索キーワード 言語学、音韻論と音声学、統語論、語用論

授業の一般目標 言語学の基礎が出来ているかを確認し、その上で、自分で研究テーマを具体的に設定できるように指導する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究の現状を理解する。 思考・判断の観点： 言語現象の背後にあると思われる規則性、一般原理を発見すること。 態度の観点： 受講生が自ら問題点を見付けること。
技能・表現の観点： 自らの思考過程を第三者にどのように説明したら理解してもらえるのか工夫しながら、記述すること。

授業の計画（全体） 内容をどの程度理解しているか確認しながら、すすめる。従って受講者の主体的研究が要求される。

成績評価方法（総合） 受講生の毎回の学習内容によって評価する。

連絡先・オフィスアワー Mail Address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 言語学の基本を理解しているか確認しながら、その積み上げとして、受講者の自主性を重視した演習としたい。後期は、ただ単に読んで理解するばかりではなく、問題点を見つけ出せるか、その問題点をどう処理するかに重点を置く。 / 検索キーワード 音声学、音韻論、形態論、統語論、語用論

授業の一般目標 後期は、受講者が問題点を見付けだしそれを言語学的に解明すること、それを論文化する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究の現状を理解する。 思考・判断の観点： 問題に対して、言語学的に妥当な解決策を提示できるか。 関心・意欲の観点： 一つの問題を継続的に研究する意欲。 態度の観点： 問題の発見、その解決方法、文章化することに対して自主的に取り組むこと。 その他の観点： オリジナリティーが見られるか。

授業の計画（全体） 毎回、受講生とのディスカッションによって進めていく。従って受講生には演習に必要な内容を調べてくることが要求される。

成績評価方法（総合） 毎回の演習の平常点のみによって評価する。

連絡先・オフィスアワー Mail Address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun # 617

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 言語学に関する論文を読みます。

授業の一般目標 修士論文を書くための演習である。

授業の計画(全体) 受講生の研究テーマについて、毎回発表形式で行います。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方
- 第 2 回 項目 演習 1
- 第 3 回 項目 演習 2
- 第 4 回 項目 演習 3
- 第 5 回 項目 演習 4
- 第 6 回 項目 演習 5
- 第 7 回 項目 演習 6
- 第 8 回 項目 演習 7
- 第 9 回 項目 演習 8
- 第 10 回 項目 演習 9
- 第 11 回 項目 演習 1 0
- 第 12 回 項目 演習 1 1
- 第 13 回 項目 演習 1 2
- 第 14 回 項目 演習 1 3
- 第 15 回 項目 演習 1 4

成績評価方法(総合) 発表。レポート。

教科書・参考書 教科書：テキストをコピーで配布します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 言語学に関する論文を読みます。

授業の一般目標 修士論文を書くための演習である。

授業の計画(全体) 受講生の研究テーマについて、毎回発表形式で行ないます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方
- 第 2 回 項目 演習 1
- 第 3 回 項目 演習 2
- 第 4 回 項目 演習 3
- 第 5 回 項目 演習 4
- 第 6 回 項目 演習 5
- 第 7 回 項目 演習 6
- 第 8 回 項目 演習 7
- 第 9 回 項目 演習 8
- 第 10 回 項目 演習 9
- 第 11 回 項目 演習 1 0
- 第 12 回 項目 演習 1 1
- 第 13 回 項目 演習 1 2
- 第 14 回 項目 演習 1 3
- 第 15 回 項目 演習 1 4

成績評価方法(総合) 発表。レポート。

教科書・参考書 教科書：テキストをコピーで配布します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	堀江薫				

授業の概要 この授業では、世界の言語の多様性(バリエーション)と共通性(ユニバーサル)の両面をとらえようとする「言語類型論」という学問分野を分かりやすく説明します。この授業を通じて、参加者の方が自分の母語や、学んでいる外国語の特徴を、世界の言語の構造的なタイプの中で位置づけて理解できるための基礎的知識を提供することを目指します。

授業の一般目標 この授業では、世界の言語の多様性(バリエーション)と共通性(ユニバーサル)の両面をとらえようとする「言語類型論」という学問分野をわかりやすく説明し、参加者の方が自分の母語や、学んでいる外国語の特徴を、世界の言語の構造的なタイプの中で位置づけて理解できるための基礎的知識を身につけることを目的とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語の構造的な分類(タイポロジー)とそれぞれのタイプの間の相違、また同じタイプに属する言語の中でのバリエーション、さらに世界の多くの言語で見られる共通的な傾向を具体的な言語現象の例に基づいて正しく理解することを目指します。 思考・判断の観点：言語の構造的な分類と言語間の共通性の観点から、母語や学んでいる外国語の特徴を分析し、母語と外国語の類似点・相違点を正しく理解できるようになることを目指します。

授業の計画(全体) (I) 最初に言語の構造的タイプの分類(タイポロジー)と言語間の共通性(ユニバーサル)の概念について概説します。(II) 日本語、英語といったなじみの深い言語から、他のアジア言語、さらによりなじみの薄い世界の言語の具体的な言語現象の例をもとに言語の構造的タイプ、言語間の共通性、同じタイプに属する言語間のバリエーションなどを分かりやすく解説します。(III) 言語の特徴の地理的分布を示すための言語構造地図(Atlas of language structures)を示します。(IV) 言語の類型、共通性と、言語以外の要因(認知・文化・コミュニケーション等)の相互関係について解説します。

成績評価方法(総合) 毎回の授業への参加(20%)と、レポート(80%)を総合して評価します。

教科書・参考書 教科書：初回でプリントを配布し、それを使用します。 / 参考書：言語類型論入門, リンゼイ・J・ウェイリー, 岩波書店, 2006年; 世界の言語と日本語, 角田太作, くろしお出版, 1992年; 言語普遍性と言語類型論, バーナード・コムリー, ひつじ書房, 1992年; The World Atlas of Language Structures, Haspelmath, M. et al., Oxford University Press, 2005年

連絡先・オフィスアワー 毎時間の講義終了後に質問、相談がある場合に行います。

備考 集中授業

開設科目	言語情報論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 This course is an introduction to Morphology - the structure of words

授業の一般目標 An understanding of the basic techniques of morphological description from a computational linguist's point of view.

授業の計画 (全体) We shall use the formalism of Paradigmatic Morphology to describe the internal structure of words - inflexions, derivations, compounding, etc. Examples will be from English and other languages.

成績評価方法 (総合) Assessment will be by one practical assignment: a morphological analysis

教科書・参考書 教科書：自然言語処理の基礎, 吉村賢治, サイエンス社, 2000 年; 吉村賢治 (著) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000 年 / 参考書：Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000 年; 必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 This course is an introduction to Syntax - the structure of sentences

授業の一般目標 An understanding of the basic techniques of describing the grammar of a language from a computational linguist's point of view.

授業の計画 (全体) The words of a Language are put together in fixed patterns to make sentences. We shall look at some common English and Japanese patterns, and at how they are described and analysed in two popular theories of grammar: categorial grammar and phrase-structure grammar.

成績評価方法 (総合) Assessment will be by one practical assignment: a syntactic analysis.

教科書・参考書 参考書: Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000 年; 必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	菊澤 律子				

授業の概要 文献資料のない言語を対象とした比較(歴史)言語学的研究では、現在話されている言語の単語や文法構造を比較することで言語変化の過程を再建し、そこに映された人びとの歴史(先史)を解明しようと試みる。本講義では、太平洋地域とマダガスカルで話される「オーストロネシア諸語」を対象に、代名詞の体系の歴史的変遷、語彙の比較に基づく有用植物の利用、能格から対格への文法変化など、最新の研究トピックをいくつか選び、語彙や文法変化再建の手法の説明や理論的背景など比較言語学の基礎的な知識を織り込みながら紹介する。

備考 集中授業

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 This is a beginners' course in computer programming using the programming language Prolog. Prolog is a programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical premisses; running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language.

授業の一般目標 プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

授業の計画 (全体) Week by week we will introduce the basic techniques of Prolog programming and practice using them.

成績評価方法 (総合) 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

教科書・参考書 教科書：岡田朋子(著)「Introduction to Prolog Prolog 入門」(授業で配布します。)/ 参考書：PROLOG を楽しむ, 松田紀之著, オーム社, 1993 年; 記号の世界(コンピュータ入門; 5. 楽しいプログラミング; 2), "中島秀之, 上田和紀著", 岩波書店, 1992 年; Prolog 入門, 古川康一著, オーム社, 1986 年; Prolog のソフトウェア作法(岩波コンピュータサイエンス), 黒川利明著, 岩波書店, 1985 年; 松田紀之(著)「PROLOG を楽しむ」オーム社 平成 5 年 中島英之・上田和紀(著)「楽しいプログラミング II」岩波新書 1992 古川康一(著)「Prolog 入門」オーム社 1986 黒川利明(著)「Prolog のソフトウェア作法」岩波新書 1989

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 Advanced programming in Prolog (NOT for beginners)

授業の一般目標 プロログプログラミング、- implementation of larger programming projects.

授業の計画 (全体) Natural language programming in Prolog. Three projects: (1) analysis and translation of English and Japanese numbers (2) holding a conversation with the computer in English (3) translation between English and Japanese.

成績評価方法 (総合) 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

教科書・参考書 教科書：岡田朋子(著)「Introduction to Prolog Prolog 入門」(授業で配布します。)/ 参考書：PROLOG を楽しむ, 松田紀之著, オーム社, 1993 年; 記号の世界(コンピュータ入門; 5. 楽しいプログラミング; 2), "中島秀之, 上田和紀著", 岩波書店, 1992 年; Prolog 入門, 古川康一著, オーム社, 1986 年; Prolog のソフトウェア作法 (岩波コンピュータサイエンス), 黒川利明著, 岩波書店, 1985 年; 松田紀之(著)「PROLOG を楽しむ」オーム社 平成 5 年 中島英之・上田和紀(著)「楽しいプログラミング II」岩波新書 1992 古川康一(著)「Prolog 入門」オーム社 1986 黒川利明(著)「Prolog のソフトウェア作法」岩波新書 1989

メッセージ 授業では英語をよく使う。

人文科学研究科 各専攻共通科目

開設科目	比較文学論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 講義題目を「高橋たか子とフランス文学」とする。高橋たか子は、現在、日本の代表的なカトリック作家であるが、フランス文学、特に、フランソワ・モーリアックの文学から影響を受けて、作家として出発をした。そこでまず、モーリアックの傑作である『テレーズ・デスケルー』を取り上げ、分析をこころみる。このあと、高橋たか子の最初の書き下ろし長編小説である『空の果てまで』と、受洗をはさんで制作された『誘惑者』を問題にし、この二つの小説を『テレーズ・デスケルー』と比較しながら読解する。この作業の中で、高橋がモーリアックだけではなく、サドからも影響を受けていることが明らかになるだろう。高橋はサド的なものをうちにかかえて文学的営為をおこなってきたのである。さいごに、カトリックに回心したあとに書かれた『装いせよ、わが魂よ』を取り上げ、高橋たか子がほんとうの意味で、サドと訣別したかどうかを考察したい。なお、この授業は学部「フランス文学特殊講義」と共通の授業であるが、フランス語は原則として用いない。 / 検索キーワード 情熱、悪、他者。

授業の一般目標 モーリアックと高橋たか子との比較をおこなうので、文学研究のひとつの手段である比較研究のやり方を学ぶことができると願っている。また、フランスと日本のキリスト教文学がどういうものであるのか、具体的に知ってもらいたいと思っている。さらにキリスト教あるいはサドの文学にアプローチすることで、生きる指針を得ることができれば幸いである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 比較文学の研究方法が学べる。キリスト教文学がいかなるものであるのかを知ることができる。 思考・判断の観点： 何が善で、何が悪であるのかを、思考・判断することができる。また、ひとり人間として生きることが何であるのかを、考えることができる。

授業の計画（全体） 概要のところでも述べたように、まず、モーリアックの『テレーズ・デスケルー』の分析をこころみ、次に、高橋たか子の『空の果てまで』『誘惑者』の読解を、『テレーズ・デスケルー』との比較のもとにおこなう。そのあと、『装いせよ、わが魂よ』を取り上げ、高橋がほんとうの意味でサド的なものと訣別したかどうか、を考察する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと『テレーズ・デスケルー』の分析
- 第 2 回 項目 『テレーズ・デスケルー』の分析
- 第 3 回 項目 同上
- 第 4 回 項目 『空の果てまで』と『テレーズ・デスケルー』との比較
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 『誘惑者』と『テレーズ・デスケルー』との比較
- 第 8 回 項目 同上
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 『装いせよ、わが魂よ』の検討
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 同上
- 第 15 回 項目 同上

成績評価方法（総合） 試験またはレポートの成績（70%）と平常点（30%）との総合で評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。 / 参考書： 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 613 研究室、月曜日 14:30 ~ 16:00 .